

518
75

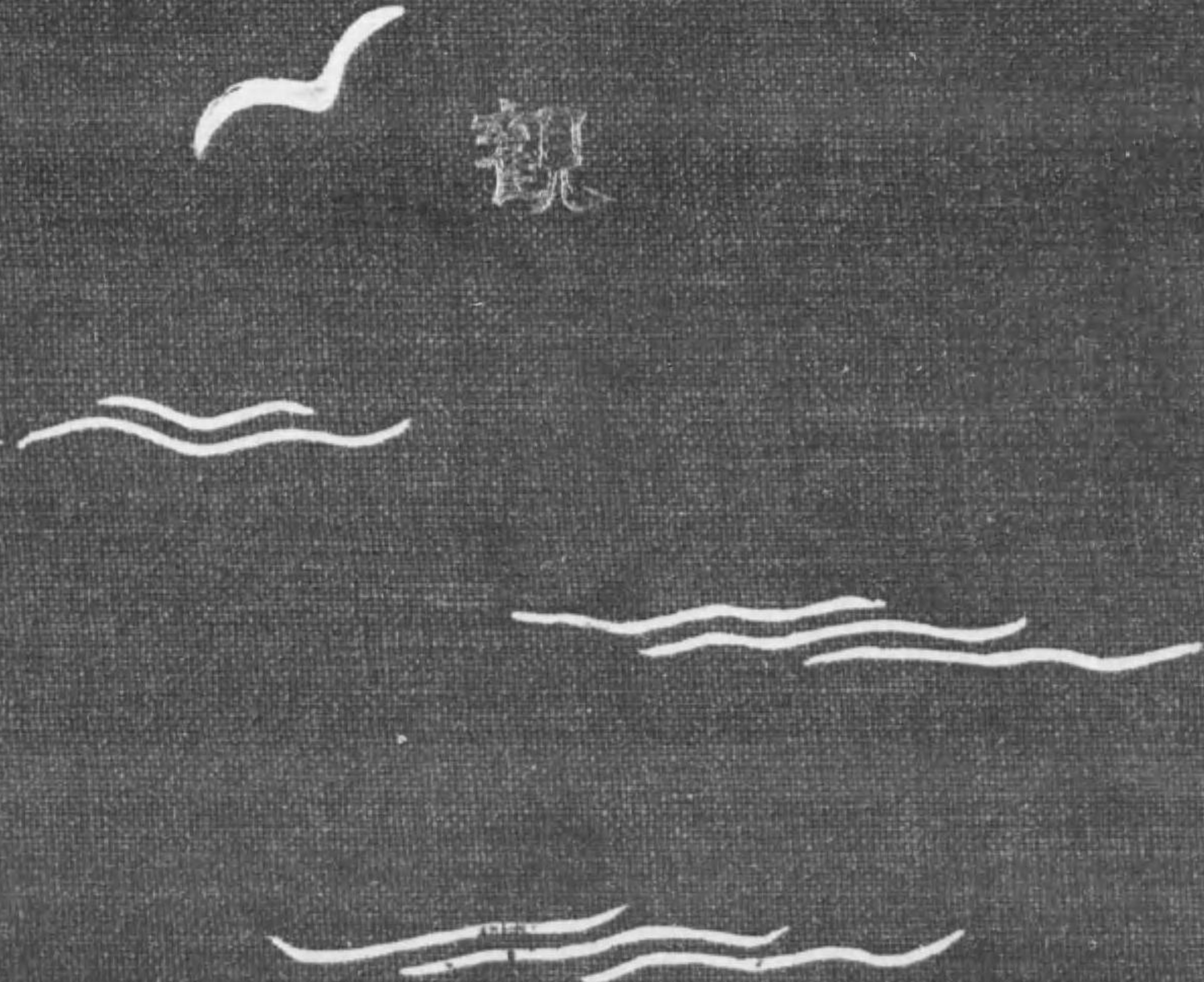
9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁹ 1 2 3 4 5

始



518
75.

神戶港大観





港大觀

神戸市設所

大正
14. 11. 10
内交

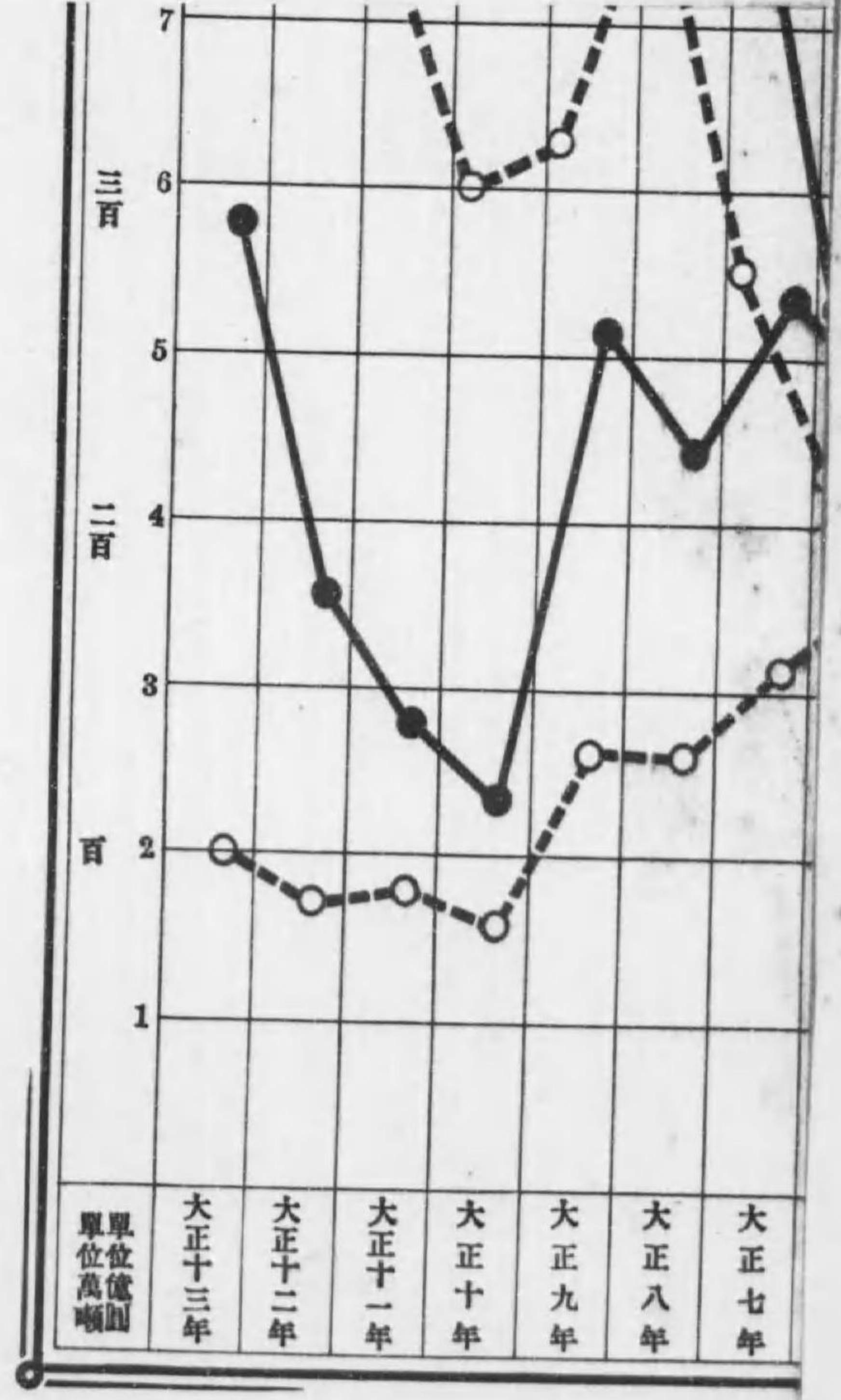
518-75

緒言

本書は主として大正十三年中に於ける神戸港の統計調査を叙述したるものにして、蕪辭其の意を盡さざる所あるも、復以て關係者の参考たらむ乎。幸に一讀を乞ふ。

大正十四年九月

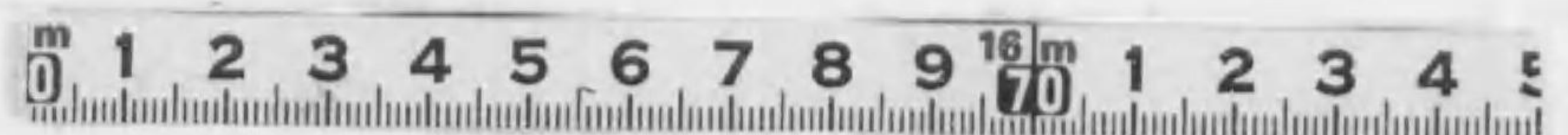
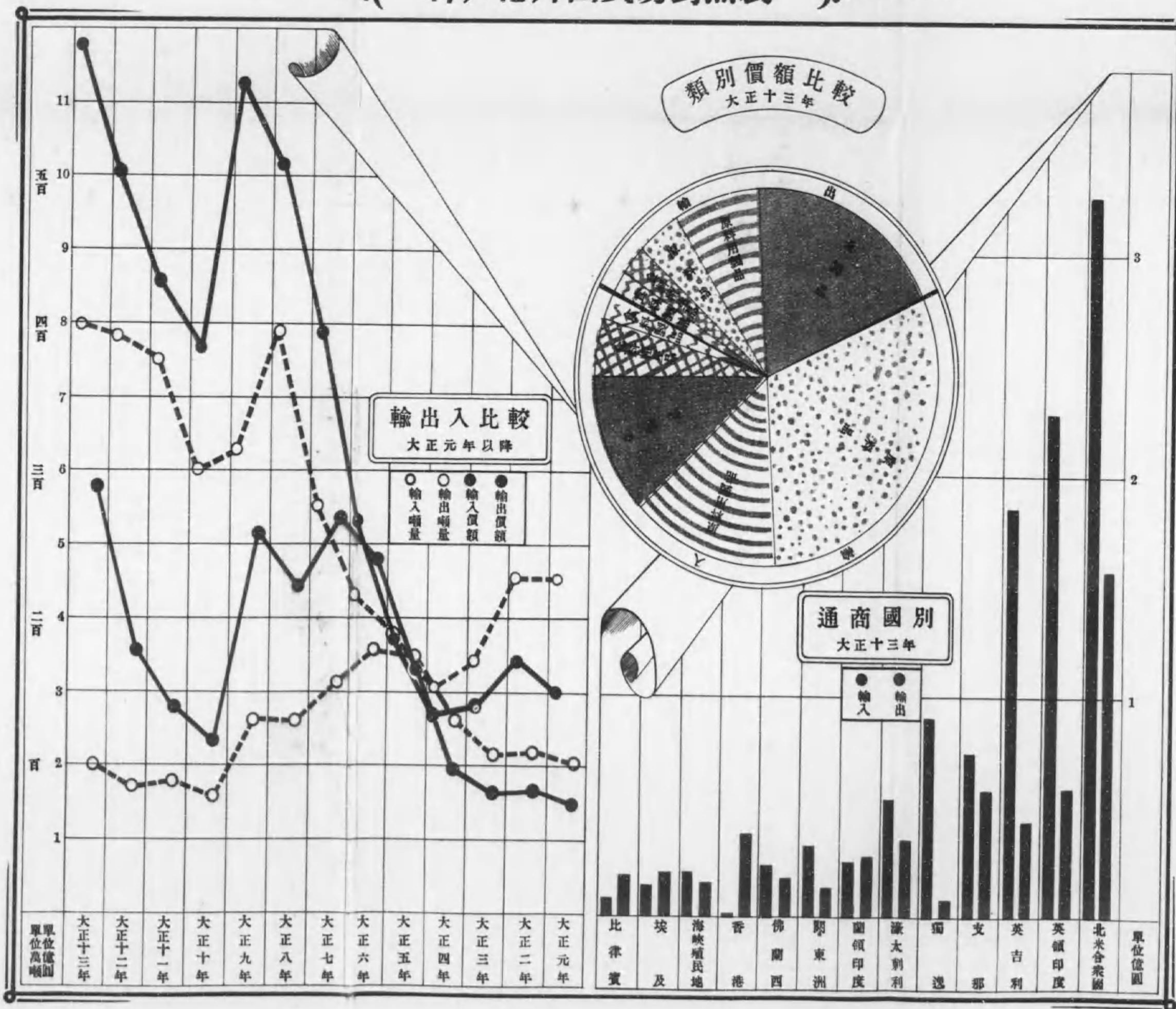
神戸市港灣部



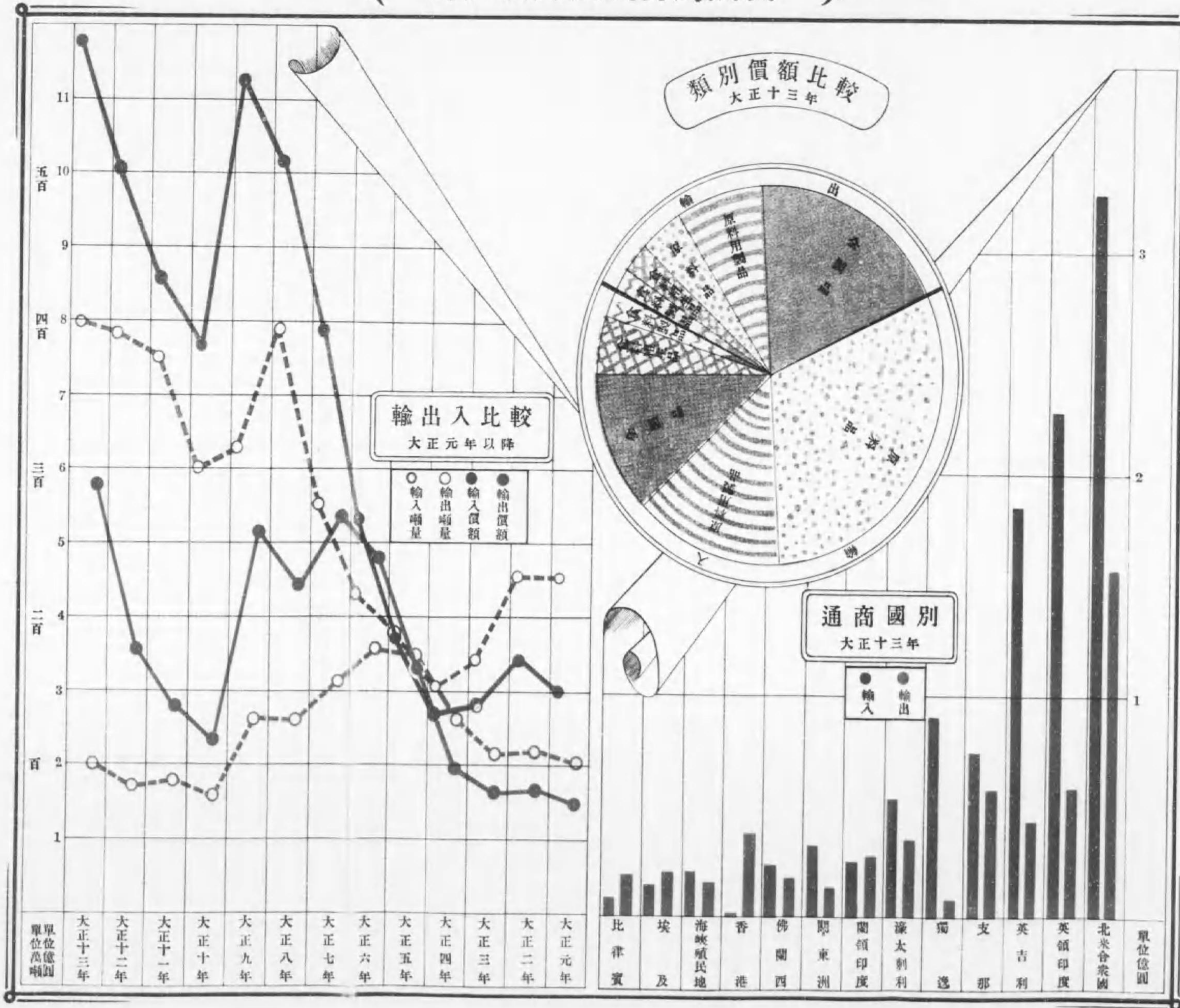
單位億圓
單位萬噸

大正十三年
大正十二年
大正十一年
大正十年
大正九年
大正八年
大正七年

神戸港外國貿易對照表

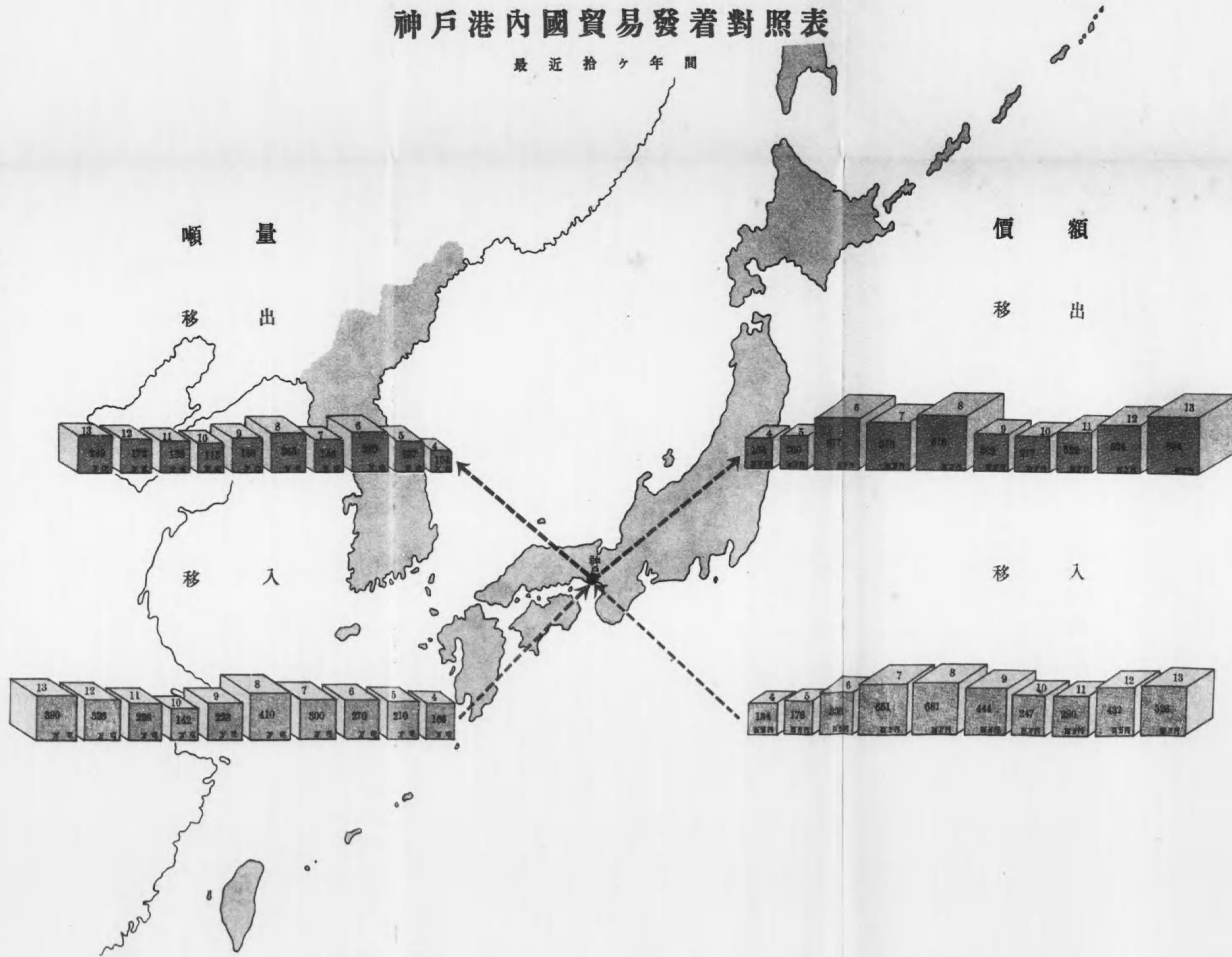


（ 神戸港外國貿易對照表 ）



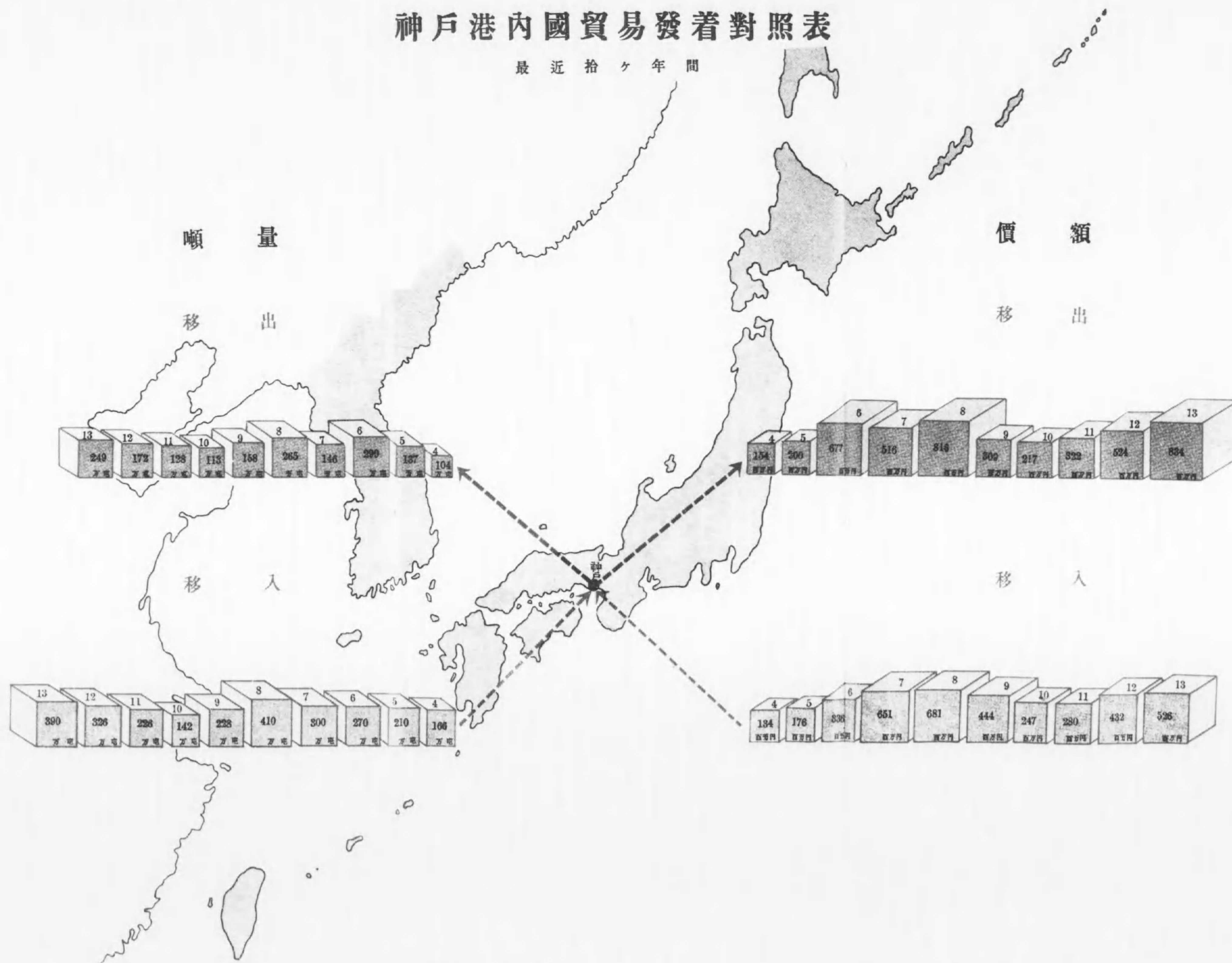
神戸港内國貿易發着對照表

最近拾ヶ年間



神戸港内國貿易發着對照表

最近拾ヶ年間



神戸港大観

目次

第一章	沿岸利用状況	一
第二章	荷役状況と船車聯絡	九
第一節	荷役状況	九
第二節	船車聯絡	六
第三章	運河	九
第一節	市營後の收支と入津舟筏	九
第二節	廻旋橋廻旋の状況	元
第四章	船舶	三
第一節	沿岸通航船の觀察	三

第二節 最近外國貿易船の觀察……………

〔附〕 神戸港船舶調査成績……………

第五章 貨物……………

第一節 外國貿易……………

第一款 外國貿易概観……………

第二款 輸出入品價額及數量……………

第三款 輸出入品の變遷……………

第四款 通商國の變遷……………

第五款 仲繼貨物……………

第二節 內國貿易……………

第一款 荷役場の設備と利用の狀況……………

第二款 內國貿易に於ける神戸港の地位……………

第三款 內國貿易概観……………

第四款 內國貿易と地方別との關係……………

第五款 沿岸貿易……………

四

元

五

五

五

六

六

七

七

七

九

一〇

二

二

九

第三節 朝鮮貿易……………

第六章 倉庫……………

第一節 普通倉庫及出入貨物……………

第二節 保税倉庫及出入貨物……………

第三節 假置場及移出入貨物……………

第四節 上屋及出入貨物……………

第七章 陸運の概況……………

第一節 汽車……………

第二節 電車……………

第八章 金融の概況……………

第一節 銀行……………

第二節 神戸手形交換……………

第九章 物價の概況……………

第十章 氣象及潮位……………

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

二六

目次	
第一節 氣象	四
第二節 潮位	一六
「附」國產波止場	一九
第一節 國產波止場の由來	一九
第二節 旅客棧橋の由來	二〇
第三節 國產波止場の現況	二四

寫真版

- 築港第二期工事濱邊通埋立地現況
- 築港第二期工事兵庫突堤埋立地現況
- 運河浮橋
- 苅藻島現況
- 外國貿易埋立地先繫船荷役
- 內國貿易島上繫船荷役
- 國產波止場棧橋繫船狀況

國產波止場荷役狀況

圖表

- 神戸港外國貿易對照表
- 神戸港內國貿易發着對照表
- 運河平面圖
- 神戸港入港船舶及重要輸出入品比較表
- 國產波止場平面圖

神戸港大観

第一章 沿岸利用状況

當港の沿岸利用は貿易港たる關係上、完膚なき迄に仕盡され、海に接する處即ち荷揚場といふの觀あり。従つて沿岸に餘地なきは言を俟たずして、倉庫又は上屋の所狭き迄に建設せられたるを見る。然し乍らこの盛況は舊神戸港界線裡のことにして、本年四月新に擴張せられたる武庫郡西灘方面は尙港灣の設備を缺けるを遺憾とすべし。この外當市に兵庫新川及運河あり、新川は延長六九八間、其の海岸線一、三九六間にして、運河は延長一、四一五間、其の海岸線二、九三〇間とす。何れも營業者に利用せられ、帆解船相衝みて夜をついで荷役せるの狀態なり。

沿岸の利用は主として荷役場たれども、當港には我國造船界の權威たる川崎三菱の兩造船所あり、其他にも工場處々に點在せるを以て、工場地先及工場荷揚場等あるを忘るべからず。

(一) 荷揚場 荷揚場と稱し得るは公共用たるに専用たるに係はらず、棧橋繫船柱等若干の荷揚設備をなし、繫船荷役をなし得るものを指せども、當港の如きは完備せる税關突堤の巨船横付となるものより、運河方面の不備なる護岸壁に至るまで、其施設の整否に非常の軒輊あるを免れず。之等を通観する時は港内荷役場の總延長四、九四二間、兵庫新川及運河方面一、七〇〇間、二合計六、六四二間六に上るべし。其の中共同荷揚場と稱し得るは島上町海岸一帯一七九間、國産波止場二五六間、五音合港二二五間、五鈴木港灣二五八間、六兵庫新川及運河方面三二三間、五を主なるものとし、其の合計一、三三一間六たり。其中島上町海岸一帯は内國貿易の荷捌所として國産波止場と共に双び立ち、大阪商船株式會社、大王運輸合資會社の兩棧橋ありて沿岸通航船一タ年に約四千隻の出入する以外に附近に解船の往來繁く、朝鮮方面よりの發動機船も夥しく、又國産波止場は棧橋及突堤ありて荷役に申分なければ常に解船の密集を見、且大阪商船株式會社内航部、尼崎汽船部、上組、太平洋社等の定期航路船の發着點たり。この地にて取扱はるゝ貨物噸量約六十九萬五千餘と算せらる。音合港及鈴木港灣は共に湛保にして帆船のみ出入するに過ぎざれば、其工場地帯を控ふるを以て石炭煉瓦

瓦、砂利、石材、木材、油脂及鐵材等主として工場材料を移入す。尙ヅアキエームオイル、コレパニ一の保税倉庫の外二三の普通倉庫あれ共舉ぐる程ならず。運河方面は數多きも大なるものなく、主として材木及雜穀類の揚卸に使用せらる。其他の五、三一一間は専用にして、其大なるものを舉ぐれば税關を以て第一とし、其中第一乃至第四突堤二、〇一一間より、第一波止場二九九間、第二波止場二七七間、第三波止場六七間、六川崎波止場一八六間、二に至るまで、併せて二八四〇間あり、電氣、蒸氣、手動式起重機三十四臺を設備し荷役に便せり。其他は三菱倉庫前六三〇間、東神倉庫前二〇七間、住友倉庫前一〇二間及鐵道省の小野濱驛一〇〇間、神戸驛一〇〇間、和田岬驛三八間、新川驛三〇間、之に附隨せる起重機四臺等にして、この外兵庫新川及運河方面に一、三七六間七あるも大體短小の地域にして、たゞ日清製粉株式會社前九二間、瀧川商事株式會社木材置場前六一間、日本木材株式會社前五七間、鈴鹿商店倉庫部前四四間、神戸果實青物市場前六〇間、鞆本運送店前八〇間、宮下木材株式會社前五九間、五等を以て比較的大なるものとし、各其の所要材料の荷役に供せらる。

(二) 工場荷揚場 此は荷揚場が工場内に在る關係上特にかく名づけたるもの

にして、本来一般荷揚場と何等異なるに非ざるなり。而も本港には海に接する工場多きを以て、比較的其の數量多く、三菱造船株式會社神戸造船所に於て二一一間、川崎造船所本工場一六七間、七川崎造船所葺合工場三七三間、更に運河方面の川崎造船所兵庫工場一七九間、二宮下木材株式會社八〇間、五鈴木商店兵庫魚油倉庫五六間、井上豆粕工場六八間、木全製肥工場五二間、前田製油所五二間、明治製糖株式會社七六間、臺灣精糖株式會社二四七間、増田製粉株式會社七六間、大日本鹽業株式會社六〇間等ありて、工場所要材料及工場製品の大部分を積卸し其の總間數一、九三七間九にして、中運河方面の分一、一八六間二を含めり。

(三) 工場地先 工場地先は工場地内に於て荷揚場として使用する以外の沿岸地域にして、前段工場荷揚場に於て述べしと同じく三菱造船株式會社神戸造船所に於て三九八間、川崎造船所本工場四二六間、川崎造船所葺合工場一四六間、神戸製鋼所一九六間を主として其の計一、二九六間あり。運河方面は全部にて五八五間八に止り、其の大部分は川崎造船所兵庫工場にして三九二間五に及び、其他は漸く北海林業株式會社の八〇間位に過ぎず。

以上の外神戸市の東部境界線たる脇濱町東端以東新在家迄の地域一帯は、海

濱にして荷揚場其他の設備なければ、一般の荷役は風風の日を待ちて舢船を濱に近づけ漸く積卸なし得るに過ぎず。

次で當港の沿岸に建設されし工場倉庫等に就て見るに、概ね左の如く各沿岸の便益を享けつゝあるを否み得ざるべし。即ち先づ神戸税關は四箇の突堤の外第一乃至第三波止場及川崎波止場を合して總延長二、八四〇間八に亘り、其建物坪數四萬坪に及び、本港外國貿易の偉大なる關門をなせり。之に續いて工場に於ては川崎造船所の一七〇五間七、本社五八六間七、葺合工場五一九間、兵庫工場六〇〇間、三菱造船株式會社神戸造船所五四七間六、神戸製鋼所一九六間等あり。運河方面に至りては、鐘淵紡績株式會社の少數の倉庫の外小工場の群集せる状態にして、之を並記すれば日本精米精粉株式會社、日本製粉株式會社、日清製粉株式會社、東洋製粉株式會社、宮下木材株式會社、臺灣精糖株式會社、増田製粉株式會社、鈴木製袋所、井上油脂工場、日本工業相談所、鑄物工場、木全製肥工場、明治精糖株式會社、日本木材株式會社、前田製油所、大日本鹽業株式會社、中村製軸部等を舉ぐべく、倉庫としては三菱倉庫株式會社、神戸支店最大にして沿岸線の長さ七一、九間とし、之に次ぐを東神倉庫株式會社、神戸支店の二〇七間とす。其他川西

兵庫住友各倉庫より三井倉庫鈴木倉庫ニッケルライオンズ倉庫長谷川倉庫グアキエームオイルコンパニー倉庫等各處に散在し、尙税關突堤根元には近く竣成すべき川西住友三菱東神の各倉庫建並びて突堤の偉觀を添へ、葺合方面には森本倉庫あり、運河には鈴鹿倉庫の外三菱川西兩倉庫の之に面するを見る。而して倉庫の總坪數は十一萬二千餘にして、本年の取扱額拾貳億圓に達す。其の重要なる庫入品は棉花を筆頭とし、穀物系類機械類油脂及蠟類鑛及金屬藥品類等にして、取扱額は三菱倉庫を第一とし、東神川西住友森本兵庫倉庫の順序たり而も各倉庫の取扱品それぞれ特色あり、三菱倉庫は棉花を以て最大となし、其外外國米並に絹糸之に次ぎ、東神は外國米一位にて之に次ぐを棉花絹糸毛糸染料及塗料等とし、川西に至りては先づ羊毛に指を屈すべく、機械類朝鮮米等僅少乍ら之に續き、住友は油脂及蠟染料及塗料絹糸朝鮮米豆類海產物羊毛金物製品等何れも收容せられ、森本倉庫は棉花殊に多く、兵庫倉庫は主として食料品を格納す。材料置場の中石炭は各消費者が其の構内に貯炭場を設くるを通例とし、三菱川崎兩造船所川崎葺合工場全兵庫工場神戸製鋼所明治精糖株式會社神戸市電氣局運河發電所臺灣精糖株式會社等皆然り。其貯藏し得る最大量も炭種に

よりて相違あるも、川崎葺合工場の約六千八百噸を最大とし、同兵庫工場の三千五百噸、同本工場の二千六百噸、三菱造船所の二千五百噸より臺灣精糖の二千四百噸等何れも其の重なるものにして、其他に葺合南本町に約二千坪、神戸辨天濱に約一千一百坪、兵庫西出町以西運河迄に約一千七百坪あり。葺合は三井物産小幡組三輪組等主として使用し、辨天濱は一廓をなせ共二十余の商店の集合置場にして、兵庫方面は散在して三井物産寺岡商店岡本商店安川松本商店出口商店萬俵商店高田商店江見商店を初めとして三十を越す小貯炭場あり。尙神戸税關神戸水上警察署市營給水所鐵道省の各要地に貯炭場を設けたり。今試に主要工場に於ける本年の消費量を見るに、川崎葺合工場四萬七千四百噸を最大とし、次いで川崎本工場四萬五千噸、神戸製鋼所三萬三千七百噸、川崎兵庫工場三萬二千九百噸、三菱造船所二萬八千三百噸、臺灣精糖一萬九千五百噸等なり。木材の置場が葺合及運河方面に夥しく設けられたるは、全く水利の便宜しくして筏の放戈に適したる爲めにして、葺合に於ては土岐製材所大野材木店岡野材木店等を主なるものとし、運河方面に於ては宮下材木株式會社を主とし、三木合資會社和田製材所日本木材株式會社筆五商店野村商店中村製軸部北海林業株

式會社瀧川商事株式會社小泉木屑置場川崎造船所製材工場日本燐寸株式會社
神戸木材株式會社杉原商店等の各木材置場所狭き迄に設けられて材木の一大
山を築けり。其中中村製軸部大正製軸株式會社北海林業株式會社等は燐寸軸
木の製造を主とし宮下木材株式會社瀧川商事株式會社神戸木材株式會社山長
合名會社等は何れも製材を併せ兼ねたり。
尙脇濱以東は本邦銘酒の醸造地たる灘地方さて酒倉の數も夥しく菅公牡丹忠
勇澤ノ鶴富久娘月桂冠及菊正宗等の名と共に酒の香もいと高し。

第二章 荷役狀況と船車聯絡

第一節 荷役狀況

本港に於ける荷役を分ちて沖荷役及岸壁荷後の二種とす。

(イ) 沖荷役 港内に本船碇泊中、舢舨によりて貨物を積卸する作業を總稱するものにして、之に必要なものを舢舨及勞務者とす。而して舢舨の數及其の運用は荷役能力に密接なる關係を有し、我が國の如く未だ港灣施設の完全を期し得ざる國に於ける荷役は、舢舨荷役に依る事最も多く、尙舢舨荷役に附隨し等閑に附し得ざるものを勞務者即ち沖仲仕とし、其の荷役に對する熟練及不熟練は度外視得ざるものにして、熟練程度如何により自然荷役能力に遲速を招來し延いては港の繁榮にも關係を及ぼすものなるを以て、前後者何れも沖荷役の機關として輕視すべからず。本港に船籍を有する舢舨は十三年末の調査に依れば三千一隻にして、之を類別すれば次の如し。

一類船 五八七隻 主として船客のみ輸送する舢舨

二類船 二、四一四隻 主として貨物積卸の爲め荷役に従事する舢舨
(口) 岸壁荷役 とは本船岸壁繫船中、陸上設備を利用して貨物を積卸する作業を稱し、既成第一期突堤の設備を以て一ヶ年二百十萬噸の荷役能力を發揮し得べし。之に私設岸壁及棧橋其他陸上設備約九十萬噸の荷役設備能力を加算すれば、三百萬噸以上の能力を有すべく、更に沖荷役を合すれば莫大の荷役能力ありと謂ふべし。

以上の岸壁は皆其の倉庫及上屋を廻りて鐵道を敷設し、東神倉庫は小野濱驛に、高濱倉庫は神戸驛に、和田倉庫は和田驛に、夫々連絡するを以て貨物輸送上頗る便利とす。

荷役状況と關係したる繫船状況を計數上より見れば次の如し

一 繫船浮標 港内船舶碇場として、從來二十二個なりしが、兵庫沖合に二十三號浮標一個を増設せられ、現今神戸沖合に十一個、兵庫沖合に六個、小野濱沖合に六個計二十三個を數ふ。而して其等を總括して一區二區と區別さる、即ち神戸小野沖を第一區、兵庫沖を第二區と稱せらる。總て兵庫縣の經營に係りしが、大正十三年十二月港務部が神戸税關に合併せられし以來神戸税關の經營に屬

す。其他私設には兵庫沖に三菱神戸造船所々有四個、神戸沖に川崎造船所々有四個あるも、此等の浮標は各所屬會社の造船及修繕の目的を以て使用せられ一般の使用に供せず。

大正十三年中に於ける繫船船舶總數は一千六百八十一隻、其の總噸數八百四十萬一千八百五十一噸にして、其の使用料金額六萬參千五百拾貳圓を計上せり。其他一般の使用に供せざる三菱川崎造船所々有浮標に碇繫されたる船舶は、三菱に於て十七隻八萬六千三百四十一噸、川崎に於て六隻二萬四千七百四十七噸なり。之を本港沖合總碇泊船數二千五百七十九隻、其の總噸數六百八十一萬八千五百五十二噸に比すれば、其の隻數に於て八百九十八隻を超へながら、噸數に於て百五十八萬三千六百八十九噸を減せるは、沖合碇泊船中大型船舶の碇泊なきに非ずと雖も、概して小型貨物船舶の大多數を占るに依るが爲なり。

二 棧橋 内地沿岸航路船舶の繫留場として、第二種航路に中棧橋、第三種航路に島上棧橋の二個、其他沿岸航路就航船の繫留場にはあらざれども、和田棧橋給水棧橋鐵道棧橋の三個あり。今日主として旅客並に貨物揚卸に使用せらるるものは、中棧橋及島上棧橋の二種とす。島上棧橋は木造にして大阪商船會社

噸數別	突	堤	東神岸壁	高濱岸壁	合
五、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
七、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
一〇、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
二〇、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
計	7,110	2,910,800	5,661	3,991,055	8
					29,635
					7,152
					2,819
					6,934,827

三 繫船岸壁(突堤岸壁) 外國航路就航船の繫留場に充てられ、總延長一千五百九十二間五四、有効延長一千三百六十二間にして、同時に大小の船舶十九隻を繫留し得べし。されど普通常に十四隻を繫留す。各突堤間の間隔は第一第二九十間乃至百二十間、第二第三第四突堤間各八十間とす。大正十三年中の繫船數は一千五百二十七隻、其の登簿噸數六百十八萬六千三百九十一噸にして、其の使用料金額拾五萬參千貳百八拾壹圓を計上せり。

更に岸壁積卸貨物の状況を見るに、直接岸壁に船卸せる貨物の總噸量六十四萬一千四十一噸にして船積せるもの四萬四千七百八十三噸なり。而して舢舨船により積卸せる總噸量百五十七萬九千噸を加算すれば、二百二十五萬五千九百三十三噸に達し、外國貿易總噸量四百九十八萬四千七百七十九噸に對して四割四分に相當し、前年に比して三十六萬四千二十一噸を増加せり。

四 東神岸壁 東神倉庫會社に屬し、延長百七十間、東西二部に分れ、主として東神倉庫搬出入貨物積卸に専用さる、十三年中の繫船數五十三隻、總噸數三十萬三千二百九十二噸なり。

五 高濱岸壁 三菱倉庫會社の經營に係り、延長二千八十二尺ABCの三部に分れ、東神と同じく所屬會社の貨物積卸に使用さる。十三年中の繫船隻數七十三隻、四十三萬五千二百二十二噸なり。左に突堤岸壁、東神岸壁、高濱岸壁に繫船したる船舶の總噸級別表を掲載して一般を知るに資せん。

總噸數別	突	堤	東神岸壁	高濱岸壁	合
五〇〇噸未満	1	1	1	1	5
五〇〇噸以上	1	1	1	1	5
七〇〇噸以上	1	1	1	1	5
一、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
二、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
三、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
四、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
五、〇〇〇噸以上	1	1	1	1	5
計	7,110	2,910,800	5,661	3,991,055	8
					29,635
					7,152
					2,819
					6,934,827

神戸港大観

七、〇〇〇噸以上	三三	一、七五、二四三	六	四、七、七四六	一六	三、三、八〇〇	三三四	一、九四、九八
一〇、〇〇〇噸以上	二七〇	三、五、六、九六	一	四、〇、〇〇六	四	四、〇、〇〇六	二七四	三、五、六、七三
二〇、〇〇〇噸以上	一九	四、三、五、九六	一	一、一、四、五二	一	一、一、四、五二	一九	四、三、五、九六
合計	一、一八七	八、八、五、八、九二	五	三〇、三、二、九三	七	四、五、一、二、三	一、三、三、三	九、五、四、三、六

一六

以上に依りて其の繋船状況の概要を窺知し得べし。

第二節 船車聯絡

神戸港第一期築港工事の完成するに先ち、突堤の一部利用に伴ひて、大正六年一月第一突堤稅關事務室の一隅に東海道支線神戸港荷扱所の開始を見るに至りしが、其後大正八九年の交突堤の漸次落成するに従ひて、第二第三突堤の中間に驛舎を造り、輸出入貨物の運送を開始するや爾來之を利用するもの年々共に増加せり。今既往六ヶ年間に於ける同所發着貨物噸量調査表を示せば左の如し。

年次	發送貨物	到着貨物	合計
大正八年	三七、六四五	六七三	三八、三二八

年次	發送貨物	到着貨物	合計
大正九年	七〇、三〇〇	一、四、五、四	七一、七五四
大正十年	九六、一八七	四、〇、九〇	一〇〇、二七七
大正十一年	一〇四、〇一九	七、八、四七	一一一、八六六
大正十二年	九九、六三七	一五、四、五一	一一五、〇八八
大正十三年	八七、五九四	一六、八九〇	一〇四、四八四

神戸港驛 神戸港の設備完成し海陸聯絡の遺憾なく完備せるにつれ、當驛も旅客列車を運轉するの必要に迫られ、大正十三年七月二十二日鐵道省告示第一三八號を以て従來の荷扱所を神戸港驛と改稱し、同年八月三日より京都間の旅客並に附隨小荷物に限り運輸營業を開始せり。而して神戸港驛の營業範圍は輸出入に係る貸切扱一車積特種貨物並に當驛と京都驛間(途中停車驛大阪住吉)に運轉する汽船聯絡列車に依る旅客手荷物及旅客附隨小荷物に限定せられ、同手荷物及旅客附隨小荷物も到着のものに限らる。尤も右船車聯絡列車は日本郵船會社の定期歐洲航路汽船の神戸出帆當日隔週日曜日に運轉す。

今十三年八月三日より同年十二月末日に至る船車聯絡列車の乗降人員の概數及内地觀光外人團の爲に臨時列車を運轉したる内譯を示せば左の如し。

神戸港大港

聯絡汽船名	乗降人員	
	乗車	降車
白山丸	100	158
北野丸	45	82
榛名丸	63	104
加茂丸	19	32
香取丸	125	223
熱田丸	61	102
鹿島丸	72	170
箱根丸	100	302
諏訪丸	326	326
伏見丸	85	156
笠崎丸	60	163
合計	乗車	降車
	1,065	1,818

區	間	乗車人員
當驛	京都	100
當驛	京都 奈良	400
當驛	京都 奈良 大阪	600
當驛	下關	100

前表の如く降車人員に比較して乗車人員の少なきは、客船出帆後當市見物の傍ら所要を辨する者あるが爲なり。當驛新設の結果貨物の運輸及旅客の輸送非常に便利となり、當港の發展上尠からざる効果をもたらしつゝあり。而して内務省に於て現在の突堤に東隣し、小野濱驛前面七萬八千餘坪の埋立を行ひ、三個の大突堤と既設突堤の擴張工事を行ふの豫定なるを以て、是等完成の曉は神戸港驛の發展大に見るべきものあらん乎。



況現地立埋通邊濟事二期二第港築



況現地立埋堤突庫兵事二期二第港築



橋 浮 河 運



況 現 島 藻 荊

第三章 運 河

第一節 市營後の收支と入津舟筏

本市が運河直營以後の收支概況を表示すれば左の如し。

種 別	入 収		支 出		差 引 計
	雑 計	雑 計	運河事業公債元資償還金	同利子	
八年度正	一四、三五〇・〇〇〇	一四、三五〇・〇〇〇			一四、三五〇・〇〇〇
九年度正	七、三三四・九五〇	三、三五〇・〇〇〇	三〇、三三四・七〇〇	三〇、四一〇・四五〇	一〇、六四八・七三三
十大年度正	一〇、四〇八・四九〇	三、三三〇・〇〇〇	三〇、五七二・二〇〇	三〇、一七二・二〇〇	三六、六六九・一七〇
十一年度正	八四、六六九・八二〇	三、三三〇・〇〇〇	三、一〇〇・〇〇〇	三、三六九・八〇〇	一、九三〇・七九〇
十二年度正	八六、〇四二・三九〇	三、三三〇・〇〇〇	三三、四〇〇・〇〇〇	二七、七六六・七〇〇	△五、六六六・九九〇
十三年度正	八六、三三〇・一七〇	二、三五四・〇〇〇	三三、七〇〇・〇〇〇	二八、九八六・三〇〇	四、五七〇・二三〇
計	四四四、二二〇・八一〇	一四、六八〇・〇〇〇	六七、二〇〇・〇〇〇	一五三、九〇四・六七〇	六二、五二六・八二五

次に入津舟筏の模様を見るに。

一 船舶 本事業市營後即ち過去五箇年間に於ける入津船舶の隻数は左表に示せるが如く大正九年度の六萬八千九十九隻を最多とし、逐年減少の頽勢を示しつつあり。

種別	年度別				
	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度
間船	四一、五二八隻	四四、二七〇隻	三七、二六三隻	三五、八八五隻	三七、七七六隻
石船	一五、九九三	一二、九八四	九、〇四四	七、二三四	六、五一四
噸船	一〇、五七八	六、二〇五	五、六九〇	六、〇六二	七、一九三
計	六八、〇九九	六三、四五九	五一、九九七	四九、一七九	五一、四八三

以上之を二間船二十石、三間船三十石、四間船百五十石、五間船二百石、六間船三百石、七間船五百石、八間船八百石、九間船千石、十間船千二百石及千石一噸の換算率によりて其の積量を見れば。

大正九年度 大正十年度 大正十一年度 大正十二年度 大正十三年度
 五六九、三九三噸 六二〇、一八八噸 五一六、九六四噸 五一四、五二二噸 五〇八、三九三噸

となり依然減少の傾向たるを免れず。是は從來河内に繋留せし釣舟の大半が湊川尻に移りたるに因るものにして、一般財界の盛衰と入津船舶の増減とは常

に正比例の現象を呈せるを以て見れば、大正十三年度の財界極度に沈衰せるを知るべき乎。

入津船舶の種類は日本形間船石船及西洋形噸船の三種にして、間船は一間以上十三間未満、石船は五十石以上二百石未満、噸船は五噸以上二百噸未満迄を主とし、其の仕出地仕向地は、近畿・中國・四國遠くは九州沿岸に涉れりと雖も、大半は港内船舶の入河に屬し、大阪及播州沿岸諸港のもの比較的多かるべきか。而して運河東入口の新川廻旋橋の固定橋となりたる結果、有橋船の入津不能となり一見入津船減少の懸念無きに非らざるも、兵庫築港の完成後は、内國貿易の中心地となり、商工業益々發展すべく、従つて現在に於ける有橋船は無橋船と變りて依然入津旺盛なるべきを以て、固定橋架設の一事より入津船の激減を豫想するは皮想の見に過ぎざるべし。

二 筏 運河沿岸は關西に於ける木材の一大集散地にして、其の組立は木材の種類に依りて異なれども、本市は使用料條例に依りて之に制限を加へ、最大を長さ四十八尺幅十二尺迄とす。今左に大正九年度以降入津筏の連數を示さん。

種別	年度別		大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度
	大正九年度	大正十年度			
筏	長 四十八尺	三、五一 <small>一</small>	五、七九三 <small>一</small>	四、九二七 <small>一</small>	五、一〇〇 <small>一</small>
	幅 十二尺	五、四三九	七、七二六	五、九六八	四、七二四
計	長 三十尺	八、九五〇	一三、五一九	一〇、八九五	九、八二四
	幅 十二尺				一四、三八九

因に運河管理條例及使用料條例を記すれば次の如し。

運河管理條例

(大正九年十一月二十二日) (神戸市條例第七三號)

- 第一條 運河内通航ノ船舶ハ掛帆ノ儘航行スルコトヲ得ス
- 第二條 運河通航ノ爲メ廻旋橋又ハ浮橋ノ開橋ヲ求ムルトキハ豫メ適當ノ距離ニ於テ合圖ヲ爲スヘシ
- 第三條 運河内ノ通航ハ入河ノ順序ニ依ルヘシ但シ小船ノ類ニシテ危險ノ虞ナク且ツ他ノ船筏ノ通航ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 危險豫防上必要ト認ムルトキハ運河監守員ヲシテ船筏ノ通行ヲ一時停止セシメ又ハ通航ノ順序ヲ變更セシムルコトアルヘシ
- 第五條 運河ノ管理上又ハ使用料徴收上必要ト認ムルトキハ運河監守員ヲシテ船筏乗組員ノ住所氏名船筏ノ所有者發著地等ヲ質問セシメ又ハ船鑑札營業鑑札等ノ提示ヲ要求セシムルコトアルヘシ
- 第六條 運河通航ノ妨害又ハ橋梁其ノ他ノ設備ヲ毀損スル虞アル破損船沈没船流失物等ハ所有者又ハ占有者ニ於テ直ニ之ヲ除去スヘシ若シ之ヲ怠ルトキハ市ニ於テ除去シ其ノ費用ヲ徴收スルコトアルヘシ
- 第七條 運河内ニ繫留スル船舶又ハ筏ニシテ十日以上ニ及フトキハ更ニ期間ヲ指定シテ出河又ハ陸揚ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ當該船舶又ハ筏ノ所有者若ハ占有者其ノ命ニ從ハサルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ特ニ筏ノ爲メ限

定セラレタル區域ニ之ヲ繫留セシムルトキハ本條ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

- 第八條 何人ト雖モ正當ノ理由ナク左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一、運河内ニ土石灰塵塵芥等ヲ棄擲スル事
 - 二、通航ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲ス事
 - 三、橋梁ニ船筏ヲ繫留スル事
 - 四、護岸其ノ他運河ノ設備ヲ毀損スル虞アル事
 - 五、廻橋船又ハ浮橋開橋ノトキ兩端ヲ閉鎖スル危險防止柵ヲ通過スル事
- 第九條 船筏ノ乗組員及其ノ他ノ乗船者ハ本條例ニ定ムル事項ノ外運河監守員ノ指示ヲ遵守スヘシ
- 第十條 運河使用者前各條ニ違反シ若ハ故ナク運河監守員ノ要求又ハ指示ニ從ハサル者ハ金五圓以下ノ過料ニ處シ且ツ其ノ使用ヲ禁スルコトアルヘシ
- 第十一條 本條例施行ニ關スル必要ナル規定並ニ入河ヲ許ササル船舶及筏ノ種類ハ市長之ヲ定ム

附 則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

運河使用料條例

(大正九年十一月二十二日) (神戸市條例第七二號)

- 第一條 運河ヲ使用スルモノニハ本條例ノ定ムル處ニ依リ使用料ヲ徴收ス但シ水難救護ノ爲メ又ハ國府縣ノ船舶ニシテ公用ノ爲ニスルモノハ此ノ限リニ在ラス
- 第二條 運河使用料ノ定額ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ一間未滿ノ端數ハ一間、十石未滿ノ端數ハ十石、一噸未滿ノ端數ハ一噸ト看做ス
 - 一、通航ノ爲ニスルモノ
 - 日本形船(間ヲ以テ定ムル船舶)
 - 參 間 未 滿 一間毎ニ 金拾 錢
 - 參 間 以上四間未滿 同 金拾 五 錢

第三章 運 河

神戸港大観

四間以上五間未満	一間毎ニ	金貳拾五錢
五間以上六間未満	同	金四拾五錢
六間以上七間未満	同	金五拾五錢
七間以上八間未満	同	金六拾五錢
八間以上九間未満	同	金七拾錢
九間以上	同	金八拾錢
日本形船(石數ヲ以テ定ムル船舶)	同	金八拾錢
參百石未滿	十石毎ニ	金八
參百石以上五百石未滿	同	金拾
五百石以上	同	金拾貳錢
西洋形船	同	金拾
一噸毎ニ		錢
長三十尺幅十二尺マデ		金壹圓貳拾錢
長四十八尺幅十二尺マデ		金貳圓五拾錢
二、繫留ノタメニスルモノ		前號ニ定ムル額
船入河後三日ヲ超ユル毎ニ		前號ニ定ムル額
船入河後四日ヲ超ユル毎ニ		前號ニ定ムル額
三、沿岸ノ事用ヲ許可シタルモノ		壹ヶ月金壹圓
沿岸犬走延長壹間ニ付キ		

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム
附 則
本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條 船舶ノ尺度積量ハ船鑑札アルモノ及登簿濟船舶ナルトキハ各其ノ尺度若ハ積量ニ依リ使用料ヲ計算ス
第四條 既納ノ使用料ハ理由ノ如何ニ拘ラス還付セス但シ尺度又ハ積量ノ認定ニ錯誤アリタル場合ハ此ノ限リニ在ラス
第五條 不正ノ行爲ヲ以テ使用料ノ遁脱ヲ計リタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處シ且ツ運河ノ使用ヲ禁スルコトアルヘシ

第二節 廻旋橋廻旋の状況

運河幹線總延長一千十五間五分の間には、四ヶの廻旋橋と一ヶの廻旋浮橋を架設し、各橋とも常時一名乃至四名の橋番を配置し、船舶の通行に際して開橋通過に備へ居れるが、今各橋廻旋の状況を橋別月別時間別に區分表示すれば左の如し。

大正十三年運河廻旋橋廻旋度數調 (其の一)

時間	一月					二月					三月					四月				
	第一橋	第三橋	第四橋	第五橋	浮橋	第一橋	第三橋	第四橋	第五橋	浮橋	第一橋	第三橋	第四橋	第五橋	浮橋	第一橋	第三橋	第四橋	第五橋	浮橋
午前七時	四九	二	二	二	一九八	三六	一	一	一	二二三	四一	一	一	一	二〇五	四三	一	一	一	一九三
午前八時	四六	一	一	一	一七三	四〇	一	一	一	二二三	三九	一	一	一	二七〇	四二	一	一	一	二六八
午前九時	三七	一	一	一	一七八	三五	一	一	一	二二三	三六	一	一	一	二〇五	三九	一	一	一	一九九
午前十時	四二	一	一	一	二一八	三三	一	一	一	二二三	三三	一	一	一	二〇五	三六	一	一	一	一九九
午前十一時	三〇	一	一	一	一九三	二〇	一	一	一	二二三	二二	一	一	一	一八七	一九	一	一	一	一九九
計	二二五	二	二	二	二二五	二〇	一	一	一	二二三	二二	一	一	一	二〇五	二二	一	一	一	一九三
計	二二五	二	二	二	二二五	二〇	一	一	一	二二三	二二	一	一	一	二〇五	二二	一	一	一	一九三

計	月別												
	九	十	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
午後五時	六六二	五七〇	五九六	七五〇	七二一	七二七	七二七	七二七	七二七	七二七	七二七	七二七	七二七
午後六時	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
午後七時	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
午後八時	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四
午後九時	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
午後十時	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
午後十一時	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
午後十二時	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
午前一時	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
午前二時	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
午前三時	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
午前四時	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
午前五時	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三
午前六時	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
計	一〇六二	九三三	九三三	一〇七七	一〇七七	一〇七七	一〇七七	一〇七七	一〇七七	一〇七七	一〇七七	一〇七七	一〇七七

計	月別												
	九	十	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
午前七時	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三
午前八時	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇
午前九時	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五
午前十時	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二	六三二
午前十一時	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二	四九二
午前十二時	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
午後一時	六八	六八	六八	六八	六八	六八	六八	六八	六八	六八	六八	六八	六八
午後二時	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
午後三時	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八
午後四時	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計	一〇二	九六	九六	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二

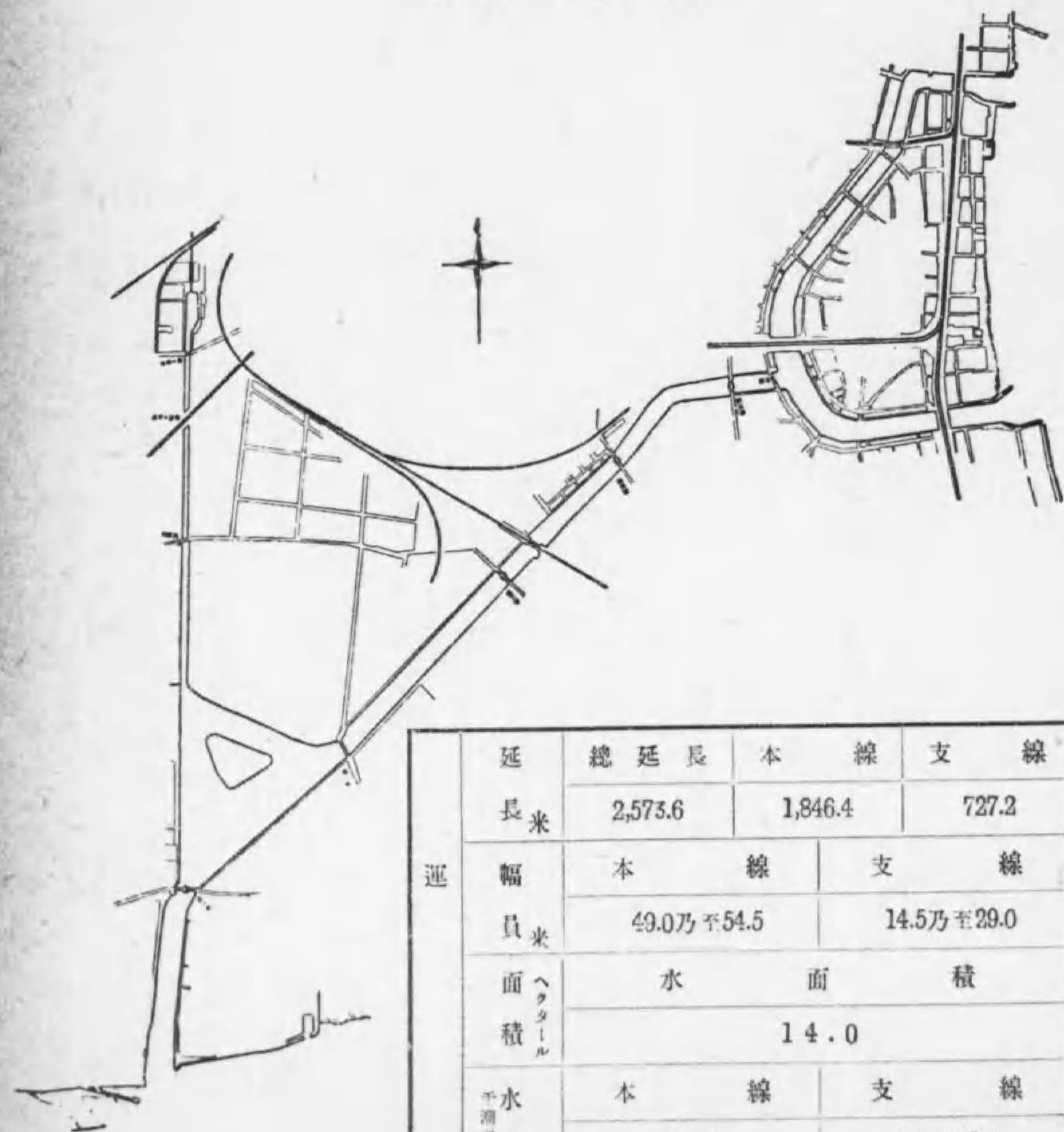
計	月別												
	九	十	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
午前二時	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
午前三時	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
午前四時	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
午前五時	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
午前六時	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
計	五六四	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八

神戸港大観

二八

(其の三)

運河平面圖



運	延長米	總延長	本線	支線	
		2,573.6	1,846.4	727.2	
幅員米	本線	支線			
		49.0乃至54.5		14.5乃至29.0	
面積	水	面積			
		14.0			
水深米	本線	支線			
		1.8		1.2乃至1.8	
河橋	本線	形式			
		迴旋橋	固定橋	浮橋	拱橋
	支線	7	5	1	1
梁	支線	3	2	1	

橋名	構造		全長 (米)	幅員 (米)	旋開 半徑 (米)	桁下空間限界		
	形式	材料				橫 (米)	縱(米)	
							滿潮時	干潮時
本線	第一橋	旋開橋	51.12	固定部 3.30	10.20	10.82	3.40	5.07
				旋開部 3.60				
	第二橋 (御崎橋)	固定橋	35.88	4.54	—	11.65	3.65	5.31
	第三橋	旋開橋	35.79	3.64	8.26	6.00	2.50	4.21
	第四橋 (住吉橋)	同上	32.45	同上	固定部 3.94	8.26	6.43	2.94
		旋開部 3.66						
支線	鐵道橋	同上	17.35	2.12	8.67	6.30	2.29	3.96
	第五橋 (開運橋)	同上	36.40	5.21	10.50	7.73	3.14	4.81
	浮橋	浮橋	30.90	固定部 4.24	—	—	—	—
		浮動部 3.79		浮動部 全開限界				
支線	梅ヶ香橋 (堀留橋)	固定橋	20.15	4.54	—	6.79	2.21	3.88
	梅ヶ香橋	拱橋	17.63	22.73	—	13.47	3.58	5.25
	尻池橋	固定橋	20.15	3.94	—	7.24	2.24	3.91

備考 桁下空間ハ最大徑間ニ於ケル限界ナリ

第四章 船 舶

第一節 沿岸通航船の觀察

沿岸航路就航船の主なる航路は瀬戸内海を中心とし、四國中國遠くは九州の諸沿岸に至るものにして、特に本港は其等近海と甚だ密接なる關係を有するが故に沿岸通航船も多數本港に集中す。大正十三年中本港に出入せし内航船は二萬九千五百九十九隻にして、其の登簿噸數一千五百八萬七千六百八十三噸なり。内入港に係るもの一萬四千八百十九隻、其の登簿噸數七百五十七萬九千八百八十四噸、出港に屬するもの一萬四千七百八十隻、其の登簿噸數七百五十萬七千七百九十九噸にして、之れを十二年と比較するに出入隻數に於て一千八十九隻、噸數に於て百七十五萬五千八百八十三噸の増加を示せるは、全く前年に比して貨物需給量の増大によること勿論なり。今既往十三ヶ年の本港出入船舶の一般を示せば左の如し。

年次	隻数及噸數		港		合	
	入	出	隻數	噸數	隻數	噸數
大正元年	二、六三三	一、七四九	四、八三三	五、〇五三	三三、三七一	九、九六六
大正二年	二、六六八	一、八三九	四、九一三	五、二六三	三三、五三七	一〇、一七五
大正三年	二、〇三四	一、二二一	五、二九〇	五、六四〇	三三、二五五	一〇、九三二
大正四年	二、六二一	一、七四一	五、〇九三	五、三九二	三三、三五三	一〇、四八六
大正五年	二、三三四	一、三七一	四、九六六	五、一八五	三三、六八三	一〇、二四一
大正六年	二、三〇六	一、三三四	四、二七二	四、五三七	三三、一七〇	八、八〇二
大正七年	二、四〇三	一、三九六	四、九七九	四、五三七	三三、〇三九	八、三九五
大正八年	二、四五一	一、四三三	五、五七五	五、四〇二	三三、〇七三	八、五〇八
大正九年	二、四四六	一、三九九	四、二七五	四、二四三	三三、八〇五	八、五〇〇
大正十年	二、八〇〇	一、三九九	四、八七三	四、八九〇	三三、六九九	九、六九五
大正十一年	三、三〇六	一、三〇七	五、七二二	五、六六〇	三三、一八三	一〇、三九一
大正十二年	二、四三九	一、四〇二	六、六七三	六、六四四	三三、五〇〇	一三、三三一
大正十三年	二、四八九	一、四七〇	七、五七九	七、五〇七	三三、五九九	一五、〇八七

前表所掲は登簿噸數二十噸以上の船舶のみに就ての數字なれども、二十噸に満たざる船舶にして沿岸貿易に従事せるもの亦決して尠しとせず。故に實際に於ける本港出入の沿岸通航船は、前表よりも非常に多かるべし。大正十三年中本港に出入したる沿岸通航船の如何に頻繁なるかを窺ふに資せんが爲、本邦

主要港に於ける沿岸通航船の出入を比較すれば左の如し。

港別	入		出	
	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數
横濱	一、八八九	一、九八七	一、九〇九	二、〇〇九
大阪	一一、二二七	五、一六三	一一、一四〇	五、一二五
長崎	四、九三九	五〇六	五、一〇五	五二七
門司	三、九三八	三、三六八	三、九三六	三、三六八
神戸	一四、八一九	七、五七九	一四、七八〇	七、五〇七

右の外大正十三年中本港に入港したる帆船は、隻數四萬四千五百三十隻、其の登簿噸數二百五萬三千六百三十六噸にして、其の内洋型帆船は一萬一千三百十五隻、百十七萬六千七百六十噸、和型帆船は三萬三千二百十五隻、八十七萬六千八百七十六噸なり。之を前年と比較するに洋型帆船に於て二千二百十八隻、五十九萬四千五百六十五噸を増加し、和型帆船に於て三千百七十二隻、百三十五萬一千九百五噸を減少せり。是は歐洲大戰後船腹の不足を洋型帆船に需めたる關係上逐年其の増加せるに反し、和型帆船は洋型帆船の爲に其の地位を侵されて漸次減少しつゝあるに因る。

今大正元年以來本港に於ける出入船舶増減の關係を見るに、年により多少の例外ありと雖も、累進の跡あるは蔽ふべからざる所にして、其の率を表示すれば次の如し。

年次	出入隻數の割合	出入噸數の割合
大正元年	100.0	100.0
大正二年	100.0	100.0
大正三年	100.0	100.0
大正四年	100.0	100.0
大正五年	100.0	100.0
大正六年	100.0	100.0
大正七年	100.0	100.0
大正八年	100.0	100.0
大正九年	100.0	100.0
大正十年	100.0	100.0
大正十一年	100.0	100.0
大正十二年	100.0	100.0
大正十三年	100.0	100.0
大正十四年	100.0	100.0
大正十五年	100.0	100.0
大正十六年	100.0	100.0
大正十七年	100.0	100.0
大正十八年	100.0	100.0
大正十九年	100.0	100.0
大正二十年	100.0	100.0

第二節 最近外國貿易船の觀察

外國航路の主なるものは支那(天津・大連・上海)航路なるが、印度・亞米利加・濠洲南洋其他多數の航路あり。何れも貨物の有無に拘らず、本港に寄港せざるものなく、常に殷盛を極む。即ち大正十三年中に於ける、外國貿易船の總出入七千隻、其噸數二千四百五萬五千二十四噸にして、内入港三千五百八隻、一千二百萬六千四百四十噸、出港三千四百九十二隻、一千二百四萬八千五百八十四噸の大數に上れり。之を前年と比較するに、入港に於て二百隻、九十七萬百三十二噸を増し、出港に於て二百六隻、百二十九萬九千九百三噸を増し、出入總數に於て四百六隻、二百二十七萬三十五噸を増加せり。之を海運界の極盛期とも稱すべき大正五年乃至八年に比するも尙遙かに過ぎたるを見る。試に左に掲げん。

年次	隻數及噸數	
	入	出
大正五年	2,611隻	2,678隻
大正六年	2,563噸	2,485噸
大正七年	2,776噸	2,797噸
大正八年	3,419噸	3,324噸
大正九年	3,372噸	3,299噸
大正十年	2,885噸	2,765噸

神戸港大観

大正十一年	三、一九四	一〇、一一六、七〇二	三、〇六九	九、七〇九、五三二
大正十二年	三、三〇八	一一、〇三二、三〇八	三、二八六	一〇、七四八、六八一
大正十三年	三、五〇八	一二、〇〇六、四四〇	三、四九二	一二、〇四八、五八四

三六

斯る増加の主因は大正十年以來我海運界の不振に乘じ、英、米、佛、和蘭獨逸等諸國の大船巨舶相踵で入港したると、本港に於ける輸出入貨物の増進せらるゝに因る。更に内外國籍別に依りて觀察するに、入港船舶は内國船二千三百三十九隻六百五十九萬九千五百五十噸、外國船一千六百六十九隻、五百四十萬七千二百九十噸にして、出港船舶は内國船二千三百四十八隻、六百六十萬八千九百九十七噸、外國船一千四百四十四隻、五百四十三萬九千五百八十七噸なり。如斯本港に出入する船舶は隻數噸數共に異狀なる膨張を來し、我が海運界の隆盛を表明すと雖も、其の三分の一以上を外國船に占めらるるを知るに於て、我が海運貿易上甚だ遺憾の極みなりと謂ふべく、殊に十年以來我が海運界は近海は勿論、遠洋方面に於ても依然不振を續け、加ふるに外國貿易航路に於ては米英等の優秀船に依つて漸次壓迫の度を増しつゝあるの狀態なり。左に大正十年以降四ヶ年に亘る内外國船出入の變動を表示し、其の一般を窺ふに資せんとす。

種別	年次		登簿噸數	登簿噸數	登簿噸數	登簿噸數			
	大正十三年	大正十二年					大正十一年	大正十年	
入港	内國船	二、三三九	二、二六八	二、一六八	六、九一九、一五〇	六、〇〇五、三三九	五、七二七、四七二	五、一一一、四七二	
	外國船	一、一六九	一、〇四〇	九四九	七七七	五、四〇七、二九〇	五、〇三六、九九九	四、三九二、三六〇	三、〇二〇、〇四三
出港	内國船	二、三三八	二、二八七	二、一五三	二、〇六〇	六、六〇八、九九七	五、八六二、〇一一	五、五三六、九六一	四、八七三、五五四
	外國船	一、一四四	九九九	九一六	七〇五	五、四三九、五八七	四、八七六、七〇〇	四、二八二、五七七	二、九九五、五八一
内國船計	計	四、六八七	四、五五五	四、三一一	四、一二〇	一二、〇一七、一四七	一二、八六四、三三〇	一一、二七三、四二三	九、九八三、〇一七
	計	二、三三三	二、〇三九	一、八六五	一、四三三	一〇、八四六、八七七	九、九四四、六五九	八、五七二、八三三	六、〇二六、四四〇
外國船計	計	一、三〇三	一、〇三九	六二七	五五五	二、四〇二、〇三三	二、一七〇、九八九	一、九八四、三三四	一、六〇〇、一六四
	計	七、〇〇〇	六、五九四	六、一六三	五、六五〇	一八、四一九、一八〇	一七、〇三五、二九八	一六、二五七、七五七	一四、六八三、一六一

次に船籍によりて各國船舶の本港出入状況を窺ふに、先づ入港に於て本國船の二千三百三十九隻、六百五十九萬九千五百五十噸を最高とし、英國船の五百六十六隻、二百六十四萬二千八十六噸之に次ぎ、北米合衆國の二百五十八隻、百五十二萬九千二十九噸第三位にして、佛蘭西、和蘭之に隨ふ。出港に於ても亦同様の順次たり。而して逐年出入隻數並に船體に於て漸大の傾向あるは、一に外國貿易の進展しつゝあるを表明するものにして、又以て如何に各國が大船主義に濃厚なるかをも知るべし。左表によりて之を窺ふべし。

【港 入】									
船籍	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年					
日本	二,三三九	二,二六八	二,二四五	二,二六八					
英吉利	五六六	四七九	四九一	三九九					
佛蘭西	四四五	五九六	六三三	五八					
北米合衆國	二五八	三〇五	二三四	三九					
露西亞	三	六	一一	四					
和蘭	五三	五七	五五	三九					
瑞典	二二	一五	一四	二〇					
諸威	七	一	一	二					
丁抹	三三	一六	一六	一〇					
獨逸	七	四	二五	一					
他ノ諸外國	七〇	三八	八	一五					
合計	三,五〇八	三,三〇八	三,一九四	二,八八五					
噸數	六,五九一,一五〇	六,〇〇五,三一九	五,七七四,四三三	五,一一一,四七六					
噸數	二,六四二,〇八六	二,三三三,〇〇一	二,三三三,八八四	一,五五〇,五七〇					
噸數	二,三六〇,〇四	二,八二四,四一四	二,四七三,七	一九三,一八五					
噸數	一,五二九,〇九	一,七三三,六九五	一,三六六,七四〇	一〇,一九九,四					
噸數	四四九,七	八二〇,五	一,三二五,八	四〇九,〇					
噸數	一九二,一四六	一九七,七五九	二〇一,五九四	一三九,七九五					
噸數	七八五,一六	五九〇,二五	五二,四七五	三五,九八三					
噸數	一三六,一八四	七三,二二九	一〇五,〇三	八六,八					
噸數	一三三,九〇五	六七,四九八	六九,〇六	四四,八二					
噸數	二七六,九六八	一八〇,五九九	九一,四三六	五六,四					
噸數	一八七,八五五	九四,五六四	一〇〇,七	二七,四二					
噸數	三,〇〇六,四四〇	二,〇三二,三〇八	一〇,二六七,三	八,三二五,一九					

【港 出】									
船籍	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年					
日本	二,三三九	二,二八七	二,一五三	二,一〇〇					
英吉利	五六六	四七九	四六三	三九					
佛蘭西	四四五	五九六	六三三	五八					
北米合衆國	二五八	三〇五	二三四	三九					
露西亞	三	六	一一	四					
和蘭	五三	五七	五五	三九					
瑞典	二二	一五	一四	二〇					
諸威	七	一	一	二					
丁抹	三三	一六	一六	一〇					
獨逸	七	四	二五	一					
他ノ諸外國	七〇	三八	八	一五					
合計	三,五〇八	三,三〇八	三,一九四	二,八八五					
噸數	六,五九一,一五〇	六,〇〇五,三一九	五,七七四,四三三	五,一一一,四七六					
噸數	二,六四二,〇八六	二,三三三,〇〇一	二,三三三,八八四	一,五五〇,五七〇					
噸數	二,三六〇,〇四	二,八二四,四一四	二,四七三,七	一九三,一八五					
噸數	一,五二九,〇九	一,七三三,六九五	一,三六六,七四〇	一〇,一九九,四					
噸數	四四九,七	八二〇,五	一,三二五,八	四〇九,〇					
噸數	一九二,一四六	一九七,七五九	二〇一,五九四	一三九,七九五					
噸數	七八五,一六	五九〇,二五	五二,四七五	三五,九八三					
噸數	一三六,一八四	七三,二二九	一〇五,〇三	八六,八					
噸數	一三三,九〇五	六七,四九八	六九,〇六	四四,八二					
噸數	二七六,九六八	一八〇,五九九	九一,四三六	五六,四					
噸數	一八七,八五五	九四,五六四	一〇〇,七	二七,四二					
噸數	三,〇〇六,四四〇	二,〇三二,三〇八	一〇,二六七,三	八,三二五,一九					

【港 出】									
船籍	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年					
日本	二,三三九	二,二八七	二,一五三	二,一〇〇					
英吉利	五六六	四七九	四六三	三九					
佛蘭西	四四五	五九六	六三三	五八					
北米合衆國	二五八	三〇五	二三四	三九					
露西亞	三	六	一一	四					
和蘭	五三	五七	五五	三九					
瑞典	二二	一五	一四	二〇					
諸威	七	一	一	二					
丁抹	三三	一六	一六	一〇					
獨逸	七	四	二五	一					
他ノ諸外國	七〇	三八	八	一五					
合計	三,五〇八	三,三〇八	三,一九四	二,八八五					
噸數	六,五九一,一五〇	六,〇〇五,三一九	五,七七四,四三三	五,一一一,四七六					
噸數	二,六四二,〇八六	二,三三三,〇〇一	二,三三三,八八四	一,五五〇,五七〇					
噸數	二,三六〇,〇四	二,八二四,四一四	二,四七三,七	一九三,一八五					
噸數	一,五二九,〇九	一,七三三,六九五	一,三六六,七四〇	一〇,一九九,四					
噸數	四四九,七	八二〇,五	一,三二五,八	四〇九,〇					
噸數	一九二,一四六	一九七,七五九	二〇一,五九四	一三九,七九五					
噸數	七八五,一六	五九〇,二五	五二,四七五	三五,九八三					
噸數	一三六,一八四	七三,二二九	一〇五,〇三	八六,八					
噸數	一三三,九〇五	六七,四九八	六九,〇六	四四,八二					
噸數	二七六,九六八	一八〇,五九九	九一,四三六	五六,四					
噸數	一八七,八五五	九四,五六四	一〇〇,七	二七,四二					
噸數	三,〇〇六,四四〇	二,〇三二,三〇八	一〇,二六七,三	八,三二五,一九					

「附」 神戸港船舶調査成績

本港出入船舶の實數を調査して、之を將來に於ける大神戶港海陸運輸聯絡設備計畫の基礎資料に供し、本港永遠の隆盛を計らんとするの念は、獨り當部の宿志たるのみならず、本市民の均しく翹望する所なり。本部夙に茲に着眼し、周密なる研究を遂げんとして準備を怠らず、其の機會を待ち居りしが、幸に本縣港務部長神戸水上警察署長等の賛同を得、當部と聯合協力の下に、大正十三年六月二十日午前四時より、同五時三十分に至る間、在港船舶の一齊調査をなし、引續き同午前六時より翌二十一日午前六時に至る二十四時間に入出船舶調査を行ひたり。成績次の如し。

從來此の種の調査は神戸水上警察署に於て不斷之を行ひつゝありしが、該調査は時間の極めて短かき調査の目的が全く相反することに依り、港灣設備上の参考資料とするには遺憾の點尠なからず。又外國貿易船の出入統計は神戸税關に於て正確なる資料を吾々に供與するも、之は關税法より視たる船舶にして外國貿易に直接關係なき遊覽船避難船等に對しては尙意に満たざる所あるのみならず、其の船舶と稱するも必ずしも一般觀念に基ける船舶にあらず。又縣港務部に於ける出入船舶調査は、内外航共に總噸數二十噸以上に局限せられ、二十噸未満の船舶に對しては調査の便を缺げり。従つて何れも當部の所期に合致せず、即ち當部に於て要求する處は以上の缺漏に對する補充的調査と、總噸數二十噸未満の船舶の出入調査とにあり。今主要なる理由を列舉せば次の二點に存す。

一、本港の第二期修築工事には小艇艇船等に對して相當の考慮を拂ひ、此等の繋留並に荷役設備の計畫をなせり。加之我海運上小艇艇船等は侮るべからざる運輸上の地位を占むるを以て、本港の修築工事に於ては此等を度外視するを得ず。従つて之に適當なる繋留地點其他の諸施設をなすに十分の

注意を喚起するものと信す。

二、内務省に於て毎年全國各港の船舶出入統計調査をなすは、主として内地各港々灣設備の資料に供するものにして、其の調査の最低限度は總噸數五噸以上の船舶に定められたるが、前述の如く本港に於ける總噸數二十噸未満の船舶出入調査は從來組織的に行はれざるが故に、二十噸未満に對する本港出入船舶統計表は正確を期し難く、内地唯一の大港灣たる神戸港に此種の統計が他の群小各港に比し杜撰なるは、本港の爲め遺憾に堪へざる所なり。

以上の理由により此目的を達成せんが爲め、汽艇總數十五隻、調査員三十六名を以て調査隊を組織し、大正十三年六月二十日午前四時より同五時三十分に至る一時三十分間に、神戸港在船の大小船舶及艇船の全部に對し一齊に調査を行へり。調査の範圍は船籍地、船種、船主(又は傭船主)總噸數(又は石間數)及原發航地、出入日時等にして、何分調査人員の不足と、早朝なるが故に被調査船中無人なる爲めと、艇船の如きは船名又は記號等煙滅し判別し難きものありしことによりて調査上尠なからざる苦心をなしたるが、整理の結果は、豫期の如き成績を收め得たるものと信す。

引續き同午前六時より翌二十一日午前六時迄二十四時間に亘り、右十五隻の汽艇三十六名の調査員を毎六時間交代とし、調査区域を六分し、東は脇の濱沖より、西は和田岬入口に至り、新港界線上にありて所定の区域を游弋し、出入船舶の調査に従事して豫定の調査を終了せり。而して調査の範圍は既に述べし在港船舶調査事項の外、更に船舶の仕向港積載貨物種類及噸數等を附加したるものなり。別に運河東西兩入口附近に出入せる船舶の調査に對しては、主として當部吏員をして當らしめ調査方法事項等略前者と同一にせり。出入船舶の調査は今回の主要なる目的なるが故に、全力を盡して精査したるを以て其の成績は豫期以上の好結果を得たり。只夜間に於ける調査は暗黒中の海上を縦横に來往して其の要項を得るに努めたるも、中には幾何かの不充分の點をまぬがれずされど此等は出入方向同時間船體船種等を記帳し、歸來後關係汽船會社廻漕店代理店等に就き照合の上、整理をなしたるに、的中せしもの大部分を占めたるは望外とする所なり。

之を要するに今回の調査は半ば試験的性質を帯びたるものにして、最初の組織的調査としては概して成績良好なる事は當部の信じて疑はざる所なり。

神戸港繫留船舶總隻數總噸數調査表

六月二十日午前六時現在

調査區域別	汽船		補助機關帆船		帆船		合計		其他の船	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
鈴木港	二	七三	三	三三	三六	二、一〇一	四二	二、二〇六	二	二
新合港	六	二、二二八	二	一九	四四	一、八五四	五五	一、八七三	一	一
新田川尻	六	二、二二八	二	一九	四四	一、八五四	五五	一、八七三	一	一
各突堤	六	二、二二八	二	一九	四四	一、八五四	五五	一、八七三	一	一
第四突堤北側	二	二七、三三九	一	一五	二〇	一、〇三〇	二七	二七、三三一	二	二
同京橋ヨリ米利堅波止	一	一、二四八	四	六六	三三	三、九〇六	七〇	三、九六六	一	一
第二波止場	四	一、二四八	三	三三	二六	一、五七六	二九	一、六八四	一	一
第一波止場	二	一九二	八	一六〇	二六	一、五七六	二九	一、六八四	一	一
國産波止場	三	四四六	〇	一九	二〇	三、二一三	二九	三、二六四	一	一
神戶港	二	八五、五二七	一	二八	三三	八、六四七	四〇	一〇、六六六	一	一
辨天濱ヨリ蟹川尻迄	二	五一八	四	六六	二九	四、一八三	五〇	八、九七九	一	一
(川崎造船所ヲ含ム)	二	五一八	四	六六	二九	四、一八三	五〇	八、九七九	一	一
島上町沿岸	二	四、五四〇	二	三〇	一	八、九〇七	二二	一三、七五四	二	二
兵庫港	二	三、五五五	一	一五	一	八、九〇七	二二	一三、七五四	二	二
新川東口ヨリ三菱造船所迄	一	一、五六四	四	一九	一	四、二五四	二二	一八、九〇三	二	二
新川東口ヨリ運河及新	一	一、五六四	四	一九	一	四、二五四	二二	一八、九〇三	二	二
川一圓	一	一、五六四	四	一九	一	四、二五四	二二	一八、九〇三	二	二
總計	三二	一、六七、三四〇	一五	二、四八〇	二、〇〇六	六八、三三九	二、四三六	二、三八一、三三九	二	二

備考

一、本表中船舶の噸數不詳の分は總計噸數に合算せず。

神戸港大観

二、積量は二間船二十石、三間船百石、四間船百五十石、五間船二百石、六間船三百石、七間船五百石、八間船八百石、九間船千石、十間船千二百石とし、十石を以て一噸とす。

神戸港繫留船舶地方別表

地方別	汽船		補助帆		帆		合計	
	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数
兵庫縣	一五三	四、九四九	九〇	一、二九	二	四九、九三	二、〇〇六	九、九八〇
徳島縣	—	七九四	—	五三	—	二四五	—	一、五六一
香川縣	—	—	—	—	—	七六七	—	七七二
愛媛縣	—	—	—	—	—	四七六	—	一、三八八
高知縣	—	—	—	—	—	九五	—	一八七
岡山縣	—	—	—	—	—	六三	—	七〇〇
廣島縣	—	—	—	—	—	六二八	—	一〇、九三二
山口縣	—	—	—	—	—	四、九九八	—	五、一四
石川縣	—	—	—	—	—	—	—	三、四八一
宮崎縣	—	—	—	—	—	—	—	三八
熊本縣	—	—	—	—	—	—	—	三八三
長崎縣	—	—	—	—	—	—	—	二、一一
福岡縣	—	—	—	—	—	—	—	二、九四二
大分縣	—	—	—	—	—	—	—	二二九
大阪府	—	—	—	—	—	—	—	四七、四〇四
和歌山縣	—	—	—	—	—	—	—	三三六
合計	—	—	—	—	—	—	—	—

地方別	汽船		補助帆		帆		合計	
	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数
神奈川縣	—	—	—	—	—	—	—	—
東京府	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道	—	—	—	—	—	—	—	—
北海縣	—	—	—	—	—	—	—	—
朝鮮	—	—	—	—	—	—	—	—
和蘭	—	—	—	—	—	—	—	—
英國	—	—	—	—	—	—	—	—
丁抹	—	—	—	—	—	—	—	—
不計	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—

備考

- 一、本表中船舶の噸数不詳の分は計上せず。
- 二、船舶噸数計算は別表換算率に依る(以下同じ)

現在調査に依る船舶容積別調査表 六月二十日午前六時現在

噸級別	汽船		補助帆		帆		合計	
	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数
五十噸以下	—	—	—	—	—	—	—	—
七十噸以下	—	—	—	—	—	—	—	—
二百噸以下	—	—	—	—	—	—	—	—
三百噸以下	—	—	—	—	—	—	—	—
五百噸以下	—	—	—	—	—	—	—	—
一千噸以下	—	—	—	—	—	—	—	—
二千噸以下	—	—	—	—	—	—	—	—
五千噸以上	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—

第四章 船

時刻	出			入			合計		
	汽船	帆補船	帆船	汽船	帆補船	帆船	汽船	帆補船	帆船
二十日午前六時	八	四	三	一	一	八	九	五	元
自同八時	三	四	二	四	四	八	七	八	三〇
自同九時	五	五	一	一	一	九	六	二	三
合計	二五	一四	一四	一四	一四	二六	二二	二〇	元

時刻に依る神戸港出入船舶總隻數調査表

自六月二十一日午前六時

噸級別	出		入		合計
	隻數	噸數	隻數	噸數	
五十噸以下	一	一	一	一	二
二十噸以下	一五	一〇七	一	九〇	一六
十噸以下	一五二	一、二七	七	一三二	一六七
三十噸以下	三一	二、四八四	百	一、二五	一三六
合計	二、四二二	四七、〇八七	不詳	一、三三二	三、七五四

帆 船 (噸船)

噸級別	隻數	噸數
七十石以下	一一	七一
合計	一一	一、三九六

神戸港大観

噸級別	隻數	噸數
合計	二一四	一六七、三四〇

石級別	隻數	噸數
二十石以下	一	二
三十石以下	四	二〇
五十石以下	三八	一七五
合計	四三	二二

帆 船 (石船)

間級別	隻數	噸數
二間以下	二二四	二六九
四間以下	五八二	六、七四七
六間以下	三九〇	八、四九〇
合計	一、二五二	一八、八三六

噸級別	隻數	噸數
五十噸以下	三〇	七三
二十噸以下	三五	二六七
十噸以下	五七	九五一
合計	一二	二、四八〇

補 助 帆 船

噸級別	隻數	噸數
合計	四	不明

時刻	出			入			出			入		
	汽船	帆補船	計	汽船	帆補船	計	汽船	帆補船	計	汽船	帆補船	計
二十日午前六時	三〇一	七	三〇八	七〇	三	七三	三七二	一〇九	五八五	一、〇六五		
至同午前七時	七、二〇〇	一八七	七、三八七	六、三〇〇	七四	六、三七四	一三、五〇〇	二六二	一四、一六二			
至同八時	二、三四	九二	二、六三六	二六	一八	四四	二、三四〇	一一〇	三九三	二、八四三		
至同九時												

時刻に依る出入船舶總噸數調査表

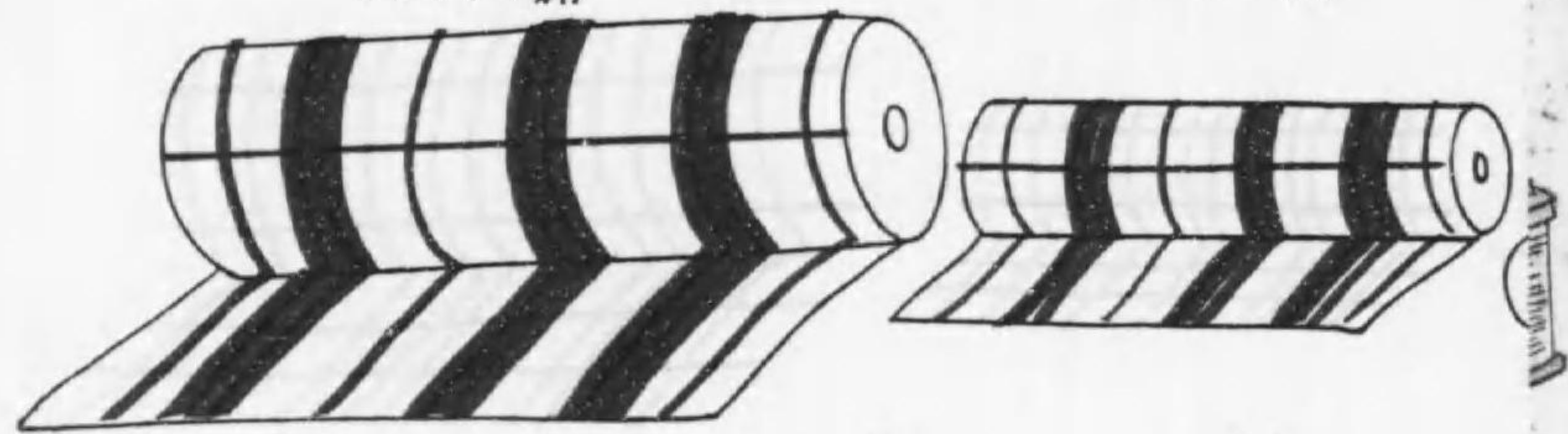
合	至同計	至同六時	至同五時	至同四時	至同三時	至同二時	至同一時	至午前十一時	至同十二時	至同十一時	至同十時
一〇一	九	四	五	一	六	六	一				
九三	二	一	一	二	六	一					
三九〇	五九	二	三	四	三	二					
五八三	七九	二八	三八	四七	四六	八	二				
八八	五	〇	三	五	二	四	二				
七二	五										
一六三	一三	六		一	一	一					
三三三	二	一六	三	六	三	五	三				
一八九	一四	一四	八	六	八	一〇	三				
二六三	一六	一		二	六		二				
五五三	七二	二九	三三	四五	三五	三					
九〇五	一〇二	四四	四二	五三	四九	一三	五				

全上

至同十一時	至同十時	至同九時	至同八時	至同七時	至同六時	至同五時	至同四時	至同三時	至同二時	至同一時	至午後十二時	至同十二時	至同十一時	至同十時	至同九時
一	二	二	四	一	四	七	五	六	二	一	六	七	六		
四	三	三	二	六	三	五	四	五	五	四	四	八	二		
一	一	五	八	九	一	三	四	九	一六	一九	二五	三〇	六		
五	六	〇	一四	一六	八	一五	一三	二〇	二二	二四	三五	四五	一四		
一		三	一	七	六	五	四	六	三	二	一	三	六		
三	七	一	三	三	四	八	四	八	七	三	五	二	一		
二		五	九	五	二	三	六	二	四	二	六	七	四	一	
六	七	九	一三	一五	二	四	九	二〇	一八	二二	一一	一三	九	一〇	
一	二	五	五	八	一〇	二	九	二二	二五	三	七	一〇	二		
七	〇	四	五	九	七	一三	八	一三	二二	七	九	一〇	三		
三	一	一〇	一七	一四	二	三	九	一六	一三	一八	二五	三三	一四	一九	
二	二	一九	二七	三一	二九	六	四	三三	三八	三五	三五	四八	五四	三四	

大正十三年
11174万円

大正十二年
3436万円



棉花

大正十三年
42245万円

大
35



神戸港入航船舶及重要輸出入品比較表

船舶

入航

外國航路船

内國航路船



輸出入

絹織物

生絲

綿織物

綿織絲



棉花

輸

入



機械

毛織絲

羊毛



神戸港入航船舶及重要輸出入品比較表

船舶

入航

外國航路船

内國航路船



輸

出

絹織物

生絲

綿織物

綿織絲



棉花

輸

入



第五章 貨物

第一節 外國貿易

第一款 外國貿易概観

本港外國貿易は歐洲戰爭後大正九年を最好況とし、大正十年には既に早くも反動のドン底に陥り、大正十一年漸く回復の氣運に向ふが如く思はれたれど、大正十二年關東大震災火災のため復大打撃を蒙りて前途を悲觀せられしが、大正十三年に至りては輸出五億八千貳拾九萬圓、輸入拾壹億七千七百四萬圓、輸出入合計拾七億五千七百參拾參萬圓と云ふ未曾有の價格に達せり。之を從來の記録に較ぶるに最大記録歐洲戰爭中の旺盛時代たる大正七年の輸出額を抜くこと四千九拾四萬圓、大正九年の輸入額を突破すること四千九百四拾六萬圓、同年の輸出入合計額を凌駕すること實に壹億壹千七拾六萬圓と云ふ空前の増進を示せり。次に大正十一年以降の全國貿易價額及數量と、本港のそれとの對照表を

示せば、

輸出入別	大正十三年		大正十二年		大正十一年		大正十三年対十二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
全 國	1,807,233	2,453,390	1,447,749	1,987,063	1,637,447	3,994,844	(+)	466,337
神 戸	1,019,765	502,294	852,233	357,122	279,866	444,554	(+)	332,183
全 國ニ 對スル ノ歩合	56.4%	20.5%	59.6%	14.3%	17.0%	11.1%	(+)	8.2%
計	4,984,779	1,757,333	4,818,074	1,365,037	4,664,633	1,136,167	(+)	392,296
輸 入	0,311	0,480	0,508	0,508	0,171	0,455	(+)	0,024
輸 出	4,673,468	1,276,853	4,317,566	1,134,529	4,493,462	1,111,712	(-)	0,028

即ち輸出に於ては前年より七分四厘を増加して三割二分一厘となり、輸入に於ては二分八厘を減少して四割八分の歩合を示せり。

回顧すれば昨秋關東に未曾有の大震災あり、其の影響を受けて一般に不振の域を脱する能はざる上に、震災後幾多の解決を要すべき難問題尠からず、且總選舉の結果内閣の更迭となり、外にありても米國に排日移民法の通過するあり

内外共に多事多端なりき。而も二月英米市場に五億五千萬圓の外債成立し、又火災保險問題、燒失生絲問題等も圓滿に解決され、幾分財界に好影響をあたへたれど、一般事業界は尙整理中に屬し、商工業亦振はざるに、輸入貿易ひこり旺盛をきはめ、所謂復興材料たる木材、鐵、建築材料等の輸入は實需以外の見越輸入も加はりて、三月末日迄の免税期間中に滔々として一時に殺到したるに加へ、當港輸入品の大宗たる棉花は、市場の暴騰に依りて輸入金額を高からしめ、以て空前の入超の因をなせり。翻つて内地市場は供給過多、金融難に陥り、率ては投物の續出となり、財界は沈滞の状態となり、一方對外爲替相場は益々低下の歩調を示し標準相場たる對米爲替は、初季に於て四拾八弗四分の一なりしもの、四月中旬四十弗となり、五月初旬に入るや正に四十弗臺を割らんとするの趨勢にありしも正貨の激減、信用狀の禁止的制限、關稅の復活、對外爲替低落の利益による輸出促進等の理由ありしものならず、久しく停頓せる輸出の大宗生絲の賣行も五月以降漸次良好となり、綿絲又稍活況を呈して入超の勢衰ふるに従ひ、漸次擡頭して季末に於ては四十一弗二分の一に回復するを得、大体に於て安定を保つを得たり。下半年期に入るや輸入漸く減少し、一方輸出は對外爲替の低落と相俟ちて好

勢に向ひ、殊に綿糸布の輸出盛況を呈せり。七月末日政府は輸入防遏奢侈防止等の目的を以て輸入品壹百數十種に對し、關稅定率法の改正を行ひ、關稅を引上げて十割を課したれども、事實は政府の豫想に反して莫大なる當該品の見越輸入行はれたり。此時に膺り外にありてはヴェルサイユ平和條約成立以來六ヶ年の間幾多の紛糾と混亂を重ねたる歐洲問題の癥たりしドイツ賠償問題も、七月のロンドン會議が所謂ドーズ案を採擇するに及びて多年の難問題もここに一段落を告げ、ひいては我財界に幾分の好影響をあたへたり。八月下旬に至るやかねて内亂の徵ありし江蘇浙江間に戰端を發して長江一帶戰亂の巷と化し九月中旬には更に動亂擴大して奉直間の戰爭となり、爲めに支那各地に現銀の急需銀行の取付を惹起せしめ、商品及有價證券の市價暴落し、信用の破壊は延いて金融市場を恐慌の状態に陥らしめ、支那財界の中樞たる上海に於ては錢莊の破綻數軒を數へ、遂に一時一般商取引の杜絶を招來せり。惟ふに對支輸出貿易は初季來好況に向ひ、例年起る排貨運動もなく大に前途を囑望されたるに、たまに輸出旺盛期に動亂起りて多大の打撃を蒙りしが、而も戰局永續するに従ひて實需に動かされ、幾分反動も加はりて商取引次第に開始され、結局前年より八

百萬圓の増加を見たり。翻つて對米爲替は九月下旬に至りて再び下向き、十月初旬には新安値に陥りて遂に三十七弗八分の七見當を示せり。之を平價四十九弗八五に比すれば、實に二割二分強の暴落に相當し、空前の現象をあらはすに至れり。蓋し爲替の下落は輸出増加輸入減少となるを常態とするに拘らず、此際却つて之を一時的道程として反對の傾向を現はし、海外商人は爲替の先安を見越して買見送の態度に出で、内地商は盛に見越輸入を行ひて輸出貿易の伸張を阻害せるが如し。

轉じて通商國の狀況を見るに、輸出にありては前年より總體に増加を示し、減少せるは只露領亞細亞端西の兩國のみなり。前年との比較に於て増加歩合著しきものを擧ぐれば、白耳義の五四割、埃太利の三五割、獨逸の二八割、智利の二七割、加奈太の二三割、亞爾然丁の二二割、伯刺西爾の二二割、英吉利の二一割等なり。之を價額より見る時は、北米合衆國の一億五千七百九萬圓を首位として、英領印度支那英吉利香港濠太刺利蘭領印度等の順位なり。而して前年支那が第二位にありしもの、本年英領印度の次に下りたるは全く動亂の影響によるが如し。輸入においても總體に増加せしが、減少せしを濠太刺利蘭東洲智利諾威加奈太

露領亞細亞、伯刺西爾、祕露、土耳其の九箇國とす。前年に比較して増加せしは新西蘭の八六割、葡萄牙の二四割、埃地利の一九割、瑞典の一七割、蘭領印度、佛蘭西の一六割、和蘭、西班牙の一五割、佛領印度、比律賓、諸島、丁抹の一四割、暹羅、香港、亞爾然、丁埃及、英吉利、白耳義の一三割等にして、之を價額より見る時は、北米合衆國の參億貳千六百九拾萬圓を第一位とし、英領印度、英吉利、獨逸、支那、濠太、刺利、關東、洲蘭、領印度、佛蘭西等の順位となる。之を大陸別に前年と比較するに、歐羅巴の輸出二一割、輸入一二割、北亞米利加の輸出二〇割、輸入一二割、南亞米利加の輸出二六割、輸入八割、亞細亞の輸出一三割、輸入一一割等を歩合増加の主なるものとす。即ち輸出に於て亞細亞に振はざりしもの他に於て倍加し、輸入にありては輸出の如き盛況を見ざりしも減退せしを南亞米利加のみとす。次に當港貿易品の内容を見るに、輸出に於ける生絲の五千五百五拾五萬圓、羽二重の參千六百貳拾萬圓、富士絹及ボンジ一の貳千六百參拾八萬圓、縮緬の壹千七拾七萬圓、綾木綿の壹千五拾五萬圓等、概して前年に比して多大の増加を示し、特に生絲及絹織物の關東震災以來當港輸出品大宗となれるを知るべし。減少を來せるは樟腦の百九拾七萬圓、豆類の九拾八萬圓、燐寸の九拾六萬圓、地氈の七拾貳萬圓、ゴムタイヤ

一の七拾萬圓、マッチ軸木の五拾八萬圓等にして、燐寸、ゴムタイヤの如き當市重要工業品の減退せるは遺憾なり。輸入にありては、練棉の六千四百參拾四萬圓を筆頭に、鐵板の壹千六百拾六萬圓、米の壹千參百六拾四萬圓、砂糖の五百七拾壹萬圓、小麥の四百六拾七萬圓、麻類の四百五拾壹萬圓等を始め、一般に著しく増加し、減少せるは毛絲の五百八拾九萬圓、油槽の五百六拾五萬圓、木材及板の四百七拾八萬圓、亞鉛塊の貳百八拾八萬圓、烏卵の貳百萬圓等を主なるものとす。之を要するに本年の對外貿易は未曾有の盛況を呈したれども、其の内容を見る時は、復興材料の輸入幅湊、邦貨爲替相場の下落、支那の動亂等が主因をなしたるものにして、畢竟變調的現象を顯はしたるものと謂ふべく、對外貿易の前途たるや尙幾多の難關横はり居るを察せずんばあらず。

第二一 輸出入品價額及數量

大正十三年の對外貿易が空前の盛況を呈して新記録を作りたるは前欸に述べたる所なるが、之を前年に對比するに輸出に於て貳億貳千參百拾八萬壹千六百貳拾六圓、輸入に於て壹億六千九百拾壹萬貳千九百四拾七圓、合計參億九千貳

百貳拾九萬四千五百七拾參圓を何れも激増せり。左に大正元年以降本年に至る貿易額を示せば、

年	輸出		輸入		輸出入合計	輸入超過額
	額	ノ千分比例	額	ノ千分比例		
大正元年	一五〇、四七五、八七二	三三・五	三〇二、一九九、八〇三	六六・六	四五二、六七五、六七四	一五、二九六、二五三
二年	一七〇、四七〇、〇三九	三三・二	三四六、六〇八、七七七	六六・九	五一七、〇七九、〇一六	一七、五三八、六八五
三年	一六七、五三三、六三六	三七・四	二八一、九九九、九一一	六六・六	四四九、四八二、五四七	一一、八六五、二〇五
四年	一九七、五九七、八三〇	四三・三	二六九、二六、五九八	五七・七	四六六、八二四、三八	七、二五八、六三五
五年	三三一、〇四、六四〇	四七・〇	三七四、〇九九、〇七〇	五三・〇	七〇五、〇三三、七〇	四三、三四三、四九五
六年	四七九、七七〇、八八九	四七・四	五三〇、九九〇、四一一	五二・六	一、〇一〇、六九九、九三〇	五三、四一八、五七九
七年	五三九、三五〇、三九三	四〇・九	七九四、三〇、三三四	五九・一	一、三三三、六六〇、六六六	二四六、三三九、五三八
八年	四四三、二四九、一六六	三〇・八	一、〇五、四一、七六〇	六九・二	一、四五八、三九〇、八七六	五七〇、八七六、八〇九
九年	五一八、九八七、二五二	三三・七	一、二七、五五六、八三三	六八・三	一、六四六、五六四、〇八七	六〇六、三五四、六四四
十年	二二九、一四四、三六九	二二・〇	七七八、〇九、六三二	七七・〇	九九七、三三三、七三一	五三九、〇六四、九九三
十一年	二七九、八二一、五三〇	二四・六	八五六、三三六、七五五	七五・四	一一、三六、一七八、二〇五	五七六、五五、一四五
十二年	三五七、二二一、八九二	二六・二	一、〇七、九六六、四六一	七三・八	一、三六五、〇三八、三五二	六五〇、八一四、五六四
十三年	五八〇、二九三、五一七	三三・〇	一、一七、七三九、四〇八	六七・〇	一、七五七、三三三、九五	五九六、七四五、八九一

右表によりて輸出と輸入との割合を見るに、大正初年は三と七となりしもの大正三年より漸次輸出の擡頭に依りて大正四年は四と六との割合となり、其後

四ヶ年間は歐洲戦争の影響によりて輸出好況時代引續きたるが、大正八年より輸出漸次衰へて三と七との割合に返り、同十三年亦此の割合を持続せしが、但輸入超過額の前年に比して減退せるを見る。蓋し本年總體に於て輸出貿易の活況を呈したるに依ると雖も、生絲及絹織物等の輸出が其の貿易額を高からしめたるに依る。之を各月別に示せば、

月	輸出			輸入			輸入超過額	
	額	ノ千分比例	ノ千分比例	額	ノ千分比例	額	額	
一月	三九、三三九	三三・五	一六、六三三	二二、三三八	七、五〇七	九七、八四四	八、二二一	
二月	三六、五四三	三二・九	一八、二四三	一五、三九三	七、九〇〇	二六、三六〇	六、五三〇	
三月	四二、五六六	二八、一六六	二六、三三〇	一四、一〇三	九、五七四	九六、五六二	七〇、二三三	
四月	五二、五〇八	二五、六四九	二七、一三四	一六、六三二	八、四四一	八〇、九三八	六七、五四八	
五月	五三、七六一	二五、五八〇	二六、九七八	一一、〇九九	八、七六八	七六、〇〇四	五五、七五二	
六月	四七、二七一	二二、二八六	二四、一八	八、三三五	一〇、一六〇九	七〇、五三二	四六、四〇三	
上半期計	二七一、八八七	一四、四六五	一三九、四四六	七六、三九九	五、五八三九	五〇八、六五一	三三〇、七四	
七月	四六、七八〇	二二、四九九	一八、四九一	六、五八七	七、八二二	六〇、五八	一、〇三六	
八月	五三、四八五	二二、七五五	二〇、二八八	七、五八八	七、四九六	六四、〇二九	一、三九六	
九月	五〇、五七〇	二八、六〇四	二二、八六七	六、五五四	五、〇六四	六四、七九九	一、四七四	
十月	五一、二八一	二八、一九七	二四、二七八	七、三九九	八、五二八	四三、三九七	一、三三二	
十一月	五二、七三三	四四、二六三	二五、二七四	九六、二四〇	一〇、三九二	五三、〇四四	四三、五〇七	

十二月	五、五七七	四〇、三三〇	二九、一七六	八三、一九三	一〇一、七二五	六二、八六七	二九、六三六	六二、三六五	三三、六九一
下半年計	三〇八、四〇七	二二、六四六	一四〇、三六六	四六〇、六七〇	四九三、〇八七	三〇七、七〇五	一五二、二六四	二八〇、四四一	二〇七、三三九
累計	五〇、二九四	三五七、一一三	二七九、六三三	一、一七七、〇三九	一、〇〇七、九二六	八五六、三五七	五九六、七四六	六五〇、八二四	五七六、五三五

即ち一月二月は輸出振はざりしも三月に至りて稍活氣づき、五月頃より生絲羽二重等の賣行良好となり、綿糸布亦稍向上の氣運を示したるも、八月支那動亂の起れるにつれて本港の生命たる支那貿易に多大の影響を與へ、豫期の成績をあげ得ざりしは遺憾なりき。輸入にありては年初以來復興材料の輸入旺盛をきはめたるも、棉花相場騰貴によりて其の貿易額を高からしめたるを見る元來當港の貿易は上半期に輸入旺盛をきはめ、下半期に輸出活況を呈するを例年のならひとすれど、本年は叙上の理由によりて此の傾向特に激しく、上半期既に入超四億萬圓を算せり。尤も大正十二年末三ヶ月間に輸入貿易價額の甚しく膨大せるは、横濱港潰滅の爲め同港揚貨物が當港揚に變更されたるが爲めなり。

輸出

次に全國神戸港大阪港横濱港の各輸出入價額及全國との割合を示すに、

年	全國		神戸		大阪		横濱	
	價額	割合	價額	割合	價額	割合	價額	割合
大正元年	五三六、九六二	二八六	一五〇、四七六	二八	五七、三二二	一〇九	二五七、八五一	四八九
同二年	六三三、四六〇	二七〇	一七〇、四七〇	二七	七三、四三三	一一六	三二六、八二一	五〇一
同三年	五九一、〇一一	二八三	一六七、五三三	二八	七四、三四三	一一六	二六九、四三三	四五六
同四年	七〇八、〇三七	二七九	一九七、五九八	二九	九三、八三三	一一三	三〇五、九五四	四三三
同五年	一、二七、四六八	二九四	三三一、一〇五	二九	一四一、八〇五	一一六	四九七、九五三	四四二
同六年	一、六〇三、〇〇五	二九九	四七九、七七二	二九	二五五、三二七	一五八	六六七、〇六五	四一六
同七年	一、九六二、一〇一	二七五	五三九、三五〇	二七	四〇五、八二五	二〇七	八二六、九九〇	四一六
同八年	二、〇九八、八七三	二二二	四四三、二四九	二二	四三八、八三二	二〇九	一、〇一九、三二〇	四八六
同九年	一、九四八、三九五	二六六	五八、九八七	二六	四七二、〇〇七	二四二	七六六、一六四	三九三
同十年	一、二五二、八三八	一八三	二九、一四四	一八	二九二、〇五八	二二二	六〇二、九九三	四八一
同十一年	一、六三七、四五二	二七	二九、八三三	二七	三三、七七五	一九七	八九五、四六三	五四七
同十二年	一、四四七、七四九	二四七	三五七、一一二	二四	二九六、七七〇	二〇五	六六八、六一二	四六三
同十三年	一、八〇七、二三三	二六〇	五八〇、二九四	三二	四〇二、三七九	二二二	六七二、二八四	三七二
平均	—	—	—	—	—	—	—	—

年	全國		神戸		大阪		横濱	
	價額	割合	價額	割合	價額	割合	價額	割合
大正元年	六二八、九九二	四八八	三〇二、二〇〇	四八	二六、五八三	四三	二二五、三七〇	三四八
同二年	七九、四三二	四七五	三四六、六〇九	四七	四一、六七六	五七	二二五、一〇二	三三

神戸港大観

年次	輸出貨物	輸入貨物	計
同三年	五九五、七六六	四七三	一、〇二八、五三二
同四年	五三三、四九〇	五〇六	一、〇三四、九八六
同五年	七六六、四二八	四九五	一、五三二、八七三
同六年	一、〇三五、八二二	五三三	一、五八九、一五五
同七年	一、六六八、一四三	四七二	二、一四〇、三一二
同八年	二、一七五、四〇〇	四七二	二、六四七、八七二
同九年	二、三三三、一七五	四八三	二、八一六、三五六
同十年	一、六四四、一五五	四七六	二、一二〇、三三一
同十一年	一、八九〇、三〇八	四七三	二、三六〇、六八一
同十二年	一、九八七、〇三三	五〇七	二、四九四、〇七〇
同十三年	二、四五三、三九〇	四八〇	三、〇三三、七七〇
平均	—	四八四	—

即ち横濱港の貿易は全國過半の輸出と、約三割の輸入とをなし、隣接の大阪港は約二割の輸出、約一割の輸入をなし、當港は全國過半の輸入をなし、約三割の輸出をなせり。蓋し横濱港が輸出價額に於て首位を占むるは、方に本邦輸出の大宗たる生絲を包含せるに依らずんばあらず。而も昨年末より當港にても生絲の輸出を見るに到り、其の額本年は八千八百萬圓の巨額に達したり。羽二重其他の絹織物亦當港より輸出するもの漸次増加し、本年の如き既に其の全國に於

ける九割の輸出を見たるを以てしても、當港の輸出貿易は將來支那南洋印度歐洲等に對する地勢の利と相俟ちて、益々活況を呈すべきは豫想に難からざるなり。

本年輸出入貨物の數量は、輸出百一萬九千七百八拾五噸、輸入三百九十六萬四千九百九十四噸、合計四百九十八萬四千七百七十九噸にして、前年に比して輸出に於て十四萬四千五百五十三噸、輸入に於て二萬二千五百五十二噸、合計十六萬六千七百五噸を増加せり。價額に於て前年よりは莫大なる増加を示しながら、數量に於て大差なく、數量は前年の輸出十一割六分、輸入十割一分なるに、價額は輸出十六割二分、輸入十一割七分の割合たり。斯の如き現象を表はすに至りたるは、貨物價額の平均單價が騰貴したるを意味するものにして、其の原因種々あらんも、邦貨爲替相場の高落、復興材料の多額輸入、棉花相場の高騰、生絲羽二重其他絹織物等の如き高價品の多量に當港より輸出を見たる等に因る。

今大正元年以降同十三年迄の輸出入噸量を表示すれば左の如し。

年次	輸出貨物	輸入貨物	計
大正元年	一、〇〇五、一七九噸	二、二八〇、八〇一噸	三、二八五、九八〇噸

工業品輸出の活況を見ざるは、我産業發達の趨勢日尙淺き所以にして、歐米先進國に比し甚だしく見劣りするを遺憾とすべし。今大正元年以降同十三年迄の輸出入品を大別して價額及其比例を記すれば、

輸出

Table of export data for Kobe Port from 1910 to 1924. Columns include year, food products, food products, small items, raw materials, raw materials, full products, miscellaneous, and total. Values are in thousands of yen.

輸入

Table of import data for Kobe Port from 1910 to 1924. Columns include year, food products, food products, small items, raw materials, raw materials, full products, miscellaneous, and total. Values are in thousands of yen.

即ち大正十三年の輸出にありては、其總額の五割八分八厘を全製品とし、原料用製品二割五分七厘、食料品六分三厘にして、大正元年以降同十三年迄の平均は全製品四割九分三厘、原料用製品三割二分五厘、食料品一割九厘、原料品五分三厘

の割合なり。輸入にありては其總額の五割八分を原料品とし、原料用製品二割六厘、全製品一割八分九厘、食料品九分四厘とす。大正元年以降同十三年迄の平均は、原料品五割八分八厘、原料用製品二割一分二厘、全製品一割二分五厘、食料品七分と云ふ割合にして、過半は即ち原料品なり。而して之を價額より見れば、本年の輸出は全製品參億四千壹百五萬圓、原料用製品壹億四千九百拾貳萬圓、原料品四千五百拾九萬圓、食料品參千六百七拾貳萬圓、雜品八百拾九萬圓にして、前年に比し全製品壹億參千八拾六萬圓、原料用製品六千七百八拾壹萬圓、原料品貳千壹百八萬圓、食料品九百參拾萬圓、雜品四百拾貳萬圓を何れも増加せり。こは全製品の中燐寸、ゴム、タイヤ、地氈、板紙等の輸出減少したるも、絹織物、綿織物、手布、硝子製品、ガラス等の増加を來し、原料用製品にありては生絲、麻、眞田、薄荷、腦、樟腦、魚油其他を、原料品に於ては、絹屑物、屑綿、屑糸、肥料其他の増加を見、食料品にありては豆類、昆布、玉葱等減少したるも、錫、椎茸、精糖、寒天、製茶等の増加せし爲めなり。輸入は原料品五億九千七百七拾七萬圓、原料用製品貳億四千貳百六萬圓、全製品貳億貳千壹百八拾七萬圓、食料品壹億壹千壹百拾六萬圓、雜品四百拾五萬圓にして、前年に比し原料品六千六百四拾六萬圓、全製品四千四百六萬圓、原料用製

品參千四拾四萬圓、食料品貳千六百九拾九萬圓を何れも増加せり。これ原料品の油、精、木材及板、硝酸、曹達、菜子等の輸入が減じながら、線、綿、麻、類、羊毛、生、護、獸、皮等の増加を來し、全製品の機械類、貴石等を減じたるも、羅紗、紙類、傘、地、懷、中、時、計、鐵釘等を増加し、原料用製品の鉛塊、毛糸、銑鐵、亞鉛塊等を減じたるも、鐵類、揮發油、機械油、革類等を増加し、食料品の鳥卵、煉乳、生鳥獸肉、小麥粉等を減じたるも、米、小麥、砂糖等を増加したるに因る。次に本年重要輸出品中壹百萬圓以上の價額に達せしもの五十三種を掲げ、前年のそれに對照するに左の如し。

輸 出

類別	品名	單位	十三年		十二年	
			數量	價額	數量	價額
食料品	豆	擔	一三,五八	一,三七	一〇,七五〇	二,三〇八
	昆	同	一三,三六	一,二八	三三,〇九八	一,七七〇
	鰯	同	一五,八三	四,九五九	一〇,四九八	三,六四九
	貝	同	九,二九九	一,三二五	七,六五二	八六四
	椎	同	八,八六五	二,〇七三	六,一三八	一,一〇一
	天	斤	一,六三三,六七五	四,〇〇七	一,三七〇,八〇六	三,〇〇一
	糖	斤	三六,一三六	五,三三〇	九九,一九五	一,二七四
	酒	擔	一三,八八三	二,〇〇九	一三,七六六	一,九五二
	石	擔				
	布類	擔				

品	原	料	用	製	品	全
箱板及木材	箱板及木材	箱板及木材	箱板及木材	箱板及木材	箱板及木材	箱板及木材
屑綿糸	屑綿糸	屑綿糸	屑綿糸	屑綿糸	屑綿糸	屑綿糸
魚油	魚油	魚油	魚油	魚油	魚油	魚油
樟腦	樟腦	樟腦	樟腦	樟腦	樟腦	樟腦
薄荷	薄荷	薄荷	薄荷	薄荷	薄荷	薄荷
生糸	生糸	生糸	生糸	生糸	生糸	生糸
紡績	紡績	紡績	紡績	紡績	紡績	紡績
綿織	綿織	綿織	綿織	綿織	綿織	綿織
麥稈	麥稈	麥稈	麥稈	麥稈	麥稈	麥稈
麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻
マツチ軸	マツチ軸	マツチ軸	マツチ軸	マツチ軸	マツチ軸	マツチ軸
石鹼	石鹼	石鹼	石鹼	石鹼	石鹼	石鹼
燐	燐	燐	燐	燐	燐	燐
羽	羽	羽	羽	羽	羽	羽
縮	縮	縮	縮	縮	縮	縮
富士絹及ボンゾ	富士絹及ボンゾ	富士絹及ボンゾ	富士絹及ボンゾ	富士絹及ボンゾ	富士絹及ボンゾ	富士絹及ボンゾ
綿	綿	綿	綿	綿	綿	綿
綾	綾	綾	綾	綾	綾	綾

品	製	品
綿	綿	綿
生金巾及生シーチン	生金巾及生シーチン	生金巾及生シーチン
天竺	天竺	天竺
綿アランケット	綿アランケット	綿アランケット
綿メリヤス肌衣	綿メリヤス肌衣	綿メリヤス肌衣
靴	靴	靴
手	手	手
帽	帽	帽
鈕	鈕	鈕
印刷	印刷	印刷
磁器	磁器	磁器
地磁鐵	地磁鐵	地磁鐵
ゴムタイヤ	ゴムタイヤ	ゴムタイヤ
花	花	花
竹製	竹製	竹製
洋傘	洋傘	洋傘
ランプ又同部分	ランプ又同部分	ランプ又同部分
諸機	諸機	諸機

雑品	硝子製品	一	一	五、二〇〇	一	三、五六一
除虫菊及殺虫粉	摺		三、七三		三、八七	二、四三

即ち壹百萬圓臺のもの十種、貳百萬圓臺九種、參百萬圓臺九種、四百萬圓臺五種、五百萬圓臺五種、六百萬圓臺二種、七百萬圓臺二種、八百萬圓臺三種、千參百萬圓臺千五百萬圓臺、貳千萬圓臺、貳千壹百萬圓臺、參千六百萬圓臺、參千八百萬圓臺、五千貳百萬圓臺、八千八百萬圓臺のもの各一種にして、壹千萬圓以上の輸出額に達せしものは僅に八種に過ぎず。而して輸出品目中の大宗は生絲の八千八百萬圓にして、五千貳百萬圓の羽二重之に次ぎ、參千八百萬圓の富士絹及ボンジー、參千六百萬圓の生金巾及生シーチング、貳千壹百萬圓の綾木綿、貳千萬圓の綿糸、壹千五百萬圓の綿メリヤス肌衣、千參百萬圓の縮緬等の相順位し、生絲及絹織物の當港輸出品目の最重要品となりたるを注目すべし。此等の中前年に比して顯著なる増加をなせるは、生絲の五千五百萬圓を筆頭として、羽二重の參千六百萬圓富士絹及ボンジーの貳千六百萬圓、縮緬及綾木綿の壹千萬圓、絹屑物の六百萬圓生金巾及生シーチングの五百萬圓等にして、之に反し減少したるは樟腦百九拾

萬圓、豆類燐寸各九拾萬圓、地氈、ゴムタイヤ各七拾萬圓、昆布、マツチ軸木各五拾萬圓等を主なるものとす。燐寸及ゴムタイヤの如き神戸市重要工業品の輸出減退を見たるは遺憾なり。因に從來生絲は横濱港を唯一の輸出港となし居たるも、遇々昨年の震災によりて其貿易機能に障害を生じたるを以て、當港より之を輸出するに至れるなり。昨年神戸税關にて輸出手續を受けし分にては、參千貳百萬圓に達し、本年は八千八百萬圓と云ふ莫大なる輸出を見、本港輸出品中の主要なる地位を占むるに至りたるが、而も之を全國輸出總額に比する時は、本港積横濱税關輸出手續濟の分を加算するも、尙僅に二割に過ぎざるを見て、前途益々發展の餘地あるを知らる。絹織物の輸出は、從來極めて小額に過ぎざりしが、是亦昨年より俄に激増して參千四百萬圓となり、全國輸出總額の四割に當り、更に本年は突如壹億壹千壹百萬に昂進して全國輸出總額の九割を占むるの盛況を呈せり。今絹織物及生絲の全國本港輸出額(神戸税關にて輸出手續の分)及其割合を記すれば左の如し。

絹織物

年次	全	國	神	戸	割	合
大正十年	八五、二〇七			五、四八〇		〇、〇六四
同十一年	一〇五、〇六九			八、四五六		〇、〇八〇
同十二年	九二、三六九			三四、三六二		〇、三七二
同十三年	一二五、八四五			一一一、七四九		〇、八八八

年次	全	國	神	戸	割	合
大正十二年	五六八、三七〇			三二、九一三		〇、〇五八
同十三年	六八五、三五八			八八、四六六		〇、一二九

轉じて輸入品目中壹百萬圓以上の價額に達せしもの五拾六種を掲げ、大正十二年のそれと對照するに、

類別	品名	單位	十三年		十二年	
			數量	價額	數量	價額
食料	米	擔	三、六九一、五四四	三〇、〇五二	二、五一六、八六三	一六、四〇八
	大豆	擔	二、九九二、四三五	一八、九四〇	二、二〇四、一四三	一四、二六八
其他	豆類	擔	九五四、一九二	六、二九二	一、三三八、九五三	七、一七四
	深類	擔	一、〇三三、八六三	七、五九三	九九一、一三七	六、一三三
高	ノ	同		一、〇八八		七六六

品	原	品	十三年		十二年	
			數量	價額	數量	價額
製牛皮及水牛皮	油原	鳥卵	一九八、五三五	六、二〇三	二七九、四三七	八、二〇五
			二、〇九八、四二七	二、八九八	一、二六〇、八二六	三、八九九
煉魚乾果	砂糖類	肉卵	八九四、四一八	三、五六一	六九八、〇七	六、八六五
						四、七六四
松酸	硝酸	貝殼	一、六〇八、六四三	一五、〇九七	一、五三六、五二七	一五、一九六
			一、四五一、四五二	三、二四七	一、〇〇五	五、一一二
硫酸アンモニヤ	生漆	生漆	二三八、九六九	一六、七七七	二三四、二九三	一五、〇二二
			一、二八二、六二八	一、六七四	九七九、五八五	一、三三三
綿類	毛類	石毛	五、七六二、二七五	四三、四五三	六、二九五、八八九	三五八、一一一
			六九六、二四三	一三、三二二	六一五、〇九四	八、八〇二
燐木	油	燐木	三二四、六二八	五二、三三八	三五〇、九二二	五〇、五四八
			九三、五八三	二、三九三	四九七、七三三	一、〇三八
木	油	燐木	四、六五二、四六〇	二、六三三	五、八五四、九七二	二七、二八四
			六、一〇、三九二	二、六八四	六二八、三三九	二、五三〇
穀	油	燐木	三二、三六五	二、八五九	三七三、一七一	一、八六九

羅紗の參千八百參拾七萬圓米の參千五萬圓等にして、殆んど纖維工業原料品を以て満たされり。機械類の輸入多額は文化進展の道程として、我國機械工業の發展を意味し、鐵板の輸入多額は製鐵事業の幼稚、鐵原料の不足をあらはせり。要するに前述の如く我國は天然の資源に乏しく、食料品原料品は外國に仰がざるべからざる状態なり。次に本年輸入品目中著しく價額の増加せるものは繰綿の六千四百參拾四萬圓を筆頭に、鐵板の壹千六百拾六萬圓、米の壹千參百六拾四萬圓、砂糖の五百七拾壹萬圓、小麥の四百六拾七萬圓、麻類の四百五拾壹萬圓等を主たるものとす。反之減少せしものは毛糸の五百八拾九萬圓、油槽の五百六拾五萬圓、木材及板の四百七拾八萬圓、亞鉛塊の貳百八拾八萬圓、鳥卵の貳百萬圓等を主なるものとす。繰綿の輸入額がかく激増せるは海外市場に於ける價額の騰貴を原因とす。

本年七月政府は奢侈防壓勤儉力行を目的として關稅定率法の改正を行ひ、費澤品等に十割の關稅を課したるは第一款に述べたる所なるが、政府の細心の注意ありしにも不拘、見越輸入等もありて多額の輸入を見、舊稅率適用の分まで加算すれば、五ヶ月間に壹千萬圓以上の價額に達したり。今新稅率適用の分のみ

の輸入額を各月別に示せば左の如し。

八月	三三三、五六七圓
九月	二三一、五四八圓
十月	七四四、二二二圓
十一月	五二五、五三〇圓
十二月	四三五、三四七圓
計	一、九七〇、二二四圓

之を品種別に掲示すれば左の如し。

品名	單位	數	量	價額
蜂蜜	斤	同	四〇五	一七三
菓子類	同	同	五三、三八八	五二、二四二
ジャム	同	同	三、六八五	一、六六一
ウイスキー(蠶入)	同	同	一四、六三三	四六、五七一
ウイスキー(其他)	同	同	四、七二六	六、五三九
麥酒	同	同	三四二	三四七
其他酒	同	同	一三、三七四	一七、三九四
蔬菜果實及核子(砂糖貯蔵)	同	同	二〇、九一一	一七、一四六

阿弗利加洲	三、三三七	一五、四四二	一五、八九六	二、〇三三	一六、〇七七	二二、四四五	三、六〇三
其計	四二、七六五	二七、三三三	一五、四四三	一、五七七	五六、四一九	六、二七六	四、八五七
獨逸	五八〇、二九四	三五七、二二二	三三三、一八二	一、六三	一、七七、〇三九	一、〇〇七、九三六	一、六九、二二三

次に本港重要通商國數箇國貿易額を、全國のそれに對比して本港貿易の地位を見るに、

支那	關東州	香港	英領印度	海峽殖民地	關領印度	佛領印度支那	暹羅	英領吉羅	佛蘭西	獨逸	北米合衆國	輸出		輸入	
												全	神	全	神
三、四八、元九	七、二、五九八	七、九、〇二〇	一、五、三七三	三、三、七四二	五、九、三三四	二、四、三八	三、三、〇三八	四、一、〇四四	八、五、七〇〇	八、五、六四四	七、四、四六三	五、七、〇二二	五、七、〇二二	一、〇、一八	一、〇、一八
五、七、〇二二	二、二、九四三	三、七、三七五	五、八、三九六	一、六、〇三七	二、七、五九二	一、七、九二	三、〇、〇三三	四、三、六四七	一、七、五〇一	七、八二九	一、五七、〇九九	〇、一、六	〇、一、八	〇、一、八	〇、一、八
二、三、七四二	二、三、七四二	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	二、三、七四二	二、三、七四二	一、七、五、七三	三、七、〇二
三、三、〇三三	三、三、〇三三	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	三、三、〇三三	三、三、〇三三	一、七、五、七三	三、七、〇二
三、三、〇三三	三、三、〇三三	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	三、三、〇三三	三、三、〇三三	一、七、五、七三	三、七、〇二
三、三、〇三三	三、三、〇三三	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	三、三、〇三三	三、三、〇三三	一、七、五、七三	三、七、〇二
三、三、〇三三	三、三、〇三三	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	三、三、〇三三	三、三、〇三三	一、七、五、七三	三、七、〇二
三、三、〇三三	三、三、〇三三	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	三、三、〇三三	三、三、〇三三	一、七、五、七三	三、七、〇二
三、三、〇三三	三、三、〇三三	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	三、三、〇三三	三、三、〇三三	一、七、五、七三	三、七、〇二
三、三、〇三三	三、三、〇三三	〇、四、四七	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、四、四七	〇、七、〇	〇、八、二	〇、七、〇	〇、七、〇	〇、九、二	〇、二、二	三、三、〇三三	三、三、〇三三	一、七、五、七三	三、七、〇二

即ち輸出にありては獨逸の九割一分、濠太刺利の八割六分、暹羅の八割三分、比律賓諸島の八割一分、輸入にありては埃及の八割三分、佛蘭西の七割三分、海峽殖民地の六割五分、獨逸の六割三分等を主とし、本港通商國の首位にある北米合衆國の輸出が僅かに二割一分、輸入四割九分、支那の如きも輸出一割五分、輸入三割二分の歩合に過ぎざるが、何れも今後益々發展の餘地あるを争ふべからず。

第五款 仲繼貨物

仲繼貨物を大別すれば積戻貨物、運送貨物、他港輸出手數濟積移貨物の三種となるが、後二者は税關にて通關手數を了したる港の貿易統計に計上され、本市にては之を内國貿易統計中に加算するが故に、本款に於ては積戻貨物即ち外國より輸送し來りたる貨物を本港に陸揚し、更に之を國外の他方に仕向くる貨物のみに就て述べんとす。本港の積戻貨物の多量なるは他港に其比を見ざる所なるが、而も歐洲戰爭中を極盛として漸次遞下の趨勢にあり。蓋し是れ本港が仲

埃及	二七、〇〇〇	一〇、一八一	〇、〇七五	一七、〇二五	一五、二二六	〇、〇八三
濠太刺利	四、九一〇	三、九六五	〇、〇六六	一、九四四	五、八〇六	〇、〇四五

繼貿易港としての地位に動搖を來したる爲にして、之が原因は外にしては大連港の修築工事竣工して歐米と關東州との直通航路の開けたるあり、内にしては關稅制度の改正、航路の延長等を主なるものと見るべし。

本年の積戻貨物は十二萬九百四十五噸、此價額四千八拾八萬圓にして、之を前年に比するに數量に於て十三噸を減じたるも、價額に於て五百拾參萬圓の増加を示せり。今試みに大正元年以降の積戻貨物の數量を記するに、

大正元年	一二九、四一三噸
大正二年	一六七、一一一噸
大正三年	二〇一、八一七噸
大正四年	三九九、〇〇九噸
大正五年	四三五、四一三噸
大正六年	四七九、九二五噸
大正七年	六九四、五〇六噸
大正八年	五五六、九五七噸
大正九年	四〇七、三七九噸
大正十年	一五〇、八五四噸
大正十一年	一四二、六三〇噸
大正十二年	一一〇、九五八噸
大正十三年	一一〇、九四五噸

即ち前述の如く大正四年より大正九年迄の六ヶ年が最も好況を呈したるが

是れ全く歐洲戰爭中船腹の不足によるものなり。次に之が仕出國及仕向國別本年及前年の數量を記すれば左の如し。(△印ハ減)

國名	仕出		仕向	
	十三年	十二年	十三年	十二年
支那	一一、九九五	三、四一九	△九、四四四	三、二六五
關東州	一三、一〇四	八、四二五	四、六八九	三、七四四
香港	一、八八五	四三三	一、四五二	四、一五五
英領印度	三三、七六四	二七、一三三	△四、三七一	四九
海峽殖民地	二、七八	一、〇一六	一、七六三	一、七三二
露領印度	五、一〇二	四、九二	一八一	一、七三二
露領亞細亞	三、六七六	二、三七四	一、三〇二	四、〇九九
他ノ亞細亞	四、三三三	四、二六	四八	二、一七
英吉利	七、三九七	七、三九七	△三、〇六五	一八五
佛蘭西	七	二二	五	三、三三九
白耳義	五、八九〇	三、五二〇	二、三八〇	一、五二八
瑞典	五二六	六八三	一五六	三六九
諾威	二四九	二四九	二五	三六九
和蘭	二四九	二四九	二五	三六九
他ノ歐羅巴	八、九六八	四、二五八	四、七〇	二八、二七〇
北美合衆國	一七、七六八	二七、六二七	△九、八四九	四〇
加奈陀	五、一九一	五、〇八〇	一一一	四、四〇〇

當港に於ける内國貿易荷役場の設備は外國貿易に比し頗る不備にして、漸く國産波止場荷役岸、葺合港、兵庫新川運河及兵庫島上町沿岸等あるも、何れも規模狭小にして海陸運輸の連絡不十分なれば、貨物集散の敏活を缺き、荷役の澁滞頗る大に、其不便云はん方なし。政府は此の點を察知し、本港第二期擴張工事に於て内國貿易方面にも意を注ぎ、國産波止場海岸通地先、兵庫新川沖に大設備をなし、殊に大正十五年度中には兵庫新川沖に突堤一本を完成するの豫定なるを以て、之が利用せらるゝによりて當港内國貿易も一段の色彩を加ふることならん乎。現下の荷役岸利用状況を略述すれば次の如し。

(一) 國産波止場 當荷役岸は市の中央部に位し、内國貿易に於ける樞要なる貨客吞吐の玄關口なれば、其の出入船舶の繫離頻繁なる殆んど晝夜の別なきも、何分背面の地域狹隘にして荷役の不便尠からざるに拘らず、當港集散内國貨物の約四割が當岸にて荷捌きせらるゝの現況にして、臺灣九州四國北海道及大阪沿岸との往復殊の外繁し。

(二) 葺合港 近畿沿岸に往來する帆船の船溜にして、貨物の集散極めて少く、只工場地帯を控ふる關係上原料品の些か動くに止り、従つて取扱數量の如きも全

量の六分見當に過ぎず。

(三) 兵庫島上町及新川沿岸 この地は將來内國貿易設備の完備と相まち大に發展すべき沿岸にして、現に蝟集する船舶の混雜想像外にあり。其中島上町附近一帯は四國北海道及紀淡方面に於ける船客の集散地にして、殊に朝鮮貿易貨物の多くはこの沿岸にて荷捌きせらるゝ外、四國よりの鐵道連絡貨物のすべてが同所を經由する關係上、其の取扱數量は約五割を下らず。兵庫新川及運河方面は四國・中國・九州より上る帆船の集合地にして、船舶運用上最も至便の地たるのみならず、安全の碇繋所たる關係上、無數の帆船隨所に碇泊し、交通亦最も頻繁にして空所なき迄の盛況を呈せり。

第二款 内國貿易に於ける神戸港の地位

當港はたゞに世界有數の輸出入港たるのみならず、内國貿易港として、夙に其名を四海に馳せ、其の繁華日一日と盛んにして、商船買船常に灣頭に輻輳せり。惟ふに當港は瀬戸内海を中心とし、中國四國九州各方面を一大背景とし、之を西にしては遠く臺灣朝鮮各航路の基點となり、之を東にしては北海道樺太に對す

る發着地となり、其の貨物の集散地域の如きも亦廣汎にして殆んど全國に及び我内國貿易上嶄然として一頭角を顯せり。今試に内務省の港灣統計により本邦主要港について其の利用状態を比較するに、當港の取扱數量は四百九十八萬十六噸にして第四位たるも、價額に於ては九億五千九百六拾九萬四千拾七圓にして第二位たり。是れ其の取扱品種が比較的他港に比して全製品に多く、従つて噸當り價額の高き爲と見られ、大阪は量價共に第一位たるも原料品多く、約五割は石炭並に木材に占めらる。若松港が噸數に於て第二位たるは勿論石炭の爲移出によるものとして當然の現象たるを首肯さるべく、横濱港は大震火災の爲め常態と見得ざるも尙量に於て當港を凌ぎ、東京は港灣設備尙間然する處あるに當港に次ぐの數量を表せるは一に震災による救賑品の影響と見得らるべし。大正十三年に於ける比較は未だ知り難きも、當港内國貿易が遙かに大正十二年を凌駕し、噸數に於て六百三十八萬五千九百七十六噸、價額に於て拾參億六千參萬壹千壹百四拾八圓たるを見て、この順位に多少の變化を免れざるべし。今他の比較を表示すれば左の如し。

本邦主要港發着貨物比較表 (大正十三年 内務省統計ニ依ル)

港名	發着		貨物	
	噸數	順位	價額	順位
大阪	八、五〇〇、三三四	一	二、一五五、九五七、八四四	一
松濱	八、〇九一、四五三	二	一、二四、六五六、五二五	十一
横濱	六、三六五、〇九四	三	六九九、二二三、〇〇八	三
神戸	四、九八〇、〇一六	四	九五九、六九四、〇一七	二
東京	四、五九八、四六〇	五	六〇二、一四三、〇〇七	四
名古屋	二、九五三、七三三	六	一六六、一六八、〇六九	九
下關	二、二三三、八一	七	三五四、七〇三、四三〇	五
函館	二、二〇六、七一五	八	三二七、七六一、六二四	六
小樽	二、〇〇七、三六一	九	二三七、三三四、六八七	七
門司	一、八四六、四〇三	十	二〇二、八一〇、六五八	八
室蘭	一、六八四、八九四	十一	九九、八五四、四一四	十二
青森	一、〇五八、六五四	十二	一三八、八〇四、一〇〇	十
博多	九一六、二一一	十三	二九、五九二、四三九	十六
長崎	八八三、八九六	十四	五三、三〇九、六七一	十五
清水	七九三、一六七	十五	七五、六〇三、六五五	十四
鹿兒島	三二〇、九二〇	十六	八三、七二九、四四三	十三

翻つて當港内外貿易の對比を見るに、價額に於ては依然外國貿易優勢を持続すと雖も、噸數に於ては漸次内國貿易が重要な地位に進みつゝあるのみならず、噸數價額を通じて比率の近年遞増せるは、當港として看過すべからざる現象

なりとす。之を表示すれば左の如くなるが、但一般に外國貿易品の内國貿易品よりも高價なるもの、取引さるゝ關係は、兩比率を見る上に於て多少の注意を要する所とす。

神戸港内外貿易比率表

年次	噸數		價額	
	内國	外國	内國	外國
大正元年	四六%	五四%	二九%	七一%
同二年	四三%	五七%	二五%	七五%
同三年	四三%	五七%	二六%	七四%
同四年	四八%	五二%	三八%	六二%
同五年	四九%	五一%	三五%	六五%
同六年	五九%	四一%	五〇%	五〇%
同七年	五一%	四九%	四七%	五三%
同八年	五六%	四四%	五一%	四九%
同九年	四六%	五四%	三一%	六九%
同十年	四〇%	六〇%	三二%	六八%
同十一年	四三%	五七%	三五%	六五%
同十二年	五一%	四九%	四一%	五九%
同十三年	五六%	四四%	四四%	五六%

第三款 内國貿易概観

叙上の如く本港の内國貿易は逐次發展の跡を辿れども、尙其の設備に欠くる處ある爲め十分の驥足を延し得ざる底の憾あり。然し乍ら之を大正元年以降十三ヶ年間の實績に見るに、其の間内外國の經濟事情に左右せられて一上一下盛衰ありと雖も累進の度著しきものあるは明確なり。即ち大正元年に於ける發着噸數二百八十二萬二千六百二十二噸、價額壹億八千七百七拾八萬八千六百六拾八圓なりしものが、大正八年には六百七十四萬四千四百三十五噸、價額拾四億九千六百參拾貳萬參千貳百拾壹圓といふが如き躍進を遂げ、其の後財界の不況に連れて貿易の不振亦已むを得ざるものありしが、而も大正十二年は關東大震災復興の爲め復好勢を辿りて、大正十三年には六百三十八萬五千九百七十六噸、拾參億六千參萬壹千壹百四拾八圓に上り、正に我が神戸港の健實なる伸展を證左せり。但茲に注意すべきは左表に示すが如く十三ヶ年を通じて一二の例外を除き、大部分は到着噸數の發送到勝り、發送價額の到着に超ゆることなり。思ふにこは原料品の搬入せらるゝに反し、比較的精製品の移出せらるゝ爲

めに外ならざるべし。

内國貿易發着貨物表

年次	到		着		發		送		合	
	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額
大正元年	一、八〇四、二四六	九四、五〇、六八五	一、〇一八、三三六	九三、二六七、九八三	二、八三二、六三三	一八七、七六、六六八			二、八三二、六三三	一八七、七六、六六八
同 二年	一、三九一、四二一	七二、九六三、一八四	一、二九二、二五一	一〇〇、九五六、三三三	二、五八三、六六三	一七三、九一九、五五五			二、五八三、六六三	一七三、九一九、五五五
同 三年	一、一九四、五六四	五八、九九五、七三三	九三三、五三三	一〇一、八四〇、七八三	二、二八〇、八六六	一六〇、八六六、五五五			二、二八〇、八六六	一六〇、八六六、五五五
同 四年	一、六六一、〇八〇	一三四、四〇五、九五二	一、〇三六、五三七	一五四、二八四、四四八	二、六九七、六一七	二八八、六九〇、三九九			二、六九七、六一七	二八八、六九〇、三九九
同 五年	二、〇九八、一九七	一七八、一八三、七五五	一、三六九、〇〇五	二〇〇、一六四、六六九	三、四六七、四〇二	三七六、三四八、四二四			三、四六七、四〇二	三七六、三四八、四二四
同 六年	二、六九八、〇三一	三三五、九九三、九四七	二、九七七、五三三	六七六、八〇八、一九〇	五、六八五、五六四	一、〇三二、七七二、一三七			五、六八五、五六四	一、〇三二、七七二、一三七
同 七年	二、九九八、六〇四	六五〇、六五五、八三二	一、四八八、〇六六	五二五、六五五、三八七	四、四七六、六三〇	一、一六六、三四一、二一八			四、四七六、六三〇	一、一六六、三四一、二一八
同 八年	四、〇九七、四〇五	六八〇、五九九、八七二	二、四七七、〇三〇	八二五、七六三、三五〇	六、七四四、四三三	一、四九六、三三三、二二一			六、七四四、四三三	一、四九六、三三三、二二一
同 九年	二、二七五、六〇九	四四三、六六一、五八一	一、五八四、〇五〇	三〇八、七五二、三六三	三、八五九、六五九	七五三、四三三、九四四			三、八五九、六五九	七五三、四三三、九四四
同 十年	一、四一五、二九四	二四七、四八七、八二八	一、三三四、九六五	二二六、六二五、三五三	二、五五〇、二五九	四六四、一三三、一八一			二、五五〇、二五九	四六四、一三三、一八一
同 十一年	二、二六二、六〇三	二七九、六八九、一九五	一、二七七、〇〇五	三三二、一七、一七〇	三、五三九、七〇七	六〇一、八〇二、三六五			三、五三九、七〇七	六〇一、八〇二、三六五
同 十二年	三、二五八、八五〇	四三三、四七七、九〇〇	一、七六六、六三六	五三三、五四〇、六三三	四、九七五、四八六	九五五、七八八、五四三			四、九七五、四八六	九五五、七八八、五四三
同 十三年	三、八九七、〇〇二	五二五、七四七、〇七	二、四八八、九七四	八三四、二八四、三二	六、三八五、九七六	一、三六〇、〇三二、一四八			六、三八五、九七六	一、三六〇、〇三二、一四八

之を大正元年以降の比率について見るに實に左表の如く當港内國貿易の消長を一見し得らるべし。歐洲戦局が一般我國經濟界に與へたる好影響の特に

著しく本港に顯れたるを見るべく、尙戦後の漸進歩調は假令關東震災による餘響を見逃すべからざれ共、この間本港の如何に發展したるかを察すべし。本年は實に噸數に於て元年の十二割六分、價額に於て六十二割四分てふ増加率を示せり。

内國貿易發着増減比較表 (大正元年指數) (一〇〇ニ對シ)

年次	到		着		發		送		合	
	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額
大正元年	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同 二年	七三	七六	一三七	一〇八	一〇九	一〇八	九三	九一	九三	九一
同 三年	六六	六三	九二	一〇九	一〇九	一〇九	七五	八六	七五	八六
同 四年	九三	一〇二	一〇一	一〇五	一〇一	一〇五	九六	一〇〇	九六	一〇〇
同 五年	一〇六	一〇六	一三四	一二五	一三四	一二五	一三三	二〇〇	一三三	二〇〇
同 六年	一五〇	三五五	二九三	七二六	二九三	七二六	二〇一	五三九	二〇一	五三九
同 七年	一六六	六八八	一四三	五五三	一四三	五五三	一五八	六二二	一五八	六二二
同 八年	二二七	七二〇	二六〇	八七四	二六〇	八七四	二二九	七九七	二二九	七九七
同 九年	一三六	四六九	一五六	三三二	一五六	三三二	一三七	四〇二	一三七	四〇二
同 十年	一七八	二六二	一三一	三三三	一三一	三三三	九〇	二四七	九〇	二四七
同 十一年	一八二	二九六	一三三	三四五	一三三	三四五	一七六	三二二	一七六	三二二
同 十二年	二一六	四五六	一六九	五六一	一六九	五六一	二二六	三〇九	二二六	三〇九
同 十三年	二二六	五五六	二四四	八九五	二四四	八九五	二二六	七二四	二二六	七二四

以上移出入品の加工程度に随ひて其の消長を見るに、原料品は昨年と同じく出入總量の四割五分六厘を占め、他は下りて食料粗生品の一割八分二厘、原料用製品の一割三分六厘の順位たるも、價額に於ては昨年の原料用製品全製品、原料品の順位なりしもの、本年は原料品二割五分六厘にて第一位となり、其の中には本市工業用材料(石炭、木材、鐵材等)並に築港工事用材料(石材、土砂、鑛物等)の數量多くして割合に價額の低きものを含み、其他はたゞ製造品の漸く率の増せるも、雜品の稍減少せるとが目立つのみなり。されど今之を其の數字について前年との増減を窺ふに、實に本年の異常に増加せるに一驚すべし。則ち前述の如く雜品の十四萬一千四百二十三噸の減少を除くの外は全部増加し、其の順位は原料品の六十四萬二千四百三十二噸、壹億四千壹百四萬六千九百九拾參圓、原料用製品三十七萬六千六百六十四噸、九千八百參拾九萬貳千九百參拾七圓、食料粗生品の十二萬二千八百六十一噸、五千參百貳拾參萬四千八百貳拾四圓、食料製造品の十七萬六千六百六十八噸、四千八百貳萬壹千九百六拾參圓、全製品の十三萬九千二百八十八噸、九千參百貳拾四萬九千九百五拾四圓等にて、何れも著しき増加を示せるなり。之を表に示せば左の如し。

内國貿易加工別比較表

品種別	大正十三年		大正十二年	
	噸數	價額	噸數	價額
食料粗生品	一、五九七、七四〇	一、八三〇、二九三、五三三	九三六、九三三	一、五三〇、五八八、八八八
食料製造品	六〇六、〇〇六	一、四七二、五二二、四八一	四二九、九三六	九八〇、三〇〇、五二八
原料	二、九二四、八七六	四、五六一、四七三、三七六	二、二七二、四四四	二、〇六八、一七二、八三三
原料用製品	八六七、八六五	一、三六一、〇五二、〇五五	四九七、三〇二	一、〇〇〇、六五八、二一八
全製品	七〇一、五五五	一、二二一、九三三、八六五	五七〇、八六七	一、二四二、六三三、九二二
雜品	二六、九〇〇	二、八五六、八九九	二六八、二二三	五八、三三〇、三五五
計	六、三九五、九七六	一〇、〇〇一、三〇〇、三二、四八八	四、九七五、四八六	一〇、〇〇〇、九五五、七八、五四三
		總噸數ニ對スル割合		總價額ニ對スル割合
		一、八三		一、五三
		一、九五		一、〇八
		四、五六一		二、五六一
		一、三六一		二、三三三
		一、二二一		二、二九九
		二、八五六		三、三三三
		一〇、〇〇一		一〇、〇〇〇
		一、八三		一、八八
		一、四七二		八六
		四、五六一		四、五七
		一、三六一		一、〇〇
		一、二二一		一、二四
		二、八五六		五八、三三〇
		一〇、〇〇一		一〇、〇〇〇
		一、八三		一、八三
		一、九五		一、〇四
		四、五六一		二、二六
		一、三六一		二、三〇
		一、二二一		二、三九
		二、八五六		三、六二
		一〇、〇〇一		一〇、〇〇〇

更に之を發着によりて其の比率を見れば、到着の噸數は十三年にありては原料品其の總額の六割に達し、食料粗生品之に續いで二割強たれども其の他は云ふに足らず。十二年にありては原料品五割六分三厘、食料粗生品二割一分一厘たり。發送に至りては原料品の率著しく低下し、十三年は二割九分七厘、其他に原料用製品二割二分三厘、全製品一割七分八厘等あり。十二年は原料品二割五分四厘、原料用製品二割三分八厘、全製品一割六分たり。價額に於ては十三年の到着、原料品漸く一割一分七厘にすぎずして、食料粗生品二割八分八厘、原料用製

品二割四分とし、十二年も略々之に順ず。發送は原料品筆頭にして三割四分四厘全製品二割三分八厘、原料用製品二割二分九厘之に相次ぎ、十二年には原料品二割九分三厘、全製品二割一分七厘、原料用製品二割一分六厘等大差なし。即ち次の如し。

内國貿易加工別發着比率表

品種別	大正十三年		大正十二年		大正十三年		大正十二年	
	噸數割合	價額割合	噸數割合	價額割合	噸數割合	價額割合	噸數割合	價額割合
食料粗生品	二二	二九	二二	二六	一三	一五	一四	一七
食料製造品	六五	一、二	五〇	一、七	一四	一、〇	一五	一、二
原料品	五、五八	一、七	五、三	一、四	二、九	一、〇	二、五	一、三
原料用製品	八〇	二、四	九二	二、四	一、七	一、〇	一、六	一、一
全製品	六九	二、五	九二	二、四	一、七	一、〇	一、六	一、一
雜品	一七	一、七	三	一、五	二	一、七	九	一、七
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

尙之が實數字は左の如し。

内國貿易加工別發着比較表

品種別	大正十三年		大正十二年		大正十三年		大正十二年	
	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額
食料粗生品	八二、二四	一五、〇五〇、六四六	六八、七四	一三、七五六、五四七	三三、八五	五、四二四、八六六	二四、九四	四、〇三三、〇四二
食料製造品	二五三、四六五	五八、二八六、二〇〇	一六二、三三	三三、五九七、九五六	三五三、一四	八八、九六六、二八一	二六七、七	六、六三三、五六二
原料品	二、一七四、八〇三	六、二二二、一三四	一、八三六、八七五	五、三、四四二、六九九	七四〇、〇七	二、八六、六四一、二四二	四三三、五六九	一、五三、三七四、四八四
原料用製品	三二、一四八	二、六、九二五、五〇六	二六、七、二四〇	一、〇六、三四一、六五六	五五六、三三	一、九、一二五、五四九	三九、九六一	一、三三、三六、四六三
全製品	二六六、六五二	一、三、一三五、九三三	二九六、三三	一、〇五、二五六、一三七	四四三、五〇三	一、九、七七、九四三	二七、四、六三六	一、一三、四〇七、七七四
雜品	六九、三五八	一、四、二六、六〇九	一〇、八、八四六	二、一、八五三、九二五	五七、三三	一、四、五三〇、二五〇	一五九、二六七	三、六、五〇七、三〇〇
計	三、八九七、〇〇二	五、三五、七四七、〇二七	三、二五八、八五〇	四、三三、二四七、九二〇	二、四八八、九七四	八、三、二八四、一三二	一、七、七、六六六	五、三、五〇〇、六三三

更に品種別によりて發着貨物を細別し、其の噸數五萬噸以上のものを擧ぐれば石炭は到着噸數の二割五分にして土砂及砂利亦一割七分一厘に達し、木材類及果物類も尠しとせず。發送にありては肥料の一割三厘及鐵材の九分七厘其の首部に位し、木材の七分、棉花の六分八厘等相次ぐ。價額に至りては何れも比較的比率にして、發送の棉花が漸く二割七分五厘を占むる外、異彩を放つものなし。其の仕出港及仕向港と合せて之を表示すれば左の如し。

重要發送品表

品名	噸數	發送總噸數ニ對スル割合		價額	到着總價額ニ對スル割合		主ナル仕向港
		噸數	割合		價額	割合	
肥料	二五七、三三三	一、〇三	二、八五、三〇〇	元	三、	高松、彦崎、小樽、笠岡、玉島、西大寺、飾磨、	
鐵材	二四一、九一〇	九、七	四、五四一、五二八	三、	三、	大阪、横濱、尼崎、東京、徳山、基隆、高雄、	
木材	一七四、九八〇	七、〇	一、三、三五五、七三五	二、	六、	横濱、大阪、三幡、飾磨、徳島、東京、明石、	
棉製品	一七〇、三三九	六、八	二、九、四三二、〇七五	二、	七、	大阪、門司、東京、和歌山、四日市、堺、名古屋、	
鐵製品	一三八、六四五	五、六	六〇、五四三、七四三	一、	七、	大阪、門司、東京、基隆、仁川、横濱、三津ヶ濱、	
砂糖	一三二、〇三八	五、三	三九、六八九、六〇〇	一、	八、	東京、大阪、名古屋、徳島、高知、函館、仁川、	
外國米	二五、一四八	〇、	一八、七七三、二〇〇	三、	三、	釜山、仁川、群山、清津、木浦、馬山、元山、	
木製品	二四、四七六	〇、	五、一九四、六〇〇	〇、	六、	大阪、内海、徳島、撫養、網干、横濱、北條、	
其他藥品	五八、三四	二、	三、八九、九四八	〇、	七、	大阪、尼崎、横濱、群山、坂越、	
鹽	五七、八三	二、	三、三五五、九六六	〇、	七、	函館、横濱、東京、小樽、釧路、釜山、	
小麥粉	五六、五四	二、	九、三九、六六五	一、	二、	大阪、那覇、鎮南浦、洲本、徳島、元山、	
豆類	五四、三四	二、	一〇、六四、五九九	一、	三、	小樽、高知、大阪、吉見、徳島、那覇、	
燐寸	五二、二二	三、	二、一九三、三四	〇、	三、	徳島、基隆、元山、釜山、仁川、清津、高雄、	

重要到着品表

品名	噸數	到着總噸數ニ對スル割合		價額	到着總價額ニ對スル割合		主ナル仕向港
		噸數	割合		價額	割合	
石炭	九七五、七二九	二、五〇	一、六、五八七、三九三	三、	三、	若松、門司、戸畑、崎戸、新川、松島、唐津、	
土砂砂利	六五五、八三九	一、七二	一、三三、六七八	〇、	三、	上田、岩屋、和歌山、高砂、明石、高須、	

第四款 内國貿易と地方別との關係

神戸港出入海運貨物の集散地域は、航路の延長と共に軌近著しく擴大せられたるも、尙以西に濃く東北及裏日本方面に淡きは當然のことなり。大正十三年中に於ける内國貨物の集散状態を各府縣別に觀察するに、到着にありては福岡縣兵庫縣臺灣大阪府朝鮮等を重なるものとし、發送にありては大阪府兵庫縣朝鮮東京府神奈川縣等を著しとす。之を前年と對比し一表に纏むれば次の如し

内國貿易發着府縣別表 (其一)

品名	噸數	價額	仕向港
木材	三三、一五三	八、五	大阪、小樽、新宮、高雄、廣尾、日置、勝浦、
果物類	三、八〇三	一、七、六六、九六六	基隆、吉田、徳島、川ノ石、尾道、和歌山、
朝鮮米	一一、四一九	二、四、五四二、〇三五	釜山、群山、仁川、木浦、馬山、鎮南浦、元山、
鐵材	一一、〇七六	一、五、八三五、二二八	八幡、大阪、兼二浦、若松、佐世保、
乾物類	一〇、〇六三	三、三	高雄、基隆、飾磨、小樽、大阪、
砂糖	九〇、五三三	二、七、二八三、六〇〇	高雄、大阪、尼崎、基隆、
豆類	八四、二六三	一、四、五五四、五五八	小樽、清津、釜山、仁川、元山、鎮南浦、馬山、
薪炭類	六〇、二六三	二、二、七、五四八	田邊、須崎、久賀、印南、大阪、那瀬、御坊、
鹽	五三、二八〇	三、〇、三、二四〇	坂出、赤穂、大鹽、尾道、安平、下松、

府縣別	大正十三年		大正十二年		大正十三年		大正十二年	
	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額
兵庫縣	七四、二九七	二六、八四八、八五五	九〇、〇三三	一八、〇〇、二三三	二六〇、六〇三	四九、九二五、一〇六	一八四、八四五	四一、一八八、〇〇一
徳島縣	七〇、一七三	二九、六五三、九〇三	四五、七四八	三、二八七、〇〇三	九四、二五五	一五、二六七、〇二八	五六、九八三	一一、八八、九七九
香川縣	八一、二二五	九、九三七、七八二	八八、六二一	一一、八九九、四九五	一一、三二九	一九、七八〇、八二三	二〇、五三〇	三、八八一、一五五
愛媛縣	四一、五四三	二四、八四四、九七〇	二九、四一四	二六、六九九、六六八	六六、〇八四	二四、二九五、八五四	六二、三三三	一六、七六九、九九三
高知縣	七五、四五〇	二五、一五五、五四九	一五、四五六	四一、四三一、六四九	六六、四六五	一四、七〇、六八八	六七、八八	一四、五三五、一四一
岡山縣	四一、五〇七	五、五一〇、〇一四	一六、九三三	一、四〇八、二五六	一〇二、〇三九	一四、六八五、〇〇四	二二、五四四	二、〇八九、一七四
廣島縣	四九、三二二	一七、〇二二、七〇四	一八、三三三	五、七八九、九四八	三二、一七四	七、四六六、七九七	三三、四三三	四、一八二、二七四
山口縣	三九、四四二	三、一九八、一五一	三三、五五八	三、二九九、四〇三	一六、七七六	七、七五五、二六六	一〇、二〇〇	三、三三三、〇九七
大分縣	一五、四四八	五、四九九、八四五	一四、〇二五	四、一八八、四三五	一三、三四〇	一、七〇一、一四二	一六、八〇九	一、四八二、七九九
宮崎縣	一五、二二二	四、六三一、九六四	三三、五六一	五、二九〇、八六〇	七、三六八	六、四四一、〇八三	二二、五九九	一、五五三、九二八
鹿兒島縣	二五、一一三	四、三三八、五九八	二二、一九九	四、四九二、六九七	二八、四五四	五、〇〇二、七六八	二二、三九三	四、〇〇九、五〇三
沖繩縣	四、〇〇六	九六八、八四五	二、六六一	七三、〇九五	二六九	一一五、二八六	三三三	一一三、七二二
熊本縣	一四、二八六	二、一一一、六九五	九、五五八	一、一七八、六三三	二六九	一五、二八六	一一三	一三、三七七、四七
長崎縣	四九、四二八	二、六三五、七六九	三三、七二二	一、五九一、一八五	一、九七三	六、六〇三、八五一	六三三	一三、三七七、四七
佐賀縣	一〇、六〇三	一、三五四、五九二	六、七七三	二二、三三三	一一四	四、四九二、三七一	一九〇、九三	八、三三三、七三〇
福岡縣	一、〇〇八、四五三	三九、六〇六、六一三	六五五、三三〇	二二、〇一、六四三	九〇、四二〇	八三、四九二、三七一	三〇、九	二四、八九三
島根縣	二、九九四	五八、一七三	八三〇	一八三、二一八	八六八	一九四、〇三	三〇、九	二四、八九三
鳥取縣	二五	五、三六〇	一四七	一〇〇、三七四	四一一	三九、二〇〇	八六〇	八六、七二九
大阪府	三七三、八五七	一一三、三三〇、三〇九	三九二、九九七	一一六、九九五、四一五	七五、一四九	二五九、四五、九七六	六九、一八八	二九、八七、九二五
和歌山縣	一八〇、一四三	九、七七九、三九一	二二、五六六	五、五六六、〇〇七	四二、二六九	二〇、六〇三、三七	三四、四三	六、六三、四一八

府縣別	大正十三年		大正十二年		大正十三年		大正十二年	
	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額
三重縣	一、三九〇、六〇〇	一、三三九、〇六〇	二、七七八	九九、一六九	二二、一四八	一八、〇六二、〇九九	一、六四三	五〇、八九七
愛知縣	九、九二一	二、一九〇、九八七	八六六	一六五、五九九	二八、九五三	一〇、一六一、〇一一	九、八七七	六、二三四、八八一
靜岡縣	一一一	四六、八三六	一	一	一、七七四	八六〇、九三三	一、九〇三	一、一四四、六七〇
神奈川縣	一六、三六六	七、六七八、五九九	一、五一四	三九、八七三	一四一、八二二	七、三九四、八六一	五八、五九三	二〇、〇三四、〇一一
東京府	三、三三九	一、六八〇、四四八	六、三八一	二、八〇一、六六一	一四八、九二七	五〇、三三四、九八八	二四、六六九	三六、三三二、二二六
宮城縣	三三六	一一〇、五七五	一四九	二六、六五〇	八二二	五四四、五四〇	一、五七〇	七五四、六二五
岩手縣	六三	九、八五〇	五七三	一三八、一四〇	七九九	二五四、二三四	一、〇四三	一六一、四三三
青森縣	三三	一一〇、一五八	一五三、八七七	二七、五七、六四四	二、二八五	五三八、九八六	二、〇六九	五四九、六九九
石川縣	二五、〇九〇	一、七六〇、六九〇	二九、七五八	二、六三三、六五四	一、三三二	三六六、六四八	四〇五	八五、五七五
北海道	五三六、二八六	九四、八六六、二二七	三八九、六〇八	五〇、六〇、五八八	一一一、三四四	三三、〇四五、五二〇	一〇八、八七六	三二、五二四、一五九
樺太	二六七、一〇〇	五六、七七、九二二	二二、〇九七	四五、五三三、三八四	二八、四四〇	六八、〇三二、三〇七	二四、三六七	三五、五四八、六九五
臺灣	二六七、一〇〇	五六、七七、九二二	二二、〇九七	四五、五三三、三八四	二八、四四〇	六八、〇三二、三〇七	二四、三六七	三五、五四八、六九五
朝鮮	三、八九七、〇〇三	五二五、七四七、〇一七	三、二五八、八五〇	四三、二四七、九〇〇	二、四八八、九七四	八三四、二八四、一三二	一、七六、六三六	五二、五四〇、六二二
合計	一、三九〇、六〇〇	一、三三九、〇六〇	二、七七八	九九、一六九	二二、一四八	一八、〇六二、〇九九	一、六四三	五〇、八九七

内國貿易發着府縣別表 (其二)

府縣別	大正十三年		大正十二年	
	噸數	價額	噸數	價額
兵庫縣	九四、九〇〇	七六、七四九、九六一	一〇八、七七八	一〇、八七、八七八
徳島縣	一六四、四七七	四四、九〇、九三二	一〇二、七三二	四三、二五、九六〇
香川縣	一〇二、四四四	二九、七八八、六〇五	一〇九、一五二	一五、〇七、〇六五

第五章貨物

愛媛	高知	岡山	廣島	山口	大分	宮崎	鹿兒	沖繩	熊本	熊本	長崎	佐賀	福岡	島根	鳥取	大分	和歌山	三重	愛知	静岡	神奈川	東京	
媛	知	山	島	口	分	崎	島	本	本	本	崎	賀	岡	根	取	取	取	取	取	取	取	取	取
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	府
103,626	141,915	143,546	80,466	56,218	28,788	33,489	46,787	3,460	1,555	63,401	10,777	1,098,663	3,862	1,098,663	436	1,098,663	3,323	2,538	1,185	1,817	1,523,266	1,523,266	
49,140	39,363	19,796	24,479	10,975	4,611	6,335	7,768	5,971	2,266	9,293	1,399	23,098	2,527	23,098	372	23,098	3,821	1,940	3,523	8,073	8,073	8,073	
9,767	2,844	2,963	4,816	3,618	2,795	4,376	3,798	2,483	9,871	3,673	7,405	6,743	1,139	6,743	1,139	6,743	1,139	1,139	1,139	1,139	1,139	1,139	
43,469	55,966	3,497	9,361	6,502	10,344	6,733	11,006	4,885	1,006	4,740	2,999	1,871	3,406	1,871	3,406	1,871	3,406	1,871	3,406	1,871	3,406	1,871	

又取引港も漸次増加の趨勢なるが、本年は四百九十港に及び、其の中一萬噸以上の取引あるもの五十九港を噸量順位によりて示せば大阪を第一とし、若松基隆等相次ぐ。即ち左の如し。

主要取引港順位表 (發着數量一萬噸以上)

宮城	岩手	青森	石川	北陸	樺太	臺灣	朝鮮	合計
縣	縣	縣	縣	縣	道	道	道	計
823	1,145	2,347	3,343	5,751	26,441	64,760	48,540	1,360,311
5,444	3,749	5,488	5,488	5,751	26,441	64,760	48,540	1,360,311
1,719	1,616	2,069	1,420	2,477	4,984	3,376	4,975	9,975
881	2,995	5,499	3,406	2,749	8,314	8,083	9,557	88,165

港名	數量	價額	品名	種類
大阪	1,049,333	354,244,133	木材、屑鐵、綿織物、砂糖	到
若松	621,923	17,244,409	石炭、コークス、銅材	到
基隆	454,053	88,619,336	バナ、乾物、臺灣米、樟腦油	到
門司	355,428	88,364,526	石炭、セメント、飼料	到
			鋼鐵及鍊鐵、鐵材、空函、棉花、レール、木材	發
			清酒	發
			燐寸、鹽魚、外國米、鐵製品、麻製品	發
			棉花、鐵線、機械類、バルブ	發

上田	二九、二六八	五五八、五三六	土砂	水、木材
岩屋	一九、九四二	五四七、八八三	砂利	人造肥料、麻製品、硫安、鐵材
高雄	一八、〇三七	三五、一六八、五八五	臺灣米、芋切干、砂糖、木材、蘭製品	木材、鋼鐵及鍊鐵、鹽、機械類、鐵製品
橫濱	一五八、一七八	八〇、〇七三、四二〇	機械類	人造肥料、落花生、外國米、清酒、臺灣米、鹽
小樽	一五七、九六一	二九、四八九、四〇五	木材、魚油、野菜、隱元豆	砂糖、煉乳、鹽、木材、レーン
東京	一五二、二六六	五三、〇〇五、四三六	外國米	製紙原料、パルプ、豆糟肥料、木材
高砂	一九、〇五二	四、四〇二、三〇七	砂利、藍襪	飼料、大豆、外國米、豆糟肥料、植物肥料、臺灣米
高知	一一、八九二	三四、二九〇、一三八	石灰、和紙、野菜、繭	外國米、礦油、靴、人造肥料、燐寸
釜山	一〇九、八〇三	三〇、六五三、四九一	朝鮮米、大豆、棉花、陶磁器	外國米、小麥粉、鐵製品、機械、燐寸
仁川	一〇六、四一八	三四、三二一、五五一	朝鮮米、小麥、大豆、飼料、植物肥料	燐寸、木材、空樽、外國米、小麥粉
德島	一〇五、三九三	一七、四〇四、三九七	野菜、澤庵、木製品	棉花、豆糟肥料、木材
和歌山	一〇五、〇〇五	一六、二二三、九六	土砂、板、木材、果實	曹達灰、銑鐵、鋼鐵及鍊鐵、棉花、葉製品
尼崎	九六、二二六	二一、七八、五三三	麥酒、セメント、板、其他ノ木材	鹽、外國米、飼料、清酒
函館	八九、七六九	一八、三五五、五三三	昆布、干鰯、魚油、海産肥料	石粉、木材、枕木、氷、豆糟肥料
戸畑	七八、五三三	一、三三八、〇一一	石炭	外國米、小麥粉
明石	六七、二九五	七、二四七、七七七	砂利、澱粉、機械油、裸麥	外國米、硫安、藥品、燐寸
清津	六四、九三四	一一、四九三、〇五四	大豆、隱元豆	雜肥料、豆糟肥料、木材、棉花、硫安、軸木
群山	六三、一四九	一四、八八七、三二六	朝鮮米、大豆	豆糟肥料、小麥、棉花
高松	五七、三六二	二、三〇四、三二二	眞田、鹽	棉花、石炭、豆糟肥料、セメント、内國米
坂出	五一、八七〇	六、二三四、九三〇	鋼鐵及鍊鐵、鐵材	
八幡	五一、三七五	一一、六〇二、五五六	葉製品、内國米、牛	
洲本	五〇、五五五	一六、七九、七三二		

飾磨	三八、二四四	三、五六六、三六五	麵類、コークス、燐寸	木材、豆糟肥料、空函、板、コークス
廣島	三八、〇四五	二、二二、七三四	清酒	木材、鐵製品、魚油、軸木
名古屋	三六、六七九	二、九八八、六五八	陶磁器、木材、硝子製品	棉花、砂糖、木材、鐵材
木浦	三五、五一	九、八九九、〇八六	朝鮮米、棉花、豆糟肥料、植物肥料	外國米、燐寸、靴
三浦	三三、一七四	六、八五〇、八二四	木材、清酒	木材、豆糟肥料、板、其他肥料、硫安
那覇	三一、九五七	五、八三三、一七〇	野菜	外國米、小麥粉、石油、大豆、麵類
釧路	三一、四一〇	二、八五六、四三四	木材、軸木、製紙原料、魚油	鹽、人造肥料
崎戸	三一、三四〇	五三、七八〇	石炭	小麥、人造肥料、燐寸
鎮南浦	三一、一九七	七、四八一、三三三	朝鮮米、大豆、小麥、飼料	空樽
内ノ海	二九、九六三	二、一四四、二九五	醬油	外國米、雜肥料、綿、植物肥料
鹿兒島	二九、五七八	八、九四四、八四九	内國米、野菜、麻製品	棉花、菜子、鋼鐵及鍊鐵
堺	二七、四一九	一五、九四五、五三三	土管、煉瓦	豆糟肥料、植物肥料、硫安、雜肥料
新宮	二四、一三七	一、二五、七九〇	木材	外國米、小麥粉、靴、燐寸
西大寺	二二、六七六	三、二九、七七三	内國米、小麥	雜肥料、木材、空函、空樽
元山	二二、二四七	四、九三三、六〇五	大豆、朝鮮米	豆糟肥料、茶、木製品
尾道	二二、九二二	四、七九、七三二	鹽、生魚介、果實、木製品	外國米
小松島	二二、七八五	一八、七六〇、九〇五	藍、繭、生糸	空樽、豆糟肥料、鹽、硫安
馬山	二二、一六五	四、四九六、六六一	朝鮮米、大豆	棉花、植物肥料、竹材及藤
撫養	二〇、八五七	五、〇六二、四九九	澤庵、藥品	船具
四日市	一八、八三二	一七、五八三、二八二	木材、陶磁器	豆糟肥料、空樽、鹽、硫安、大豆
宇野	一八、三八七	八六七、五四九	煉瓦	
網干	一七、九六一	一、五八〇、一七八	醬油	

赤穂	安平	字和島	丸龜	高濱	兼二浦	觀音寺	勝浦	笠岡	大分	福良	新川	根室	玉島	日置	西宮	須崎	小野田	田邊	彦崎	長崎
10,033	10,040	10,047	10,077	10,092	11,144	11,209	11,873	11,906	11,917	11,926	11,999	12,706	12,969	13,384	14,713	14,772	14,827	15,753	16,651	17,637
708,055	1,985,046	1,068,731	1,068,731	7,684,056	1,433,893	1,891,375	1,881,250	9,081,533	1,891,276	2,784,977	3,332,533	3,036,558	1,375,292	6,621,300	7,332,962	1,633,787	6,332,734	2,150,473	1,601,780	7,471,835
鹽	鹽	綿織物、生糸、生魚介、干魚	綿織物、生糸、生魚介、干魚	干魚、生果、綿織物	内國米	内國米	醬油	木材、干魚	木材、干魚	竹材及藤	飼料	石炭	昆布、魚油、木材、海産肥料	鐵屑	木材	砂利	薪	木炭、密柑	—	干魚、石炭
機油、木材、石油、棉花	豆糟肥料、植物肥料、雜肥料、硫安	豆糟肥料、小麥粉	レール、外國米、鐵製品	石炭、木材、木炭	植物肥料、豆糟肥料、雜肥料、硫安	清酒	空函	飼料、小麥粉、硝子製品、胡麻子	棉花、綿、苧及麻、外國米	植物肥料、雜肥料、豆糟肥料、硫安	内國米	豆糟肥料、飼料、海産肥料、外國米	棉花、人造肥料	雜肥料、豆糟肥料、外國米、砂糖、硝子製品	外國米、豆糟肥料、機械類	麥製品、鹽魚、燐寸、綿織物	麥製品			

第五款 沿岸貿易

本港内國貿易中朝鮮貿易を除ける分を便宜上假に沿岸貿易と稱し、品種別に
よりて表に示せば左の如し。

大正十二年沿岸貿易發着貨物品種別表 (朝鮮貿易を除く)
大正十三年

品種	到大		着		發		送	
	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額
動物植物	八、六二七	一、八三五、二九五	五、四六三	一、五六一、二〇〇	二、一九三	二八、二〇〇	三七三	七九、五四〇
小計	八、六二七	一、八三五、二九五	五、四六三	一、五六一、二〇〇	二、一九三	二八、二〇〇	三七三	七九、五四〇
内國米	二四、八九七	五、六六六、七三三	三九、一一四	八、四四八、六二四	二五、六八七	五、八〇五、三六二	六七、五五三	一四、五九一、二三三
朝鮮米	一一四	二四、五〇〇	—	—	五、八七三	一、二六二、四八〇	二、二五一	四三二、一九二
臺灣米	一一四、六九六	一九、〇三九、五三六	七七、五三三	一一、六二一、三〇〇	三三、二九三	二、〇四〇、六三八	一、五九一	二三八、六五〇
外國米	一、六二四	二四、三、〇〇〇	二六	一五、七五〇	八、三三七	二、三五〇、五五〇	六〇、五二四	七、五六五、五〇〇
麥類	一〇、一五七	一、三六、九三三	二、四六三	二四八、八七三	一、三〇七、五	一、三六六、九六四	六、九四六	七〇、五、六六八
豆類	二二、五九六	三、九七一、一八〇	二四、四〇三	四、六三七、四七五	五四、一四五	一〇、二四、一三三	二、〇七一	四、二九四、八七五
雜穀	三五〇	三、四、八八五	五七八	七、〇〇〇	一、二八四	一〇、五、三〇八	八、五二三	六、一九、〇〇八
種子	八七九	一、八五、五一四	一、四四八	三二、八五三	二、三三六	二、三三四、五二二	四、九七五	九八五、三三三
小計	一七四、三三三	三〇、一六、八六九	一四五、六七二	二五、三六六、八七三	二〇五、〇二九	三五、三九、八四七	一七三、四三三	二九、四三、四三六

料塗及料		絲織繩索及同材料					布帛及同製品			紙類及原料						
小計	其他塗料	繭	綿	生糸	綿糸	其他糸	苧及麻	布帛製品	其他織物	毛織物	絹織物	和洋紙類	印刷雜誌	書籍雜誌	紙類製品	小計
六七四	三,〇七一	七,二四四	六〇〇	四二七	三,九三九	六,六五一	一,一一一	一,一五三	一,一七〇	五,五二五	四〇,六一五	一六,二二五	九,九六六	三,四七九	二〇,五八〇	三,四七九
六四七,〇〇〇	一,二四〇,〇〇〇	二,五四二,四〇〇	八二〇,〇〇〇	一四七,三五五	三,九三九,五〇〇	一〇,九七四,一五〇	一,四五〇,六四〇	八六九,二〇〇	三,三三三,六四〇	四,四五五,二〇〇	三六,四〇一,八〇八	七,五三五,六〇〇	三三,一六六,〇〇〇	七五,〇〇〇,〇〇〇	八,六四七,九五〇	七五,〇〇〇,〇〇〇
四,九四六	二,〇〇七	四,七〇〇	一,一三四	一,一五六	四,九八〇	二,八〇五	六四五	五九七	八五,八四七	三三	一八,〇八五	二〇,六八九	二,六九五	一,七〇〇	二二,六六四	一,七〇〇
四,四五二,四〇〇	八,八九五	一,一三四	一,一五六	五,九〇四	五,六四七,二〇〇	五,〇四九,〇〇〇	一,六二〇,七五〇	三,〇,四四〇	二五,八四六,一七〇	二七八,八五〇	二,九八〇,二〇〇	八,三〇五,九〇〇	一,一〇,三五〇	三三,二,四〇〇	八,七八八,六五〇	八,三〇五,九〇〇
四,四五二,四〇〇	七,二八二	四,三五二,六〇〇	一,五五三,五八〇	五,九〇四	五,六四七,二〇〇	五,〇四九,〇〇〇	一,六二〇,七五〇	三,〇,四四〇	二五,八四六,一七〇	二七八,八五〇	二,九八〇,二〇〇	八,三〇五,九〇〇	一,一〇,三五〇	三三,二,四〇〇	八,七八八,六五〇	八,三〇五,九〇〇
六四五	七,二八二	三,七〇〇	一,六九,九三三	五,八八四	二,四六八	一,九三〇	四,八七八	四,〇二二	二五,四六四	一,三三	五,五〇二	三,二六六	二,一四七	二五,〇七二	六〇,八四五	二五,〇七二
六四九,二〇〇	二,五九三,〇四〇	二,九四五,〇〇〇	二,〇二九,九八〇	二,〇二九,九八〇	二,九三二,四〇〇	三,一六八,〇〇〇	五,九三六,七七〇	七,九三二,五五〇	四,四九三,三四〇	四,六九八,五二〇	一〇,五八八,二二四	一〇,五八八,〇八〇	九,三二,二五〇	五,四八二,〇四〇	一六,九七一,三七〇	五,四八二,〇四〇
四一九	三,五二八	一八八	八六六,二六六	九八六	一八〇	四,〇二二	一〇,五二二	一四,四九一	一〇,三三〇	七	五,四一九	一三,七三三	一,九一五	四,六九五	二〇,三六三	四,六九五
三,五二八	六,六七九	一七二,九六〇	二,一八四,四〇〇	三七八,六三四	一八〇	七,三〇八,〇〇〇	一〇,五二二	一四,四九一	一〇,三三〇	七	四,九三二,二二〇	五,三七六,五五〇	九,〇二,二〇〇	一,〇五七,七五〇	七,三三六,五五〇	一,〇五七,七五〇
一,〇二二,六〇〇	八,一六二,九五〇	一七二,九六〇	一,〇二二,六〇〇	八,一六二,九五〇	一七二,九六〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇	一,〇二二,六〇〇

製紙原料		礦物及同製品					金石屬材料及同製品												
和洋紙類	印刷雜誌	書籍雜誌	紙類製品	小計	石炭	セメント	石灰	石粉	其他ノ礦物	土砂砂利	石材及同製品	小計	鐵石	鐵材	銅材	其他ノ金	鐵製品	其他ノ金	小計
三,四七九	一六,二二五	九,九六六	二〇,五八〇	二〇,五八〇	九,七五七,七二八	四〇,二〇三	三,四七九	二,四八五	二,八六四	六六五,八三九	一,九,二〇七	一,七六六,九六八	一,八七七	九,九三三	五,九八五	二,三三三	二,九,六〇六	三,二九二	一四,三〇五
七五,〇〇〇,〇〇〇	七,五三五,六〇〇	三三,一六六,〇〇〇	八,六四七,九五〇	八,六四七,九五〇	一六,五八七,三七六	一,六九一,八八六	四一七,四三三	二,九八,二〇〇	一,七二六,九四〇	一,三三,六七八	五,二九,九九一	二二,五七三,五〇三	一,五八,一五二	一五,〇七二,九〇五	四〇,六九,八〇〇	一,四四六,五九〇	一四,九,二,三〇〇	四,六,六,〇〇〇	三九,九,五,七,六六
一,七〇〇	二〇,六八九	二,六九五	二二,六六四	二二,六六四	六二二,〇七四	四七,九九九	五,九六八	二,九九	一,三,四六三	八〇,八〇,六六	三六,五三〇	一,五二,四,三九九	三,四〇〇	五七,六三六	三〇〇	四九八	二,四,五,三三七	二,九九七	八六,二九八
三三,二,四〇〇	八,三〇五,九〇〇	一,一〇,三五〇	八,七八八,六五〇	八,七八八,六五〇	二〇,四〇五,二五八	二,二七九,九五三	九,五,四八八	三,五,八八〇	一,一四五,九二七	一,七六五,〇九二	一,一七六,五九〇	一六,九〇,四,一八八	一一,四九七	八,一四七,一九五	二,二三,〇〇〇	三,九九,三六〇	一一,九三三,一〇	四,二〇九,五〇〇	二四,九〇三,七八
二五,〇七二	三,二六六	二,一四七	六〇,八四五	六〇,八四五	一九,〇二二	五,四二五	一,五五	一,三,三九九	九,六五七	五,九五八	一,一四七	五,四,六八二	八八四	二三八,四〇五	一四,九〇二	一七,六三三	二七,三三六	一,六三三	四〇〇,九三二
五,四八二,〇四〇	一〇,五八八,〇八〇	九,三二,二五〇	一六,九七一,三七〇	一六,九七一,三七〇	三三,一八七	二,二七,八五〇	一,八六〇	一,五九九,四八〇	三,〇六五,六〇五	一,一九一,六一	六六,〇九九	五,二九五,九五七	五八,七七五	四二,七三四,九五六	一〇,一八七,七六〇	二,三七八,三五〇	五,四,七三九,一五九	二,一八七,三五〇	一一,二,二八六,三五〇
四,六九五	一三,七三三	一,九一五	二〇,三六三	二〇,三六三	一八,六八四	七三五	一九二	九,八五〇	一,五,二七四	一,〇,四	五九〇	四六,三九九	四,八八一	一三八,五五三	一,九八二	七三,九五〇	二,九〇六	二,三六,五〇四	七四,〇〇九,四四九
一,〇五七,七五〇	五,三七六,五五〇	九,〇二,二〇〇	七,三三六,五五〇	七,三三六,五五〇	三,七,六八	三,四,九一三	三,〇二二	一,一,〇,〇〇〇	三,五,二四,二五四	一,八,二五二	三,七,四三三	五,一七,五四九	一,一七,八五四	一七,一四六,八二五	一,四〇七,二二〇	二,二,八〇二,六七〇	三,八,二九二,八八〇	四,二,四二,〇〇〇	七四,〇〇九,四四九

品	陶磁器及硝子製		自動車、計時、機械類		肥料及飼料		木
	煉瓦	磁器	自動車	計時	肥料	飼料	
煉瓦	二七、一七四	二七、一七四	三、四〇〇	六、二〇〇	一、一〇〇	二、五〇〇	三、二九、八五七
磁器	二六、二五三	三、二〇、五九一	三、四〇〇	六、二〇〇	一、一〇〇	二、五〇〇	二〇、六四、一〇一
硝子製	二〇、二〇八	三、三三、〇〇〇	三、四〇〇	六、二〇〇	一、一〇〇	二、五〇〇	二四、八、五七
小計	七三、六三五	六、七七、五三一	六、二〇〇	六、二〇〇	三、三〇七、三〇〇	二、五〇〇	二〇、六四、一〇一
自動車			六、二〇〇	六、二〇〇	三、三〇七、三〇〇	二、五〇〇	二四、八、五七
計時			六、二〇〇	六、二〇〇	三、三〇七、三〇〇	二、五〇〇	二〇、六四、一〇一
機械類			六、二〇〇	六、二〇〇	三、三〇七、三〇〇	二、五〇〇	二四、八、五七
肥料			六、二〇〇	六、二〇〇	三、三〇七、三〇〇	二、五〇〇	二〇、六四、一〇一
飼料			六、二〇〇	六、二〇〇	三、三〇七、三〇〇	二、五〇〇	二四、八、五七
小計			六、二〇〇	六、二〇〇	三、三〇七、三〇〇	二、五〇〇	二〇、六四、一〇一
木							三、二九、八五七

品	竹材及同製品		雜品		合計
	燃料	竹材	雜品	小計	
燃料	五九、〇〇〇	二、一六三、〇九九	一、五八七	三、〇四五、七五三	三、〇四五、七五三
竹材	一三、〇〇三	二、一〇、九〇〇	六、七〇〇	二、四六八、〇〇〇	二、四六八、〇〇〇
同製品	四三、八九〇	四、〇〇三、一三三	五、〇七六	一、二二六、七〇〇	一、二二六、七〇〇
小計	四四五、九五四	二八、九一五、七三三	二、一六三、〇九九	三、〇四五、七五三	三、〇四五、七五三
雜品			二、一六三、〇九九	三、〇四五、七五三	三、〇四五、七五三
小計			二、一六三、〇九九	三、〇四五、七五三	三、〇四五、七五三
合計	三、〇四五、七五三	二、一六三、〇九九	三、〇四五、七五三	三、〇四五、七五三	三、〇四五、七五三

即ち本年當港の沿岸貿易は其の取扱總數量五百九十萬四千三百三十六噸、其の總價額拾貳億參千五百貳拾六萬九百拾九圓にして、前年に比し一百二十五萬二千四百十四噸、參億六千參拾八萬四千四百五拾九圓の増加を示せり。其の内到着貨物は三百六十二萬九千九百二噸、其の價額四億六千九百萬九千九拾五圓にして、前年よりも五十八萬四千四百四十九噸、八千貳百拾貳萬四千五百五拾九圓の増

加を示し、増加額の著しきは礦物及同製品の二十四萬二千五百六十九噸、五百六拾六萬九千參百拾五圓を首位とし、飲食物の十七萬六千七百七十三噸、五千八百八萬參千四百九拾貳圓、木材及同製品の十四萬一千二百三十二噸、拾六萬四百九拾八圓、鑛石並金屬材及同製品の五萬六千七噸、一千五百六萬貳千參拾八圓、穀物及種子、の二萬八千六百四十一噸、四百七拾九萬五千九百九拾六圓之に隨ひ、減少せしは雜品の六萬一千九百七十二噸、壹千參百五萬壹千九百四拾八圓第一位にして、次は布帛及同製品の四萬九千五百五十二噸なるが、而も其の價額の却つて壹百貳拾六萬參千貳百拾八圓を増加せるは、全く絹織物の輸出増加による影響と見るべく、染料及塗料類の三千一百三十三噸、參百六萬九千五百貳拾圓、陶磁器並硝子類及同製品の二千三百五十一噸、九萬四千四百參拾九圓相次ぐ。更に之が品種による細別を示せば、増加せるは石炭の三十六萬三千六百五十四噸を第一とし、木材の八萬一千三百五十噸、砂糖類の四萬六千六百六十三噸、燃料類の四萬四千九百八十四噸、鐵材の四萬一千六百六噸、臺灣米の三萬七千五百五十四噸、石灰の二萬八千八百十八噸、和酒類の二萬一千六百五十三噸、陶磁器、土管瓦類の一萬八千九百一十一噸、雜礦物類の一萬五千七百七十七噸相次ぎ、減少せるは土砂及砂利の十四萬

二千二百二十七噸を最高とし、布帛製品の七萬四千三百十三噸、雜品の五萬六千二百七十六噸、果實類の三萬六千九百十五噸、煉瓦類の二萬三千六百八十四噸、石材及石製品の一萬七千三百二十三噸、内國米の一萬四千二百七十七噸、麥製品の一萬四千八百四噸、ペイント類の四千二百七十二噸、人造肥料の四千二百四十七噸相順次す。發送貨物は其の總額二百二十七萬五千三百四十四噸、七億六千六百貳拾五萬壹千八百貳拾四圓にして、前年に比し六十六萬八千二百六十五噸、貳億七千八百貳拾五萬九千九百圓の夥しき増加を示し、鑛石並金屬材及同製品の十六萬四千四百二十七噸、四千八百貳拾七萬六千九百壹圓、飲食物の十二萬七百三十七噸、參千參百拾八萬五千百貳拾八圓、肥料及飼料の十一萬九千三百二噸、壹千八拾萬貳千百參拾四圓、木材及同製品の十萬七千八百四十三噸、五百四拾萬七千五百四拾五圓、絲纒繩索及同材料の八萬六千四百二十二噸、壹億貳千四百八拾參萬六千六百拾四圓、其の主なるものにして、減少せしは雜品額の七萬六千四百七十五噸、壹千四百參拾萬四千參百拾四圓、陶磁器並硝子類及同製品の三千一百一十一噸、貳百四拾壹萬五千四拾八圓のみとす。

之を要するに本年當港の沿岸貿易は前年に比して到着噸數十一割九分、同價

額十二割二分、發送噸數十四割四分、同價額十五割七分と云ふが如き増加率を示し、一般經濟界の律動につれて消長ありながら、依然相當なる進展の路を辿れるを首肯するに足るべし。

第三節 朝鮮貿易

朝鮮に於ける貿易は今日尙盛大なりと謂ふべからず。其の移出品として米を擧ぐる外豆海産物の如き原始産物又は原料用産物あれども、工藝精製品といへば朝鮮本來の特産陶磁器の僅かに見るべきものあるに過ぎず。蠶絲製品麻織物皮角製品等も甚だ十分と稱すべからず。而も産業の指導開發宜しきを得んには、其の資源決して尠なからざるを以て、貿易の隆盛全く企圖すべからざるにあらず。即ち本港對朝鮮の貿易状態も漸次年と共に異常の發展を示しつつあるを見る。今大正十三年中に於ける貿易額を示せば移出二十一萬八千四百四十噸、價額六千八百參萬貳千參百七圓、移入二十六萬七千一百噸、價額五千六百七拾參萬七千九百貳拾貳圓、移出入合計四十八萬五千五百四十噸、價額壹億貳千四百七拾七萬貳百貳拾九圓にして、之れを前年に比較すれば

種別	噸量		價額	
	移入	移出	大正十三年	大正十二年
移入	二六七、一〇〇	一一四、三六七	六八、〇三二、三〇七	三五、五四八、六九九
移出	二一八、四四〇	二一三、〇九七	五六、七三七、九二二	四五、三六三、三八四
合計	四八五、五四〇	三二七、四六四	一二四、七七〇、二二九	八〇、九一二、〇八三

となり總噸量に於て十五萬八千七十六噸、總價額に於て四千參百八拾五萬八千百四拾六圓を増加せり。大正十二年已に四千壹百五拾貳萬餘圓を増加せる上更に又大正十三年に於て斯の如き多額の増加を示せるは本港朝鮮貿易の發達しつつある證左と云ふべし。

南北兩鮮地方に分ちて其港別より彼我交易の状況を見るに、釜山より新義州に至る西沿岸諸港所謂南鮮と呼ぶ地方への貿易額は、移出十八萬四千百十九噸五千九百八十五萬四千九百五拾八圓、移入二十萬一千三百二十三噸、四千四百參拾六萬千六百九拾圓にして、其他の東沿岸諸港即ち北鮮への貿易額は、移出三萬四千三百二十一噸、八百拾七萬七千參百四拾九圓、移入六萬五千七百七十七噸、壹千貳百參拾七萬七千貳百參拾貳圓なり。即ち南鮮の貿易額は北鮮に對し、噸量に於て約四倍價額に於て約五倍の優勢に在り。如斯南北兩鮮間に顯著なる優

四百八拾八萬七千貳百貳拾六圓となし、木浦亦移出入三萬五千五百十一噸、九百八拾九萬九千八拾六圓にして、群山と稍匹敵し、互に第三、四位を争ひ、以下鎮南浦、馬山、新義州の順位にして、南鮮貿易の重要港なる事を示せる外、兼仁浦も銑鐵の積出地たる故を以て相當の數字を示せるが其他は謂ふに足らず。北鮮諸港に在つては、清津の移出入六萬四千九百三十四噸、壹千貳百四拾九萬參千五拾四圓は、遙かに他港を凌駕して首位を占むるも、之を南鮮諸港に比すれば、漸く第四位たるに過ぎず。第二位に在る元山の如きも僅に移出入二萬二千二百四十七噸、四百九拾參萬貳千六百五圓にして、南鮮各港に比し著しき遜色あり。

次に本港對諸港間の取引關係を見るに、本港は從來例年移入超過の現象を呈し來れる拘らず、今年は其前例を破り、數量に於ては約六萬噸の入超を示せるも、價額に於ては約壹千萬圓以上の出超となり居れり。是れ移入品に在つては米、豆、銑鐵等の原産品を主とせるに反し、移出品に在つては毛織物、ゴム靴及ゴム製品、藥品、機械類、燐寸等の精製品専ら其多額を占め居るが爲なり。毛織物、藥品等の本年特に著しく多額に達せるは、關稅の免除せられたる爲め、當港に見越輸入したるものを更に多量に朝鮮へ發送せられたるに依るものにして、恐らく一時

的の現象たるべし。而して移出港としては南鮮に於ける木浦、馬山、北鮮に於ける清津を擧ぐるに止り、釜山、仁川、鎮南浦等の入出相半ばせる外は總て我物貨供給の地たり。更に種類別に依りて増加の主なるものを擧ぐれば、移出に於ては機械類、藥品、穀物及種子、布帛及同製品、衣類及同附屬品、油脂及蠟、金屬及同製品、飲食物等の順次にして、移入に於ては穀物及種子、皮革製品、糸、纒繩、索、肥料及飼料等、稍増加を示せるに過ぎず。其の之が港別に依る彼我交易の状況に見るに、穀物及種子は移出に於て五萬八千九百七十七噸、七百四拾八萬七千七百六圓の中、釜山の一萬五千四百五十二噸、貳百參拾貳萬參千參百九拾貳圓、仁川の九千九百九十一噸、壹百四拾五萬八千參百九拾貳圓が殆んど其半數を占め、飲食物、機械類等亦何れも釜山、仁川兩港に於て其大半を占むるの状況にて、清津、群山、木浦、馬山、元山に隨ふ。移入に於ても釜山は穀物及種子中一萬五千四百五十二噸、貳百參拾貳萬參千參百九拾貳圓を算して第一位を占め、仁川之に次ぎ、群山、木浦、馬山、清津、元山、鎮南浦の順たり。其他金屬及同製品、陶磁器、布帛及同製品、糸、纒繩、索、木竹材、肥料、飼料等の如き釜山、仁川、清津、群山、木浦、元山、鎮南浦等常に屈指の移出入港たり次に重要な品種別によりて觀察すれば、移出の主なるものは外國米、小麥、紛、和

酒・砂糖・煉乳・清涼飲料水・油脂・蠟・藥品・塗料・染料・毛綿・其他の織物・靴・鐵材・鐵製品・機械類・肥料・燐寸・化粧品・ゴム及同製品等にして、移入の主なるものは朝鮮米・豆類・生魚・介・鹽乾魚類・其他の海産物・牛皮・羊毛・棉花・銑鐵・陶磁器・肥料・飼料等とす。即ち前年との品種別對照は左の如し。

大正十二年朝鮮貿易品種別表
大正十三年

品種	移入(到着)		移出(發送)	
	大正十三年	大正十二年	大正十三年	大正十二年
穀物及種子	一、四三六	一、四三六	一、四三六	一、四三六
豆類	三、八四〇	三、八四〇	三、八四〇	三、八四〇
麥類	九二八	九二八	九二八	九二八
外國米	一、三九一、〇〇〇	一、三九一、〇〇〇	一、三九一、〇〇〇	一、三九一、〇〇〇
朝鮮米	一、一四、〇三五	一、一四、〇三五	一、一四、〇三五	一、一四、〇三五
內國米	一、一四、〇三五	一、一四、〇三五	一、一四、〇三五	一、一四、〇三五
雜穀及種子	六、六六六	六、六六六	六、六六六	六、六六六
雜穀	一、四三六	一、四三六	一、四三六	一、四三六
小麥粉	三、二三〇	三、二三〇	三、二三〇	三、二三〇
茶	一、三	一、三	一、三	一、三
動物植物	二、七四〇	二、七四〇	二、七四〇	二、七四〇
動物	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
植物	二、七四〇	二、七四〇	二、七四〇	二、七四〇

品種	移入(到着)		移出(發送)	
	大正十三年	大正十二年	大正十三年	大正十二年
鹽	一、七〇八	一、七〇八	一、七〇八	一、七〇八
昆布、石花菜、乾ノリ、其他海草	一、〇八六、四〇〇	一、〇八六、四〇〇	一、〇八六、四〇〇	一、〇八六、四〇〇
生魚	九、〇〇三	九、〇〇三	九、〇〇三	九、〇〇三
鹽乾魚	二、三二二、二二六	二、三二二、二二六	二、三二二、二二六	二、三二二、二二六
干海老、乾貝類、數字、アカヒレ、海參等	一、〇四二、一九九	一、〇四二、一九九	一、〇四二、一九九	一、〇四二、一九九
其他海産物	五、八二〇、〇〇〇	五、八二〇、〇〇〇	五、八二〇、〇〇〇	五、八二〇、〇〇〇
乾物類	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八
蔬菜類	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八
果實類	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇
味噌、醬油、酢	九、九七〇	九、九七〇	九、九七〇	九、九七〇
和酒	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
洋酒	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇
清涼飲料水	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇
砂糖菓子類	一、八二〇	一、八二〇	一、八二〇	一、八二〇
煉乳	一、八二〇	一、八二〇	一、八二〇	一、八二〇
罐詰食料	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇
牛肉、漬物其他食品	七〇、六九九	七〇、六九九	七〇、六九九	七〇、六九九
煙草	一、六	一、六	一、六	一、六
葉煙草製造煙草	二、九二八	二、九二八	二、九二八	二、九二八
皮毛骨角類同製品及獸製品	四、八六、四四〇	四、八六、四四〇	四、八六、四四〇	四、八六、四四〇
油脂及蠟	一、一六五	一、一六五	一、一六五	一、一六五
礦油、植物性油及魚油	三〇九、一六五	三〇九、一六五	三〇九、一六五	三〇九、一六五

品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量		
硫酸アンモニヤ	一八	苛性曹達	一八,000	灰、松脂、薬品	二八	硫酸アンモニヤ	二八,000	苛性曹達	二九,六六二	灰、松脂、薬品	九,〇八一,二五六	硫酸アンモニヤ	三,四一三	苛性曹達	一,七五五,二一一	灰、松脂、薬品	二,四一三	硫酸アンモニヤ	二,四一三	苛性曹達	一,七五五,二一一
染料、ペイント	一,七七七	他ノ染料	七,七八,一六〇	綿、花、綿	一,二四二	絹糸、麻、繩索	四九六,八〇〇	綿、花、綿	五八四	絹糸、麻、繩索	七五五,三八〇	綿、花、綿	二,四一三	絹糸、麻、繩索	一,六九七,四〇〇	綿、花、綿	一,六九七,四〇〇	絹糸、麻、繩索	二,四一三	綿、花、綿	一,六九七,四〇〇
絹糸、麻、繩索	四,〇九八	絹糸、麻、繩索	五,四八一,〇四五	絹糸、麻、繩索	二,五七二	絹糸、麻、繩索	三,五二二,六四〇	絹糸、麻、繩索	三七五	絹糸、麻、繩索	四三三,九〇〇	絹糸、麻、繩索	二,二一九	絹糸、麻、繩索	二,九〇三,〇三〇	絹糸、麻、繩索	二,九〇三,〇三〇	絹糸、麻、繩索	二,九〇三,〇三〇	絹糸、麻、繩索	二,九〇三,〇三〇
毛織物	一	絹織物	一八,二六〇	麻織物	一	麻織物	一,〇〇〇	毛織物	三三二	絹織物	一,九二二,五三六	麻織物	五	毛織物	一〇,六〇〇	絹織物	一〇,六〇〇	麻織物	一〇,六〇〇	毛織物	一〇,六〇〇
靴、帽子、其他	六九	靴、帽子、其他	三三,二〇〇	靴、帽子、其他	四三九	靴、帽子、其他	二二九,〇〇〇	靴、帽子、其他	八,四四三	靴、帽子、其他	四,〇五二,六四〇	靴、帽子、其他	四,八六一	靴、帽子、其他	二,四三〇,五〇〇	靴、帽子、其他	二,四三〇,五〇〇	靴、帽子、其他	二,四三〇,五〇〇	靴、帽子、其他	二,四三〇,五〇〇
紙、印刷物	三三	紙、印刷物	七,一〇〇	紙、印刷物	一,〇九九	紙、印刷物	二七六,九〇〇	紙、印刷物	三,八〇〇	紙、印刷物	一,四四五	紙、印刷物	四九六,五〇〇	紙、印刷物	六三二	紙、印刷物	二,三〇〇,九〇〇	紙、印刷物	二,三〇〇,九〇〇	紙、印刷物	二,三〇〇,九〇〇
石、炭等	四九	石、炭等	二三,六七一	石、炭等	九七七	石、炭等	四四,五七八	石、炭等	三七四	石、炭等	二〇六,八五四	石、炭等	八五七	石、炭等	九六,四五四	石、炭等	九六,四五四	石、炭等	九六,四五四	石、炭等	九六,四五四
鋼、鉄	二	鋼、鉄	七五六,六〇〇	鋼、鉄	四,三三三	鋼、鉄	二七,一六五八	鋼、鉄	八	鋼、鉄	一,四二四	鋼、鉄	一九二	鋼、鉄	九,一六三	鋼、鉄	九,一六三	鋼、鉄	九,一六三	鋼、鉄	九,一六三
鐵、鋼	二	鐵、鋼	二五五	鐵、鋼	九八九	鐵、鋼	二八,五七〇	鐵、鋼	一,四二四	鐵、鋼	一八二,二七二	鐵、鋼	二,〇三二	鐵、鋼	二六,一八〇	鐵、鋼	二六,一八〇	鐵、鋼	二六,一八〇	鐵、鋼	二六,一八〇
其他ノ金、銀	一	其他ノ金、銀	一,二六〇	其他ノ金、銀	三七〇	其他ノ金、銀	一一,〇〇〇	其他ノ金、銀	二,〇八一	其他ノ金、銀	六二四,三〇〇	其他ノ金、銀	三,七六五	其他ノ金、銀	一,二九五,〇〇〇	其他ノ金、銀	一,二九五,〇〇〇	其他ノ金、銀	一,二九五,〇〇〇	其他ノ金、銀	一,二九五,〇〇〇
其他ノ雜品	二〇五	其他ノ雜品	四七,一四四	其他ノ雜品	四一八	其他ノ雜品	一〇,〇六〇	其他ノ雜品	四,三九〇	其他ノ雜品	九八二,九一五	其他ノ雜品	三,〇四二	其他ノ雜品	八三五,三〇〇	其他ノ雜品	八三五,三〇〇	其他ノ雜品	八三五,三〇〇	其他ノ雜品	八三五,三〇〇

品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量		
其他ノ鐵製品	七三三	其他ノ鐵製品	五一三,〇〇〇	其他ノ鐵製品	一八五	其他ノ鐵製品	二二九,五〇〇	其他ノ鐵製品	六,八九七	其他ノ鐵製品	四,八二七,九〇〇	其他ノ鐵製品	三,〇三二	其他ノ鐵製品	二,二二二,四〇〇	其他ノ鐵製品	二,二二二,四〇〇	其他ノ鐵製品	二,二二二,四〇〇	其他ノ鐵製品	二,二二二,四〇〇	其他ノ鐵製品	二,二二二,四〇〇
陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	二,二八七	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	三四三,〇五〇	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	一,一三六	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	一七〇,四〇〇	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	三九八	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	四九,九七六	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	八三三八	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	三,二一一,三三三	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	三,二一一,三三三	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	三,二一一,三三三	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	三,二一一,三三三	陶磁器、煉瓦、スレイト、瓦	三,二一一,三三三
硝子、硝子、同製品	三四五	硝子、硝子、同製品	五五,〇〇〇	硝子、硝子、同製品	五七八	硝子、硝子、同製品	一〇三,九八〇	硝子、硝子、同製品	二五七	硝子、硝子、同製品	八〇,〇七〇	硝子、硝子、同製品	三七〇	硝子、硝子、同製品	一四一,〇八〇	硝子、硝子、同製品	一四一,〇八〇	硝子、硝子、同製品	一四一,〇八〇	硝子、硝子、同製品	一四一,〇八〇	硝子、硝子、同製品	一四一,〇八〇
自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	七〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	二九,四〇〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	五	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	四,〇〇〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	七,一五九	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	七,八九九,二〇〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	五三〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	五〇,一四〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	五〇,一四〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	五〇,一四〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	五〇,一四〇	自動車、自働車、計量器、時計、衡器、其他ノ機械類	五〇,一四〇
豆、糟、植物	二,七八五	豆、糟、植物	一,五八八,六〇〇	豆、糟、植物	二,三八六	豆、糟、植物	九五〇,六八〇	豆、糟、植物	九,三三〇	豆、糟、植物	一,〇九七,五三二	豆、糟、植物	二,六〇八	豆、糟、植物	二,六〇八	豆、糟、植物	二,六〇八	豆、糟、植物	二,六〇八	豆、糟、植物	二,六〇八	豆、糟、植物	二,六〇八
海産、人造肥料	二,二五八	海産、人造肥料	五七,三三二	海産、人造肥料	一〇,二八二	海産、人造肥料	八二五,八四〇	海産、人造肥料	二,三六五	海産、人造肥料	二〇三,一三五	海産、人造肥料	八六三	海産、人造肥料	二,二四,九五四	海産、人造肥料	二,二四,九五四	海産、人造肥料	二,二四,九五四	海産、人造肥料	二,二四,九五四	海産、人造肥料	二,二四,九五四
木材、竹材、薪、炭、木製品等	四,二五八	木材、竹材、薪、炭、木製品等	一,二〇〇	木材、竹材、薪、炭、木製品等	一〇,二八二	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五	木材、竹材、薪、炭、木製品等	二,三六五
農具	一〇	農具	一,二〇〇	農具	一〇,二八二	農具	二,三六五	農具	二,三六五	農具	二,三六五	農具	二,三六五	農具	二,三六五	農具	二,三六五	農具	二,三六五	農具	二,三六五	農具	二,三六五
燐製	一〇	燐製	一,二〇〇	燐製	一〇,二八二	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五	燐製	二,三六五
蘭製	一〇	蘭製	一,二〇〇	蘭製	一〇,二八二	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五	蘭製	二,三六五
蕪製	一〇	蕪製	一,二〇〇	蕪製	一〇,二八二	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五	蕪製	二,三六五
化學製品	一〇	化學製品	一,二〇〇	化學製品	一〇,二八二	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五	化學製品	二,三六五
石化製品	一〇	石化製品	一,二〇〇	石化製品	一〇,二八二	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五	石化製品	二,三六五
石鹼	一〇	石鹼	一,二〇〇	石鹼	一〇,二八二	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五	石鹼	二,三六五
ゴム及同製品	七九	ゴム及同製品	一〇六,六五〇	ゴム及同製品	八	ゴム及同製品	一一,〇〇〇	ゴム及同製品	一,九五五	ゴム及同製品	二,六三六,五五〇	ゴム及同製品	二,三九九	ゴム及同製品	三,五九八,五〇〇	ゴム及同製品	三,五九八,五〇〇	ゴム及同製品	三,五九八,五〇〇	ゴム及同製品	三,五九八,五〇〇	ゴム及同製品	三,五九八,五〇〇
其他ノ雜品	二,三九三	其他ノ雜品	四,七六一,三〇〇	其他ノ雜品	四二二	其他ノ雜品	八四,〇〇〇	其他ノ雜品	二,二五五	其他ノ雜品	五〇四,八五〇	其他ノ雜品	三,七六六	其他ノ雜品	七九七,二二〇	其他ノ雜品	七九七,二二〇	其他ノ雜品	七九七,二二〇	其他ノ雜品	七九七,二二〇	其他ノ雜品	七九七,二二〇
合計	二六七,〇〇〇	合計	五,七三三,九三三	合計	二二二,〇九七	合計	四,五三三,三三四	合計	二二八,四四〇	合計	六,八〇三,三〇七	合計	一一四,三三七	合計	三,五五八,六九九	合計	三,五五八,六九九	合計	三,五五八,六九九	合計	三,五五八,六九九	合計	三,五五八,六九九

最後に朝鮮貿易が内國貿易として取扱はるゝに至りたる大正十年以後、累年の内地對朝鮮貿易と、本港對朝鮮貿易との比較關係を見るに其比率左の如し。

年次	内地對朝鮮貿易		本港對朝鮮貿易		別	
	移 出	移 入	移 出	移 入	移 出	移 入
大正十年	一五、四八、五七五	一九七、五二、六四六	二二、三六、五五三	一七、四九、二九〇	〇、一四	〇、二〇
大正十一年	一六、二四七、〇三六	一九七、九二四、七二二	一四、八四五、九三三	二二、七九五、三三九	〇、〇九	〇、二二
大正十二年	一六、七四三、三五〇	二四一、二六二、四三七	三五、五四八、六九九	四三、三六三、三六四	〇、二二	〇、二九
大正十三年	三六、六〇、〇〇〇	三二一、八〇、〇〇〇	六八、〇三、三〇七	五七、七七、九三三	〇、三三	〇、二七

即ち全國に對する割合は前掲比較表に示す如く敢て樂觀を許さざるも其價額比率共に遞増の趨勢に在り。殊に十二・十三の兩年は稍見るべき發展を告げ居れるは、蓋し朝鮮國內の産業狀態の發展と、本港對朝鮮海運貿易が漸次進展しつゝあるに因るものと云ふべき乎。



役荷船繫先地立埋易貿國外



役荷船繫上島易貿國內



國產波止棧橋繫船狀況



國產波止場荷役狀況

第六章 倉庫

第一節 普通倉庫及出入貨物

本市内に於ける主要倉庫業者の經營する所謂六大普通倉庫の大正十三年末現在に於ける總坪數は五萬四千八百五十三坪にして、之を前年に比較するに四千三百五十九坪を増加せり。今前記營業者名及所屬坪數を表示すれば左の如し。

營業者名	所在地	十二年末坪數	十三年末坪數	(十) 增 (一) 減
三菱倉庫株式會社神戸支店	市內東川崎町一丁目	一六、七七〇	一六、七九三	(十) 三
東神倉庫株式會社神戸支店	市內濱加納町六丁目	一四、九七八	一六、八〇八	(十) 一、八三〇
森本倉庫株式會社	市內磯上通一、二、三丁目	五、六五三	六、八八一	(十) 一、一三九
兵庫倉庫株式會社	市內宮内町、小川通	二、九二四	二、八九三	(一) 三
川西倉庫株式會社	市內東尻池町大竹濱、寺山	八、七三六	八、二七五	(一) 四六一
住友倉庫株式會社神戸支店	市內東海岸通五丁目	一、八〇四	三、二〇四	(十) 一、四〇〇
計		五〇、四九四	五四、八五三	(十) 四、三五九

以上倉庫に出入せし貨物の価格は、入庫総額五億九千九百四拾壹萬貳千貳百拾貳圓出庫総額六億八百六拾萬九千八百五拾七圓にして、前年よりの繰越高壹億貳百四拾貳萬六千四百九圓なるにより、本年度末現在高は九千參百貳拾貳萬八千七百六拾四圓とす。之を前年に對比するに、入庫に於て壹億五千五百五拾壹萬貳百八拾九圓出庫に於て壹億九千五拾九萬貳千九拾參圓を増額せり。此の比較表を示せば左の如し。

年次	繰越高	入庫高	計	出庫高	年末現在高
大正十二年	七六、五四二 <small>千円</small>	四四三、九〇二 <small>千円</small>	五二〇、四四四 <small>千円</small>	四一八、〇一八 <small>千円</small>	一〇二、四二六 <small>千円</small>
大正十三年	一〇二、四二六	五九九、四一二	七〇一、八三八	六〇八、六一〇	九三、二二八
増一減	(+) 二五、八八四	(+) 一五五、五一〇	(+) 一八一、三九四	(+) 一九〇、五九二	(-) 九、一九八

尤も前記計数は外國貨物を包含するが故に、これが實額を知らんせせば、前述の倉庫業者經營に係る私設保税倉庫假置場及輸出入上屋の入出庫價額を控除せざるべからず。本節に記する價額は總て然り。
次に森本倉庫株式會社を除く前述五大普通倉庫保管料定率を示せば次の如し。

定

- 一、保管料ハ從價率ト從量率トニ依リ算出合計シタルモノトス
- 二、從價率ハ一ヶ月ニ付左ノ通りトス
 - 普通品 危險價額又ハ申込價額ノ千分ノ一、五
 - 危險品 A級 同 千分ノ二、〇
 - 危險品 B級 同 千分ノ二、三
- 三、消費稅未済ノ移入糖ハ定率ノ外其稅額ノ千分ノ一、五ヲ附加ス
- 四、從量率ハ左表ニ掲ク但本表ニ記載ナキ貨物ハ表中類似品ニ準據ス
- 五、保管料ハ曆日ニ依リ一ヶ月ヲ一日ヨリ十五日迄十六日ヨリ末日迄ノ二期ニ分チ全月又ハ半ヶ月分チ申受クベシ
- 六、入庫貨物一口ノ保管料一ヶ月金壹圓ニ滿タザルモノハ定率ニ拘ハラズ一ヶ月ニ付金壹圓ヲ申受クベシ
- 六、倉荷證券替ノ節ニハ新證券壹通ニ付金貳拾錢ノ手数料ヲ申受クベシ

保管料從量率 (壹ヶ月定)

品目	荷造	單量	單位	料率	品目	荷造	單量	單位	料率	
(普通品)	穀物	米	俵(呔)	一石	六錢五厘	雜穀及種子	同	同	一石	七錢五厘
		同	袋	二百斤迄	參錢五厘		同	袋	二百斤迄	參錢五厘
		同	同	同	貳錢		同	同	同	貳錢五厘
		同	同	同	貳錢		同	同	同	貳錢五厘
◎ 雜穀及種子	同	同	同	同	貳錢	◎ 肥料	同	同	同	八錢
		同	同	同	貳錢		同	同	同	四錢五厘
		同	同	同	貳錢		同	同	同	四錢五厘
		同	同	同	貳錢		同	同	同	四錢五厘

神戸港大観

東神倉庫株式會社神戸支店	市內濱邊通八丁目、加納町	二、八三七	(二)	四四七
日本郵船株式會社神戸支店	市內六丁目、東出町一丁目	一、八一	(十)	三三
住友倉庫株式會社神戸支店	市內東出町二丁目、前町	一、九二六	(二)	一、〇一八
三菱倉庫株式會社神戸支店	市內濱邊通八丁目	三、五二一	(十)	三
川西倉庫株式會社	市內東川崎町一丁目	一、〇	(十)	三〇
臺灣製糖株式會社神戸製糖所	市內東尻池町大竹濱	一、六五	(二)	一〇〇
紐育スタンダード石油株式會社	兵庫縣武庫郡魚崎町横屋	二、〇〇三	(二)	七七
△株式會社川崎造船所	市內脇濱三丁目	三三	(十)	三三
△明治製糖株式會社神戸工場	市內東尻池町六丁目	六七	(十)	六七
計		二三、七二四		四四六

備考 △印は大正拾參年中増設に係ものなり

官私設保税倉庫に入出庫せし貨物は、總額參千六百六拾六萬六千餘圓、此噸數八萬三千三百五十噸にして、出庫貨物は總額參千參百貳拾五萬八千餘圓、此噸數九萬三千七百四十五噸なり。而して本年入庫總額を當港輸入總額拾壹億七千七百參萬九千餘圓に對比するに、三分の割合を占む。又入出庫貨物の品種別を觀るに入庫にありては石油の四百五拾壹萬圓を第一とし、機械類四百四拾參萬六千圓、毛織物參百四拾九萬貳千圓、砂糖百八拾貳萬圓、米百五拾萬八千圓等之に

次ぐ。之を昨年と比較すれば左の如し。

品名	入		出		年		現	在	高
	十三年	十二年	十三年	十二年	十三年	十二年			
米	一、五〇八	一、五〇八	一、五〇八	一、五〇八	八五三	八五三	七三	(二)	二〇
豆類	七二五	七二五	七二五	七二五	四〇	四〇	六	(二)	三
穀物及種子	一、六六九	一、六六九	一、六六九	一、六六九	五五七	五五七	九	(二)	五五八
砂糖	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	一、三三六	一、三三六	五三三	(二)	八三
酒類	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、二六	一、二六	一四四	(十)	二八
皮革類	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、三二	一、三二	二九七	(十)	一六〇
石油	四、二八二	四、二八二	四、二八二	四、二八二	二、三九六	二、三九六	二、一六三	(二)	二三四
藥品類	七六八	七六八	七六八	七六八	三三	三三	一九一	(二)	一三六
綿織物	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	二八	二八	八二	(十)	五四
毛織物	三、五四九	三、五四九	三、五四九	三、五四九	六三	六三	一、二四六	(十)	六二五
紙類	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	四九五	四九五	四六四	(十)	九
鐵條竿板	六八八	六八八	六八八	六八八	六九八	六九八	七二四	(十)	二六
他ノ金屬類	一、七三	一、七三	一、七三	一、七三	七九七	七九七	七四六	(二)	一一
機械類	四、四五三	四、四五三	四、四五三	四、四五三	二、〇〇八	二、〇〇八	三、〇八〇	(十)	一、〇六三
其他雜品	九、〇〇二	九、〇〇二	九、〇〇二	九、〇〇二	三、六八	三、六八	六、六五八	(十)	三、〇〇〇
計	三九、六〇九	三九、六〇九	三九、六〇九	三九、六〇九	一三、九六七	一三、九六七	一七、〇七六	(十)	三、〇一九

尙又本年入出庫貨物の數量を各月に依り、既往兩年を對比すれば次表に示す

月次	入		出	
	十二年入庫	十三年入庫	十二年出庫	十三年出庫
一	10,340	3,456	8,546	13,470
二	9,241	2,858	6,643	8,409
三	3,230	8,233	1,585	13,331
四	8,022	5,866	11,729	9,092
五	12,959	3,744	10,962	7,485
六	14,425	6,291	6,413	3,679
七	13,935	4,791	18,183	4,979
八	24,667	4,944	16,237	3,355
九	39,920	10,797	19,833	8,464
十	34,044	8,273	44,067	6,883
計	78,981	83,530	191,684	93,749

東神三菱住友の三會社經營に係る私設保税倉庫貨物保管料定率を次に示す

- 一、保管料ハ從價率ト從量率トニ依リ算出合計シタルモノトス
二、從價率ハ一ヶ月ニ付左ノ通りトス

- 普通 物品 保險價格又ハ申込價格ノ千分ノ一、八
危險品A級及B級 同 千分ノ二、七
- 三、從量率ハ左表ニ掲グ但シ本表ニ記載ナキ貨物ハ表中類似品ニ準據ス
四、貴重品其他ノ高價品ニ付テハ前記所定ノ料率ニ據ラス保險價格又ハ申込價格ノ千分ノ二、七乃至六、三ヲ以テ一ヶ月ノ保管料トス
五、保管料ハ曆日ニ依リ一ヶ月ヲ一日ヨリ十五日迄十六日ヨリ末日迄ノ二期ニ分テ全月分又ハ半ヶ月分ヲ申受クヘシ
六、入庫貨物一口ノ保管料一ヶ月金壹圓ニ滿タサルモノハ定率ニ拘ハラヌ一ヶ月ニ付金壹圓ヲ申受クヘシ
七、倉荷證券書替ノ節ニハ新證券一通ニ付金貳拾錢ノ手数料ヲ申受クヘシ

保管料從量率表 (一ヶ月定)

網目	細目	單量	單位	料率
(普通品)	第一、穀物及種子	二百斤迄	一個	四錢四厘
	同	百斤迄	同	參錢貳厘
	麥粉及澱粉類	二百五十磅迄	一個	四錢四厘
第二、麥粉及澱粉類	同	百封度迄	同	參錢貳厘
	同	五十封度迄	同	壹錢參厘
第三、砂糖	砂糖(袋又ハ笈入)	百斤	百斤	貳錢參厘
	同 (籠入)	同	同	四錢五厘
同	同	同	同	參拾錢
	同	同	同	同

第四、酒類	酒類(國入)	一才	四錢四厘
第五、食料罐及瓶詰類	食料罐及瓶詰類	一才	參錢貳厘
第六、絲類	各種絲類	一才	貳錢參厘
第七、敷物及地氈類	フェルト、ジュート、ラガス、天鷲絨、氈壘布類、リノリウム	一才	參錢
第八、織物類	毛織物、毛綿交織物、絹綿交織物、麻織物	一才	貳錢五厘
	絹織物	同	參錢
	絹毛交織物	同	參錢
第九、衣服及附屬品類	糸織物	同	參錢六厘
	衣服及附屬品	一才	參錢貳厘
第十、紙類	各種洋紙及唐紙	同	七錢五厘
	各種洋紙及唐紙	百斤	六錢參厘
第十一、玻璃及同製品類	窓用玻璃、其他厚物、大形物等	同	六錢八厘
	竝ニ同製品	百平方尺入	七錢五厘
第十二、金屬及同製品類	銅管、竿	同	七錢五厘
	鉛管、卷鉛板	同	拾錢五厘
	ニツケル、錫、アルミニウム、亞鉛、真鍮	同	拾錢五厘
	黃銅板、鉛塊、型銅等	同	四錢五厘
	鐵管(徑五吋未満)	同	五錢參厘

第十二、金屬及同製品類	鐵材(條、竿、板等) 鐵線及洋釘 葉鐵 亞鉛板 亞鉛引平浪板 鐵、螺旋釘、時計、彈器、傘骨、チエンプロック等	同 四百廿斤 同 同 同	一噸 百斤 百封度 一個 同 同	四拾八錢 四錢四厘 壹錢八厘 貳拾參錢 貳拾七錢 拾貳錢
第十三、皮革類	各種皮革類	同	百斤	拾九錢
第十四、藥材及染料塗料類	明礬、重曹及曹達灰(袋入) 苛性曹達 其他藥材、危險品ニアラサルモノ 洋藍、紅花	同 同 同 同	百斤 百封度 一才 百斤	參錢八厘 六錢參厘 五錢五厘 貳拾五錢
第十五、學術用器具及機械類	學術及學術用器具、樂器、寫真機、眼鏡等 諸機械類	同 同	一才 一才	拾錢 四錢
第十六、雜品類	文房具	同	一才	五錢參厘
	化粧用品	同	同	五錢參厘
	革細工品及ゴム製品	同	同	四錢
	海綿、石綿、靴墨、骨灰等	同	同	參錢八厘
	籐(丸又、割)	同	同	參拾八錢
	堅木類	同	同	五錢參厘
	軟木類	同	同	五錢七厘
洋膠	同	同	六錢參厘	

本年中前記假置場内に移入せし貨物の総額は、千百五萬七千九百貳拾八圓、十五萬九千四百六十七噸にして此内外國貨物は九百八拾八萬八千七百拾七圓、内國貨物百拾六萬九千貳百拾壹圓なり。移出貨物は總額千五百四拾八萬八千九百六拾壹圓、輸入貨物千貳拾參萬六千四百四拾四噸にして、其内譯は積戻貨物貳百七拾九萬四千五百參拾壹圓、移出内國貨物八拾萬參千五百參拾五圓なり。之を前年に比較するに、移入價額に於て百參萬五千六百五拾參圓、移出價額に於て四百七拾參萬四千六百八拾四圓を増加せり。尙本年中に於ける假置場利用状況を掲表せば次の如し

本年中假置場移出入貨物價額表

品名	移入		移出	
	積戻	其他	積戻	其他
穀物及種子	一四、四八七	—	—	—
飲食物	七、〇七八	—	—	—
皮毛骨角類及同製品	五、七九二	—	—	—
油脂蠟及同製品	六、一六二	—	—	—
藥劑化學藥及製藥類	—	—	—	—
染料顏料及塗料類	—	—	—	—
絲纜繩索及同材料	—	—	—	—
布帛及同製品	—	—	—	—
衣類及同附屬品	—	—	—	—
紙及同製品書畫	—	—	—	—
礦物及同製品	—	—	—	—
陶磁器及硝子類	—	—	—	—
鐵及金屬	—	—	—	—
金銀製品	—	—	—	—
時計、學術器及機械類	—	—	—	—
雜品	—	—	—	—
合計	三、〇〇〇	—	—	—

品名	移入		移出	
	積戻	其他	積戻	其他
穀物及種子	—	—	—	—
飲食物	—	—	—	—
皮毛骨角類及同製品	—	—	—	—
油脂蠟及同製品	—	—	—	—
藥劑化學藥及製藥類	—	—	—	—
染料顏料及塗料類	—	—	—	—
絲纜繩索及同材料	—	—	—	—
布帛及同製品	—	—	—	—
衣類及同附屬品	—	—	—	—
紙及同製品書畫	—	—	—	—
礦物及同製品	—	—	—	—
陶磁器及硝子類	—	—	—	—
鐵及金屬	—	—	—	—
金銀製品	—	—	—	—
時計、學術器及機械類	—	—	—	—
雜品	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

假置場移出入貨物月別噸數表 (既住兩年對比)

月次	大正十二年		大正十三年		大正十二年		大正十三年	
	入	出	入	出	入	出	入	出
一月	二,三三八	八,三六六	(一)	四,九四二	八,四〇九	六,七六四	(一)	一,六四五
二月	七,七六九	三,三三五	(十)	一四,四八六	八,七九二	八,九〇八	(十)	二二七
三月	一〇,八〇四	三,九六六	(十)	二,一六三	九,七四二	一〇,三七二	(十)	六二九
四月	六,六五〇	八,七二四	(十)	二,〇六四	五,九三三	六,五四六	(十)	六三四
五月	四,〇七六	一〇,五六三	(十)	六,四八七	七,一五五	二,三九六	(十)	一,三四一
六月	二,二〇四	一九,六六九	(十)	七,四六五	三,八二四	五,六〇七	(十)	一,七九三
七月	九,三三四	一一,四六九	(十)	二,三三五	六,二一九	二,六二七	(十)	二〇,一四八
八月	一一,〇六八	七,九六八	(一)	三,〇〇〇	八,八八三	一一,七九	(十)	二,八三七
九月	九,六九六	九,四一六	(一)	二,八〇〇	八,七九八	八,二二〇	(一)	六七八
十月	二,八四七	二,八七八	(十)	一,五一一	一一,九二五	七,七九九	(一)	四,一六
十一月	二,八四七	二,二〇九	(十)	九,三六二	六,一四三	二,一八〇	(十)	六,〇三七
十二月	一五,三三一	一三,〇四四	(一)	二,二八七	二,八四四	八,三六七	(十)	五,五五三
合計	一二五,七六四	一五九,四六七	(十)	四三,七〇三	八八,五〇四	一三三,〇四四	(十)	四四,五四〇

大正七年以降各年の當港及附近所在の假置場移出入貨物の價額を掲ぐれば次表の如し。

年次	移入		移出		計
	外國貨物	内國貨物	輸入貨物	其他移出貨物	
大正七年	七,五〇九,五三九	三三二,六五三	七,八四二,一九二	一三,〇三三,二五七	一七,七七一,八〇〇
大正八年	七三,二一〇,七四〇	二,六五七,八七五	七五,七六八,六一五	六,二〇七,八一	六二,六五五,五八五
大正九年	四九,三五五,一六一	三,四九三,七二九	五三,七七八,八八〇	四,七三五,八六五	九六,四四四,四三三
大正十年	一一,六〇,七〇	一,三九二,〇二五	一三,〇〇二,三九五	三,五三八,九九六	二八,七三三,九九八
大正十一年	一〇,九三九,五二四	六〇九,五九五	一一,五四五,一八九	一,一四三,九二〇	一二,三三三,五八八
大正十二年	九,〇〇,五三三	九五一,七五二	一〇,〇〇二,二八五	一,八四一,七五四	一一,一六六,五三〇
大正十三年	九,八八,七七七	一,六九,二二二	一一,〇七七,九八八	一,六六〇,六五一	一五,四八八,九六一

假置場移出入貨物の逐年減退せしは關稅定率法第九條を利用するもの漸次増加したる結果なり。

第四節 上屋及出入貨物

本節に記載する上屋は、保稅地域内に在る上屋を指し、大正十三年末に於ける當港及附近に所在する其の總坪數は、官設三萬八千五百六坪、私設三萬五千八百六十四坪、合計七萬四千三百七十坪なり。之を細別すれば次の如し。

神戸港大観

一五八

品別	名	稱	所	在	地	坪	
						大正十二年	大正十三年
設	官	築	第一波止	場	築港内	三、〇三	三、〇三
						二、四二	二、四二
						五、〇〇	五、〇〇
						八、四三	八、〇八
						二、〇〇	二、〇〇
						五、七	五、七
						一〇〇	一〇〇
						二、七〇	三、二六
						一、六五	一、六五
						三、八三	三、八〇
						三、八三	三、八〇
						三、八三	三、八〇
						三、八三	三、八〇
計						四、一〇六	三、八〇六
私	設	三菱倉庫株式會社神戸支店(輸入上屋)	市	東	川崎一丁目	一五、八二八	一四、七四四
						一〇、四一七	八、八三三
						二、七二五	一、四九七
						五、五	三、五三
						七、五	三、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
						五、六〇	八、〇〇
計						四、一〇六	三、八〇六

品別	名	稱	所	在	地	坪	
						大正十二年	大正十三年
設	官	住友倉庫株式會社神戸支店(同)	同	東	出町二丁目	三、六三	一、五八
						一、七九	一、〇七八
						三、〇〇七	一、〇八
						五、七六	五、七六
						一、九七八	一、九九
						四、〇九一	一、〇九一
						三、六三	三、六三
						一、一三四	九三
						三、〇五六	二、八六
						六、〇〇	六、〇〇
						三、〇〇	三、〇〇
						三、〇〇	三、〇〇
						三、〇〇	三、〇〇
計						四七、五七五	三、八六四
私	設	住友倉庫株式會社神戸支店(同)	同	東	出町二丁目	三、六三	一、五八
						一、七九	一、〇七八
						三、〇〇七	一、〇八
						五、七六	五、七六
						一、九七八	一、九九
						四、〇九一	一、〇九一
						三、六三	三、六三
						一、一三四	九三
						三、〇五六	二、八六
						六、〇〇	六、〇〇
						三、〇〇	三、〇〇
						三、〇〇	三、〇〇
						三、〇〇	三、〇〇
計						四七、五七五	三、八六四
合計						八八、七二	七四、三七〇

備考 △印は大正十三年中普通倉庫に変更せしものなり。

前記上屋内外に搬入したる輸出入貨物は、其總量二百八十九萬五千二百二十二噸にして、搬出に係るもの三百五萬四千二百四十七噸、其搬出入總計五百九十四萬九千四百六十九噸なり。之を細別すれば左の如し。

第七章 陸運の概況

第一節 汽 車

(イ) 各驛乗降人員 大正十三年中の當市各驛乗降客總數は一千八百六十一萬一千八十二人にして、内乗客は九百四十三萬卅四人、降客九百十八萬一千四十八人なり。之を一日に平均すれば乗客二萬五千七百六十五人、降客二萬五千八十五人、合計五萬八千五百五十人を吞吐せるの割合にして、前年と比較すれば乗客に於て四十一萬五千百十六人、降客に於て四十二萬三千八百八十五人を増し、一日平均乗客一千六十七人、降客一千八十三人、計二千五百五十人を増せり。之を各驛に就て見るに、三宮驛最も多く乗降總數の三割八厘を占め、神戸驛之に次で一割九分七厘となり、兵庫驛は一割九分五厘に當れり。灘驛の他驛よりも比較的割合高く一割四分三厘に相當せるは、市外居住者の漸次増加せる反映と察せらる。又鐘紡前驛及和田岬驛は、神戸市電開通の結果其の影響を蒙りて著しく減退したり。之を表示すれば次の如し。